

製造業もサービス産業も振るわ
なかった

2018年第1四半期の産業活動

－資料目次－

P 0 1 第1四半期の産業動向

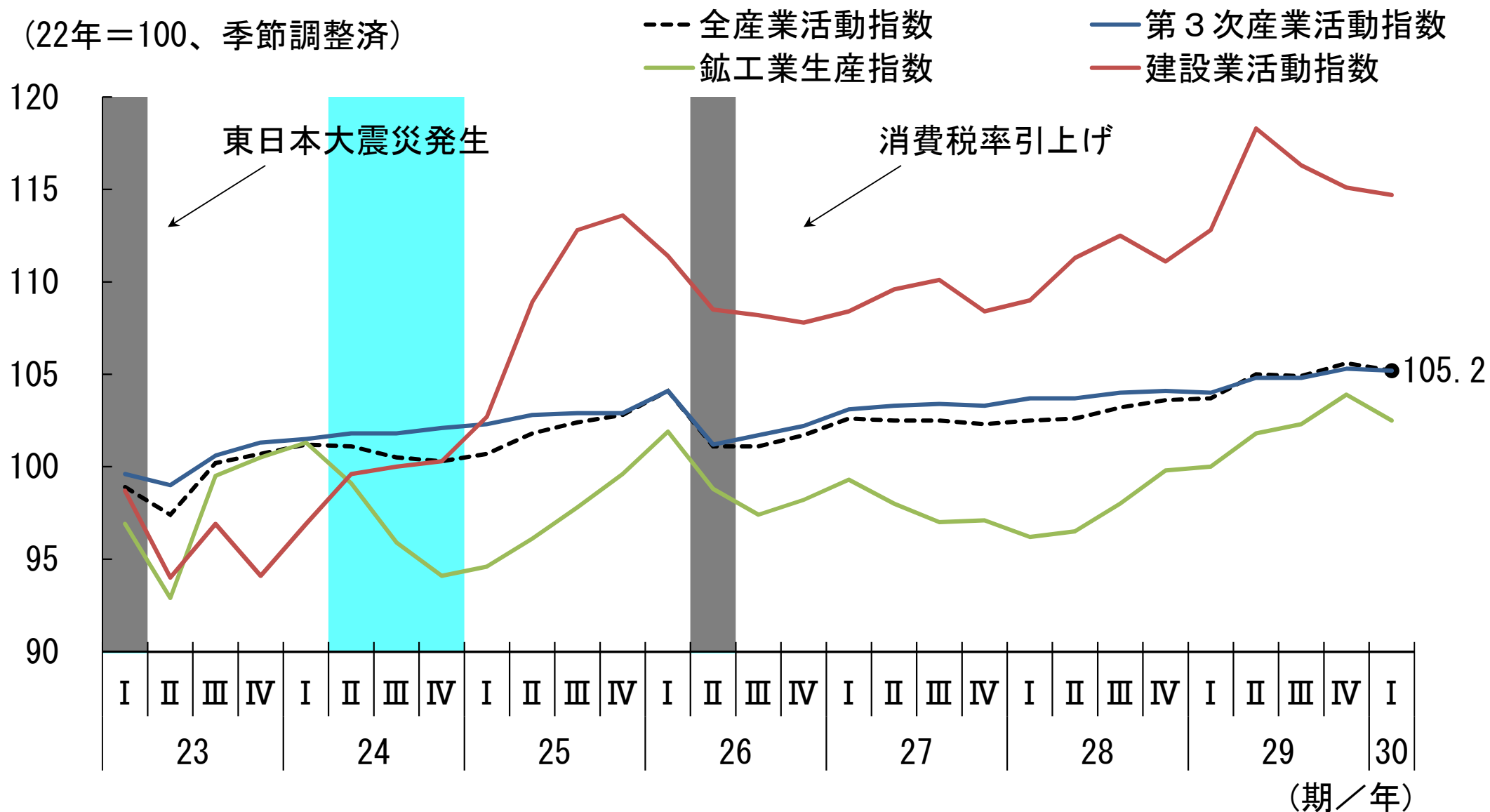
P 1 4 4月の産業動向

P 2 7 5月、6月の製造工業の生産計画

全産業活動指数の動向

・平成30年1-3月期の全産業活動指数は105.2(前期比-0.4%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)



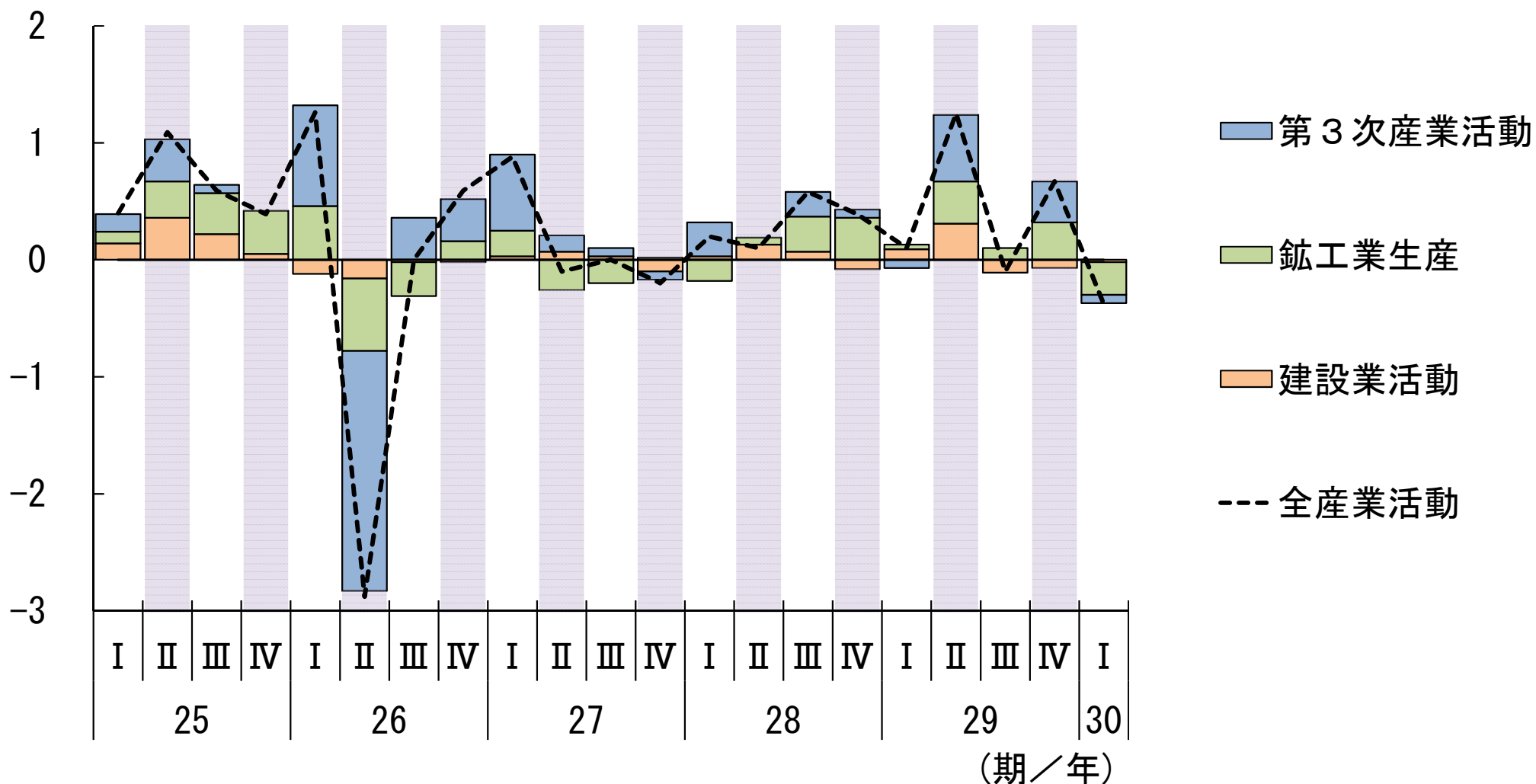
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

全産業活動指数前期比 産業活動別の影響度合い

平成30年1-3月期の全産業活動指数は鉱工業生産などが低下したため、前期比-0.4%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

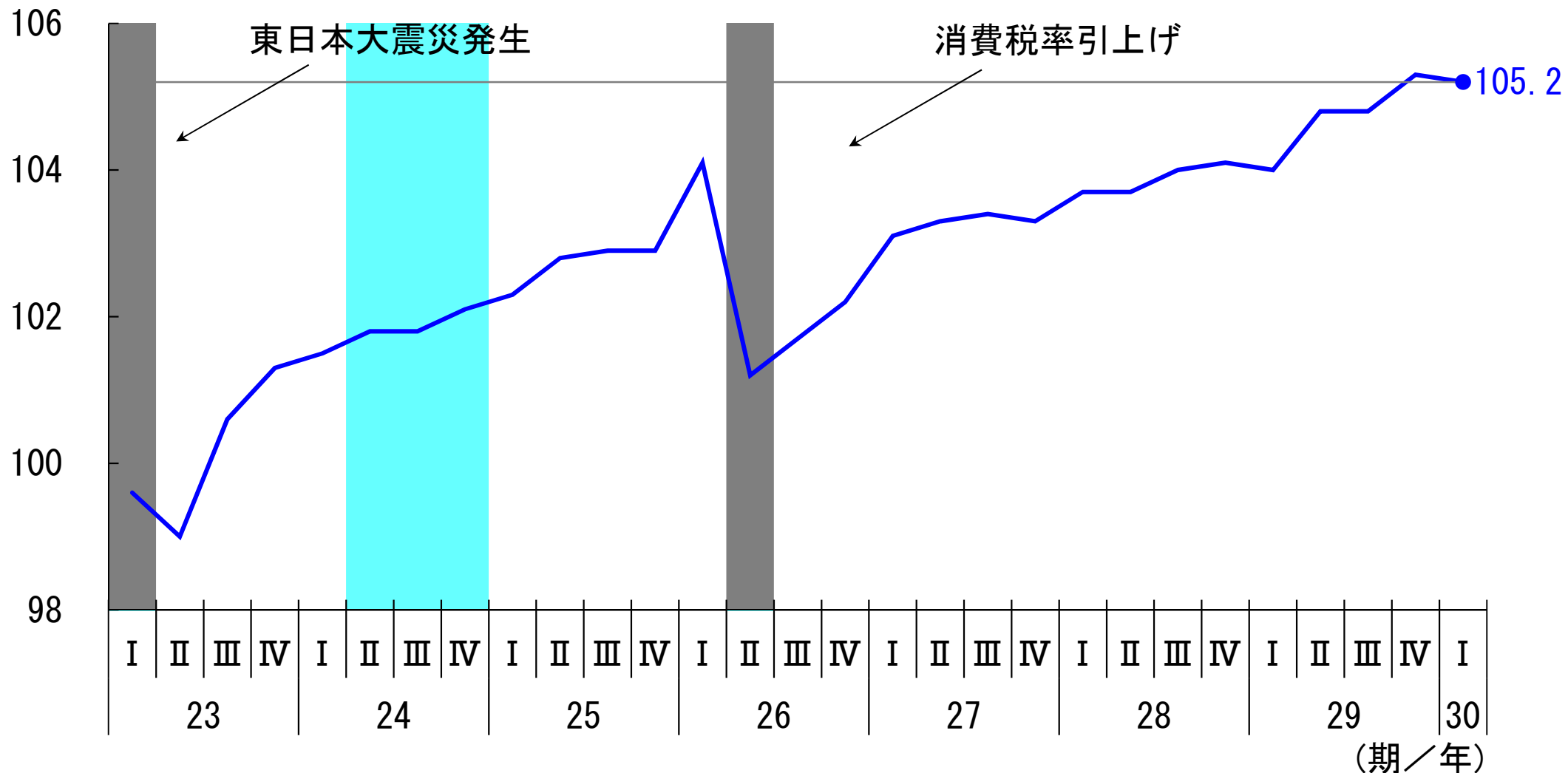


(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

第3次産業活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の第3次産業活動指数は105.2(前期比-0.1%)と4期ぶりの低下。
- ・平成29年7-9月期の104.8以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



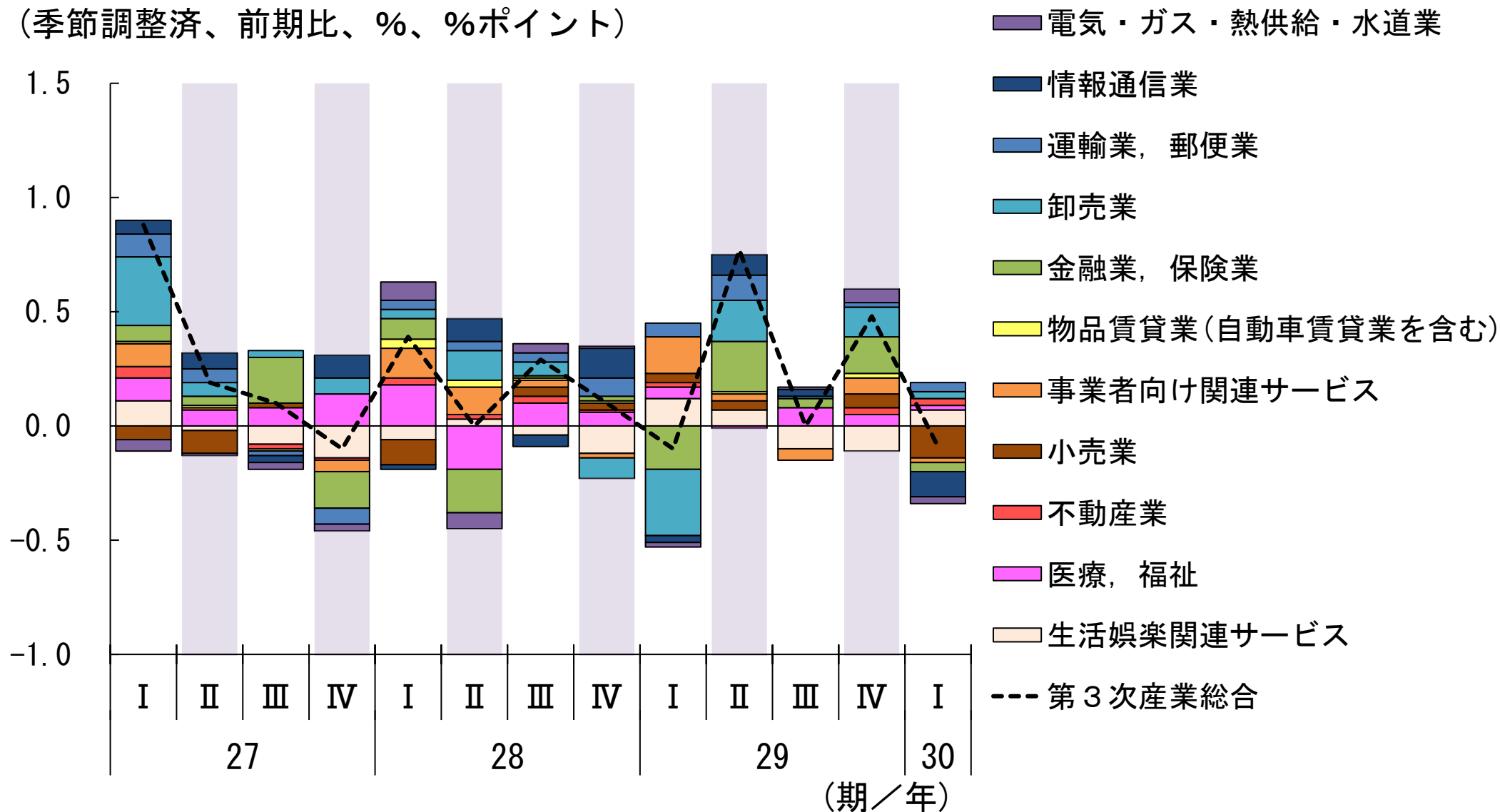
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業活動指数前期比 業種別の影響度合い

・平成30年1-3月期の第3次産業活動指数は、生活娯楽関連サービスなどが上昇したものの、小売業などが低下したため、前期比-0.1%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

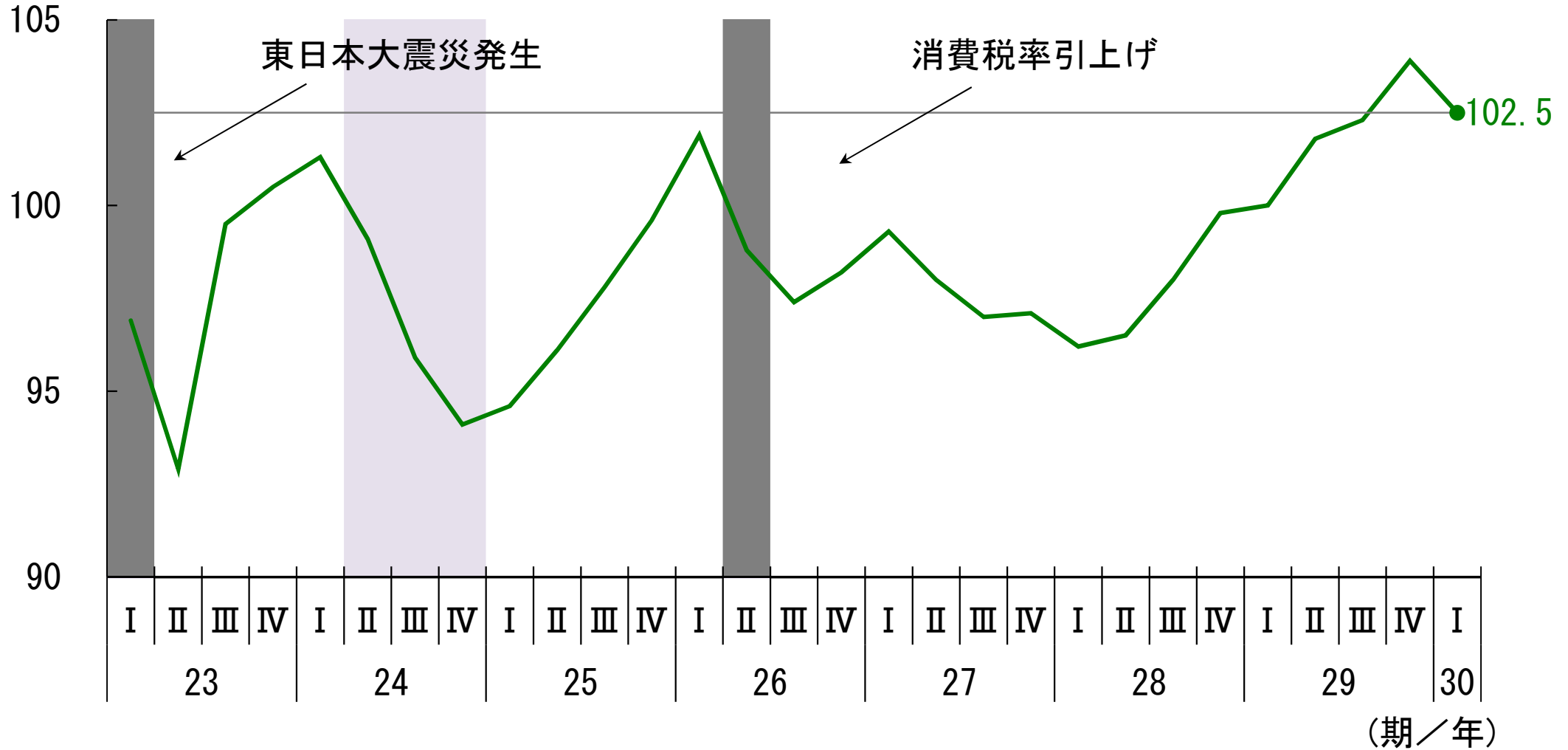


(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

鋳工業生産指数の動向

- ・平成30年1-3月期の鋳工業生産指数は102.5(前期比-1.3%)と8期ぶりの低下。
- ・平成29年7-9月期の102.3以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



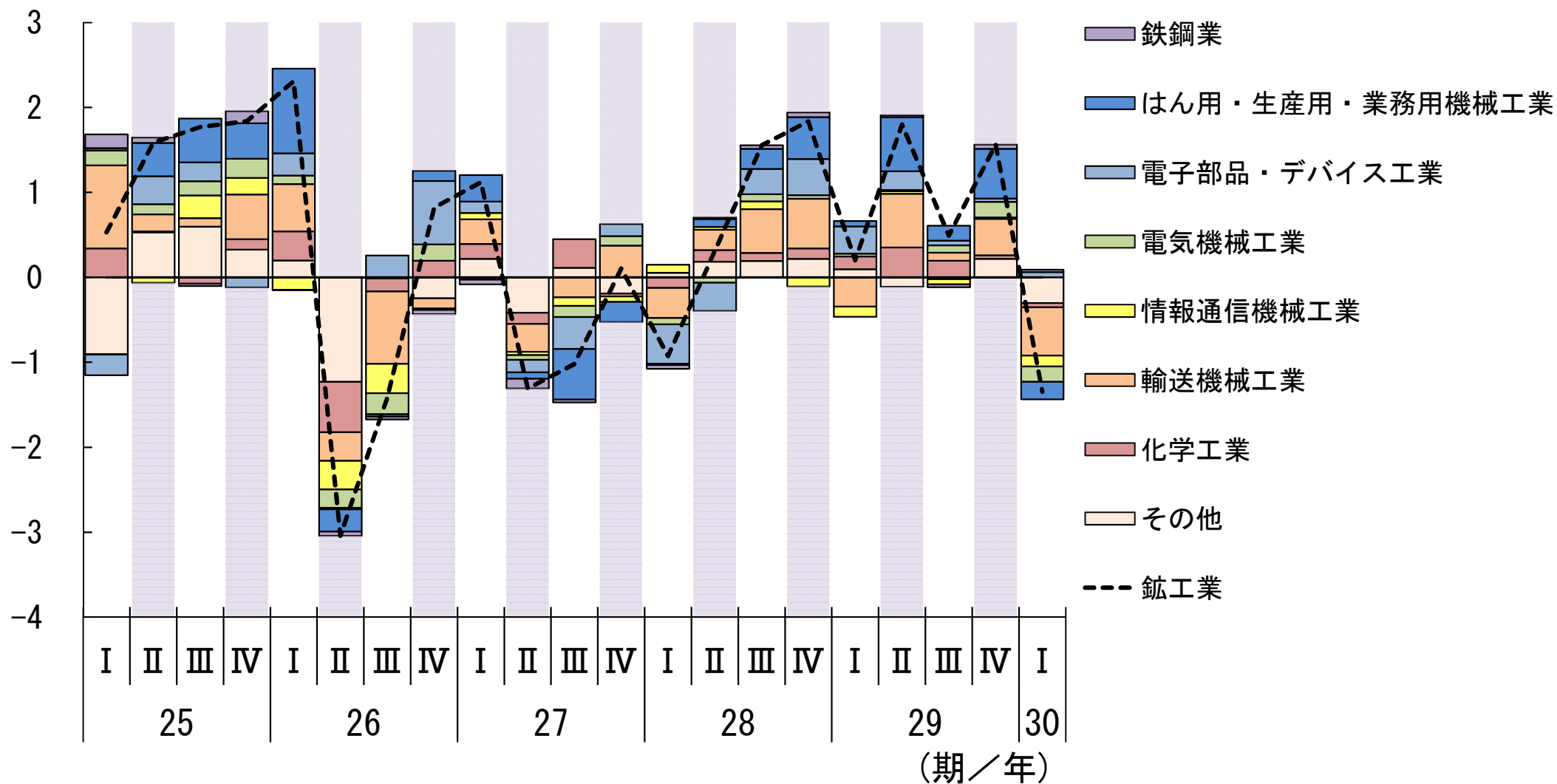
(注) 1. 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標。
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

鉱工業生産指数前期比 業種別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の生産指数は電子部品・デバイス工業などが上昇したものの、輸送機械工業などが低下したため、前期比-1.3%の低下。

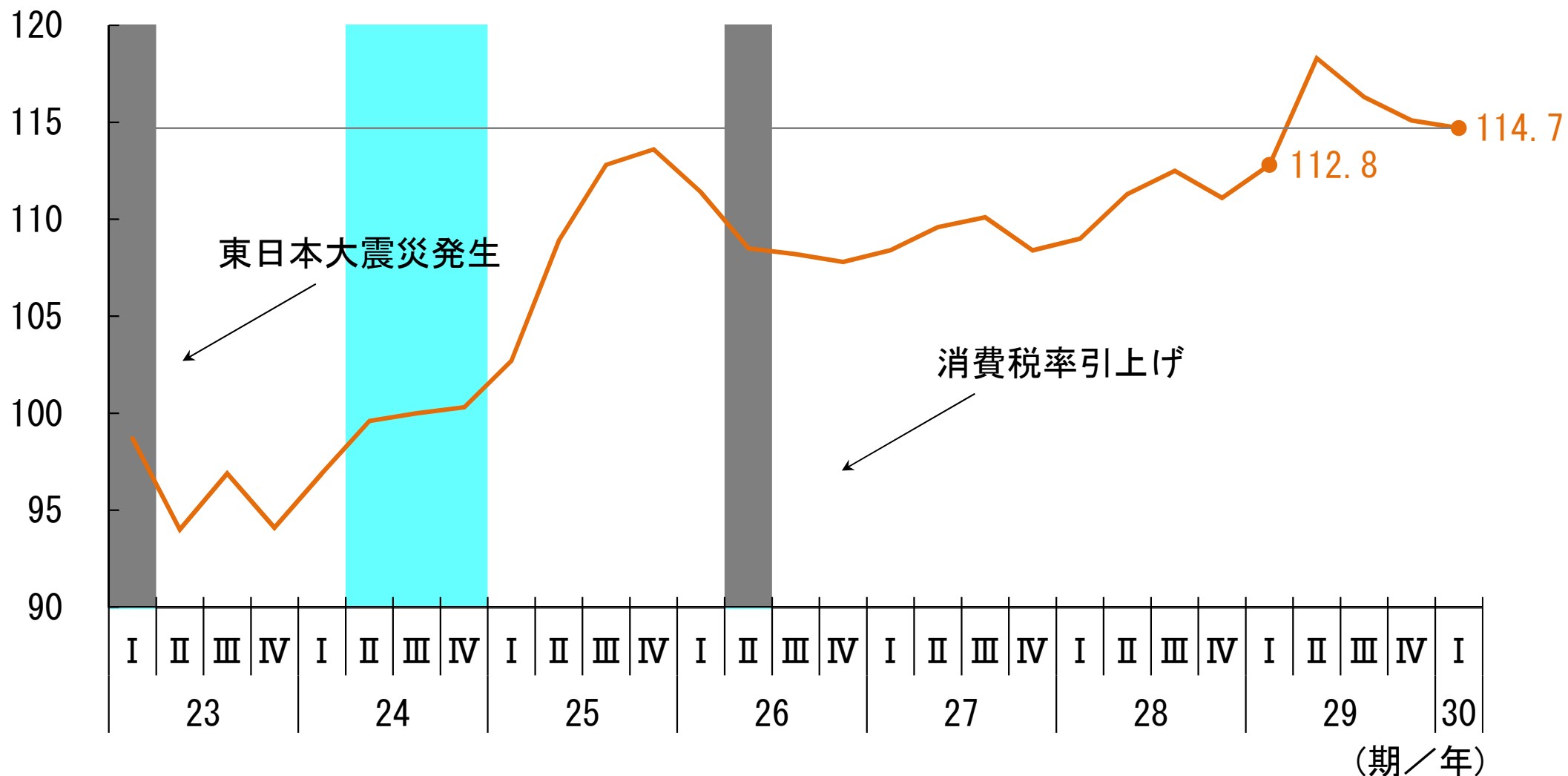
(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



建設業活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の建設業活動指数は114.7(前期比-0.3%)と3期連続の低下。
- ・平成29年1-3月期の112.8以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



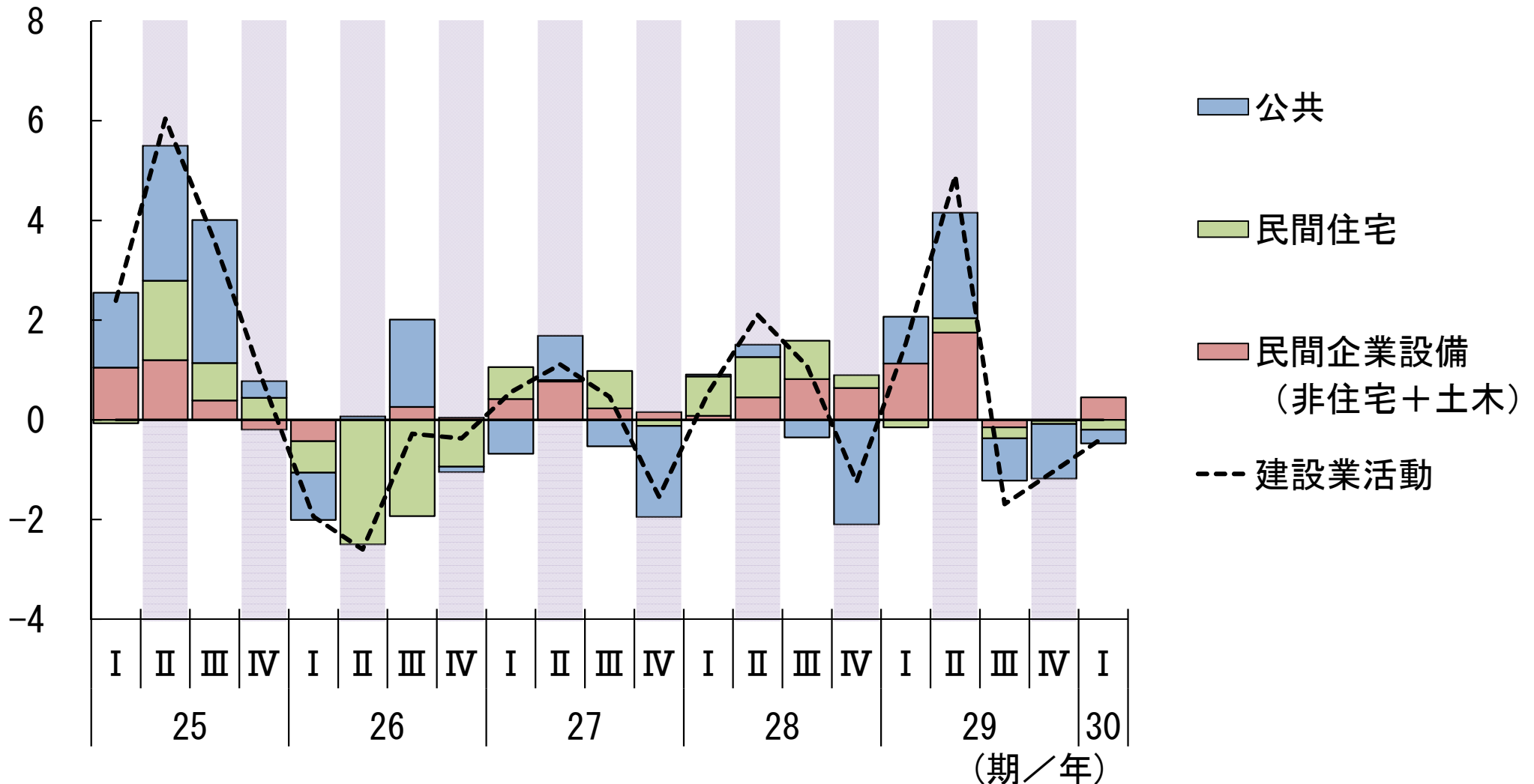
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

建設業活動指数前期比 部門別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の建設業活動指数は民間企業設備（非住宅+土木）が上昇したものの、公共などが低下したため、前期比-0.3%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

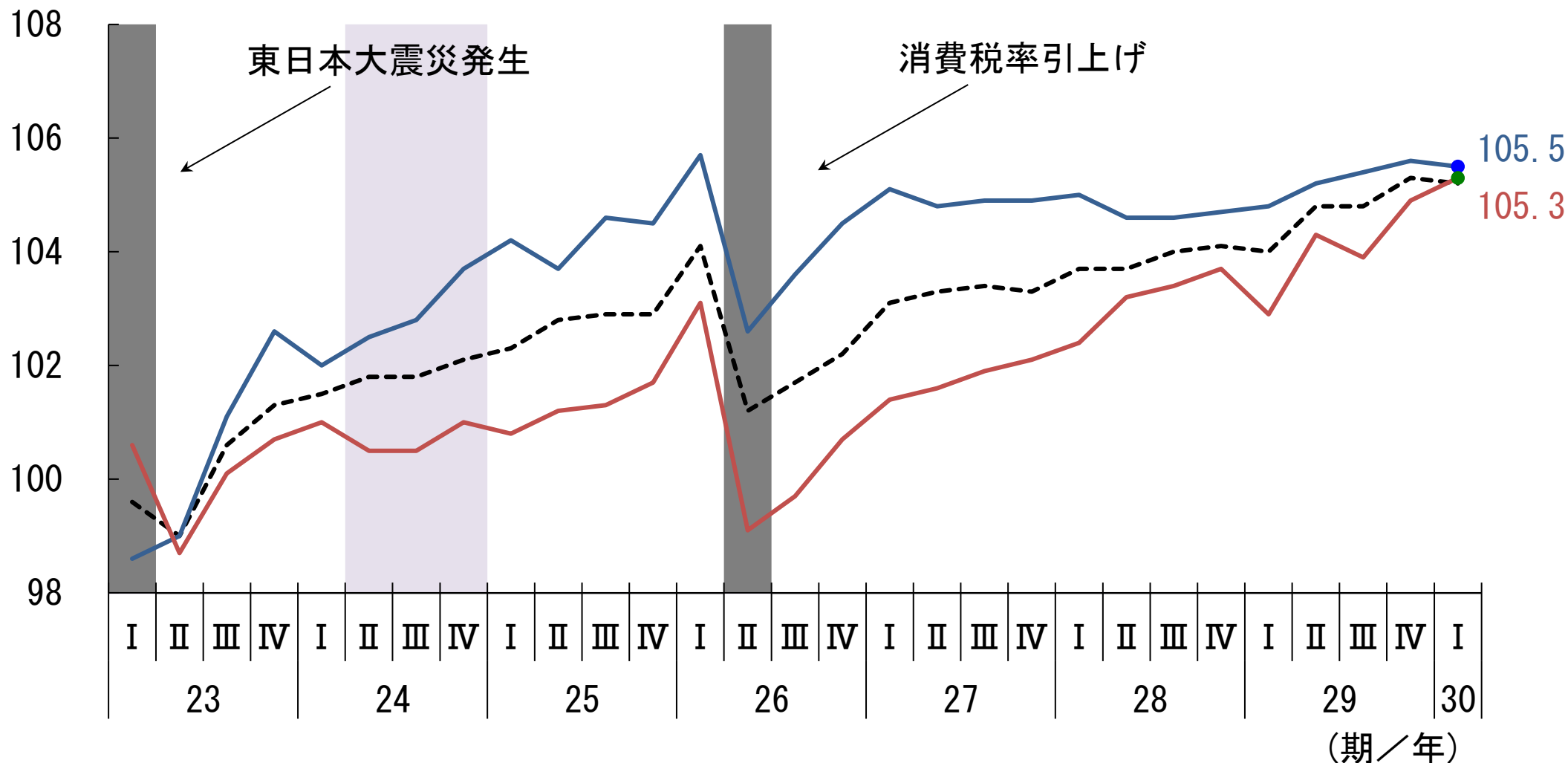


第3次産業活動の動向

広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の広義対個人サービス活動指数は、105.5(前期比-0.1%)と7期ぶりの低下。
- ・広義対事業所サービス活動指数は、105.3(前期比0.4%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済) --- 第3次産業総合 — 広義対個人サービス — 広義対事業所サービス



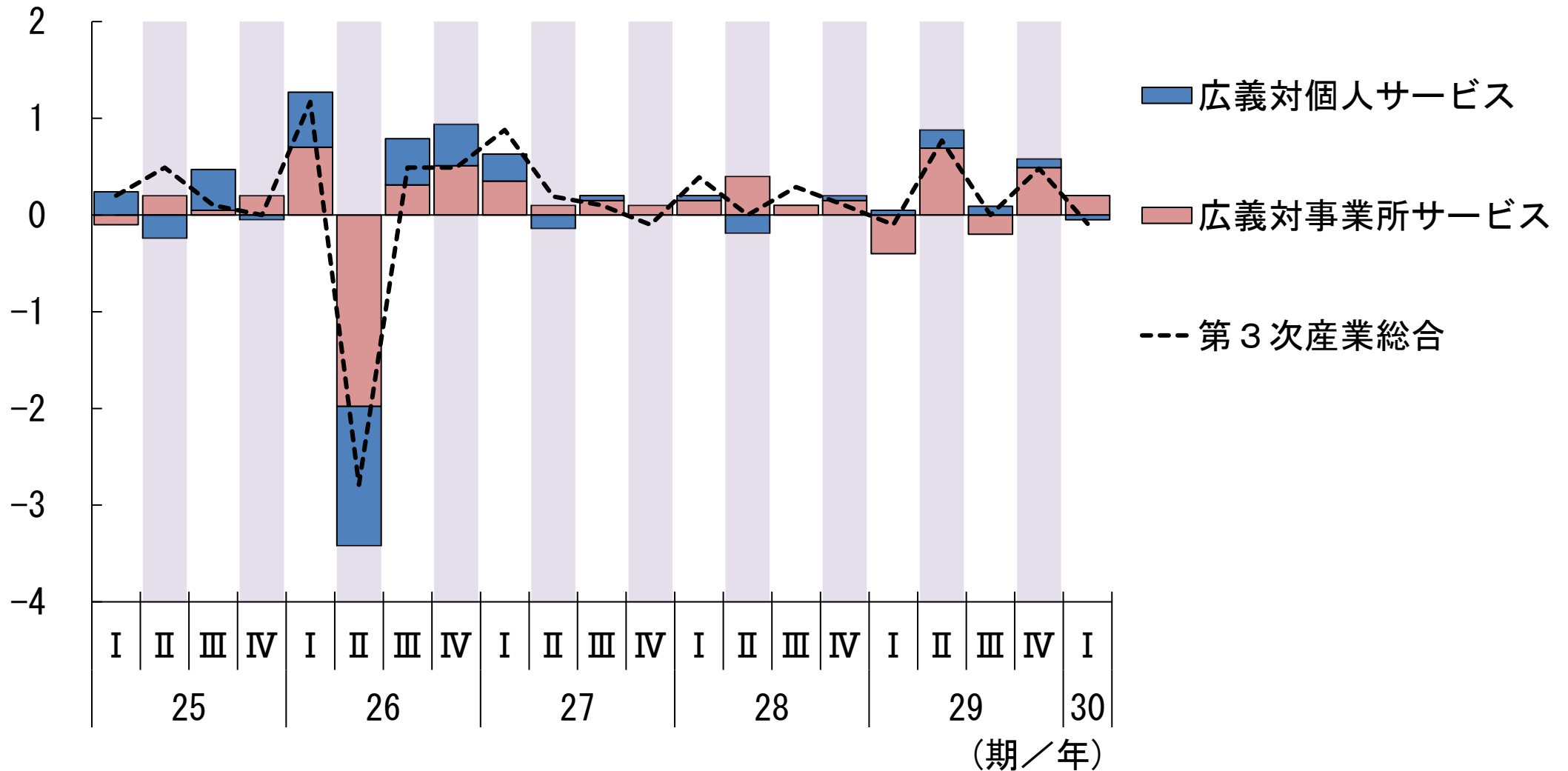
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業総合前期比 広義対個人／広義対事業所サービスの影響度合い

- 平成30年1-3月期の第3次産業活動指数は、広義対事業所サービスが上昇したものの、広義対個人サービスが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

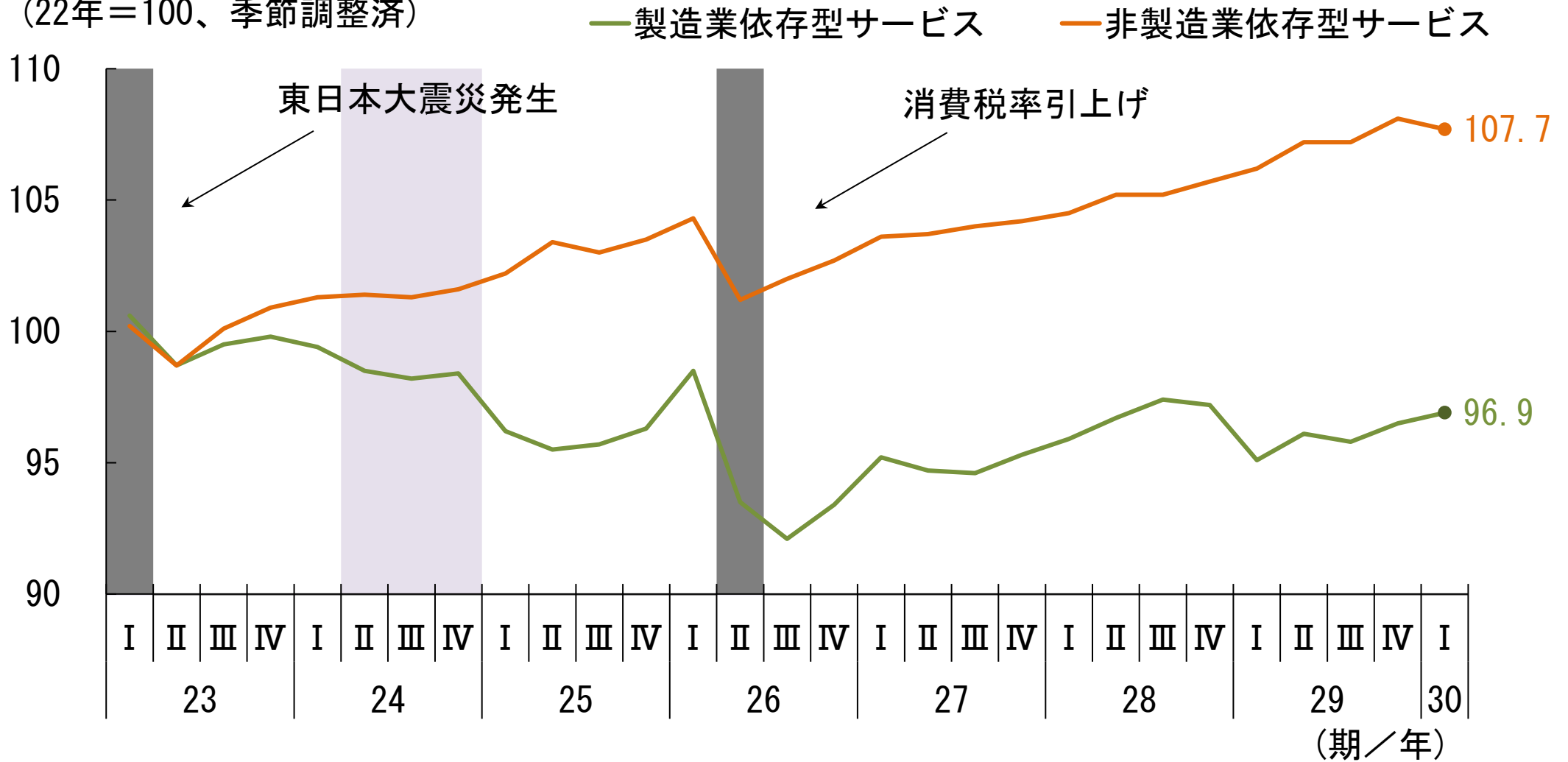


(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

製造業／非製造業依存型 事業所向けサービス活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の製造業依存型サービス活動指数は、96.9(前期比0.4%)と2期連続の上昇。
- ・非製造業依存型サービス活動指数は、107.7(前期比-0.4%)と15期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)



(注)1. 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している。
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

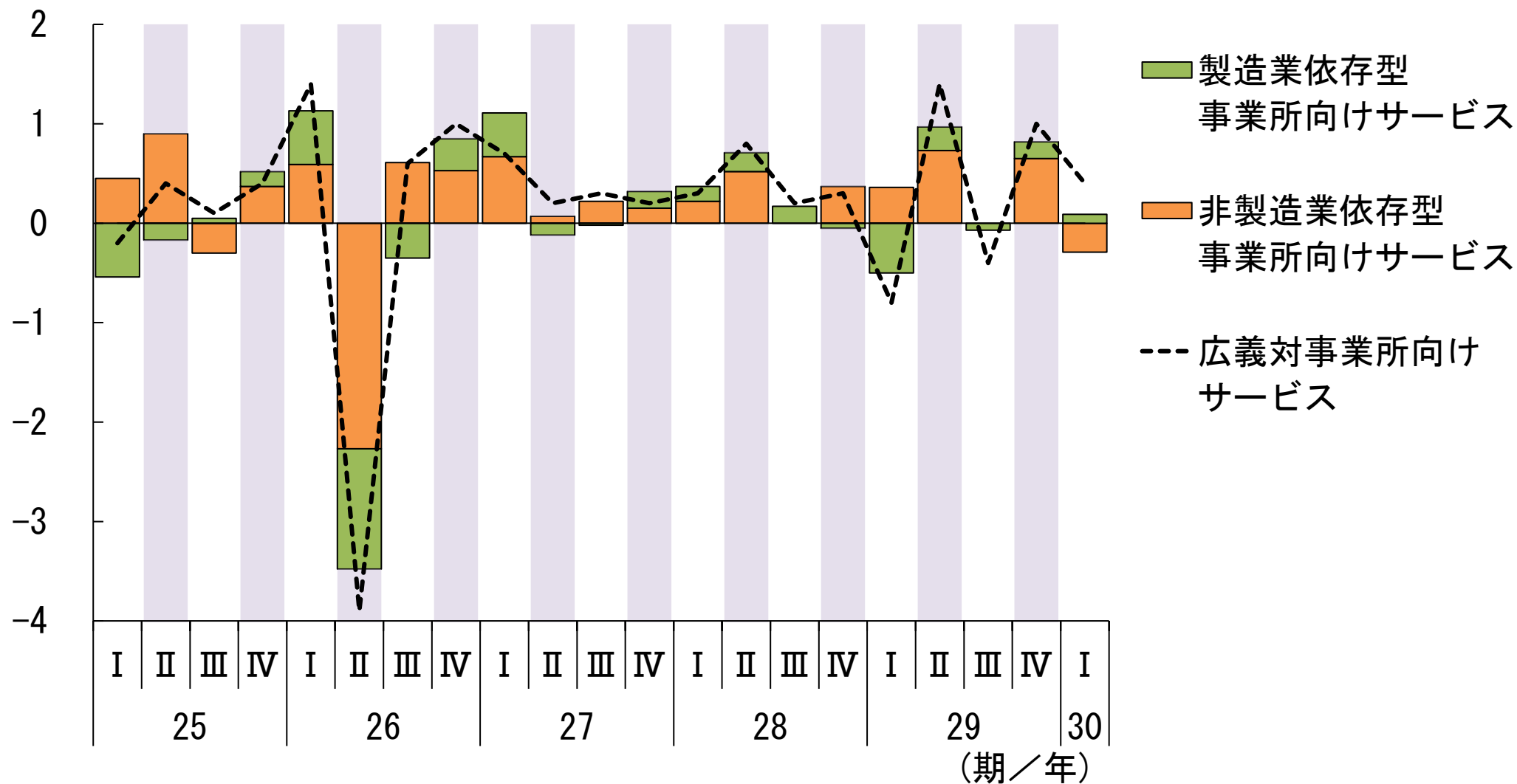
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対事業所向けサービス活動前期比

製造業／非製造業依存型事業所向けサービス別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の広義対事業所サービス活動指数は、非製造業依存型事業所向けサービスが低下したものの、製造業依存型事業所向けサービスが上昇。

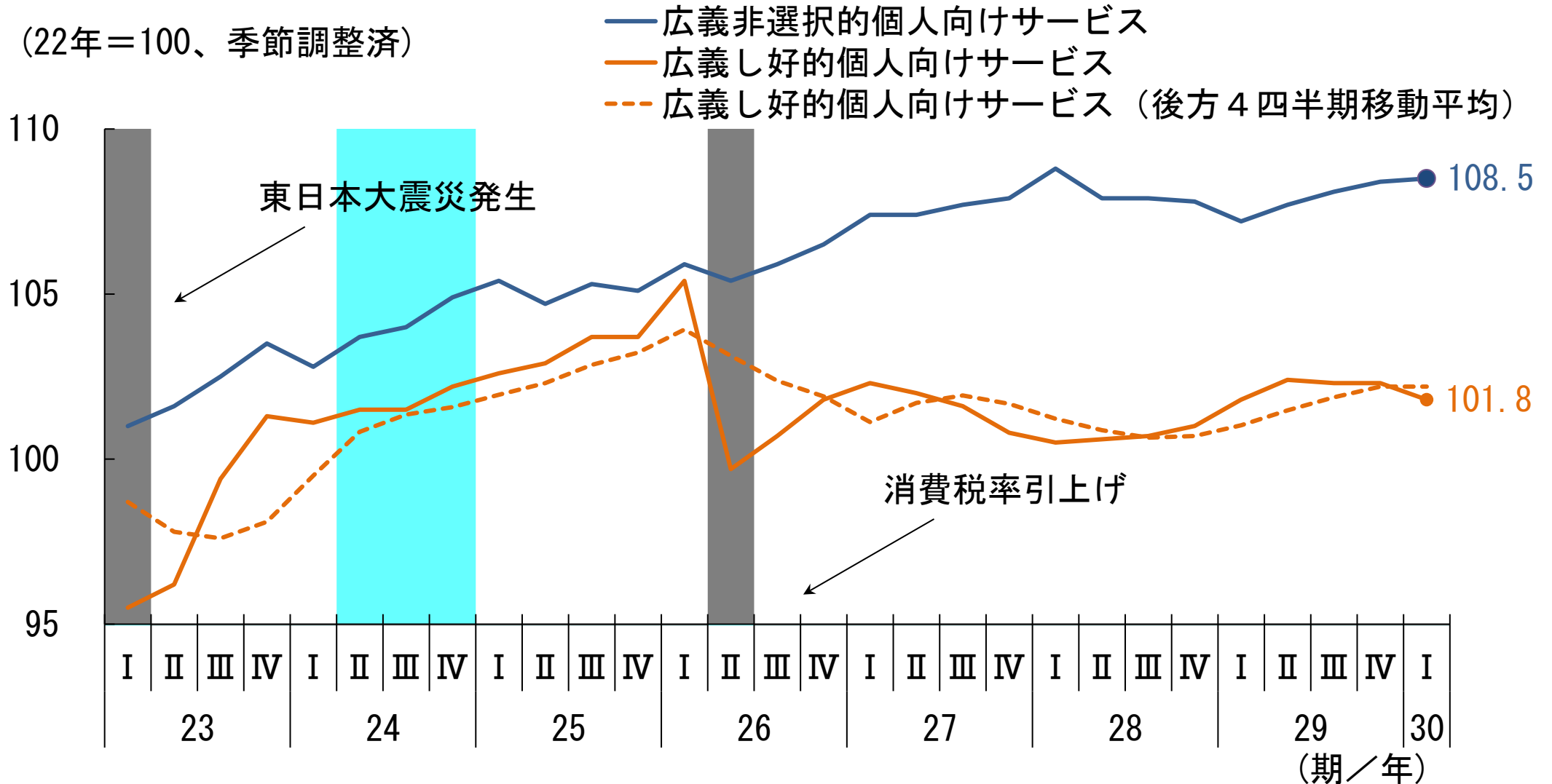
(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、108.5(前期比0.1%)と4期連続の上昇。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、101.8(前期比-0.5%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

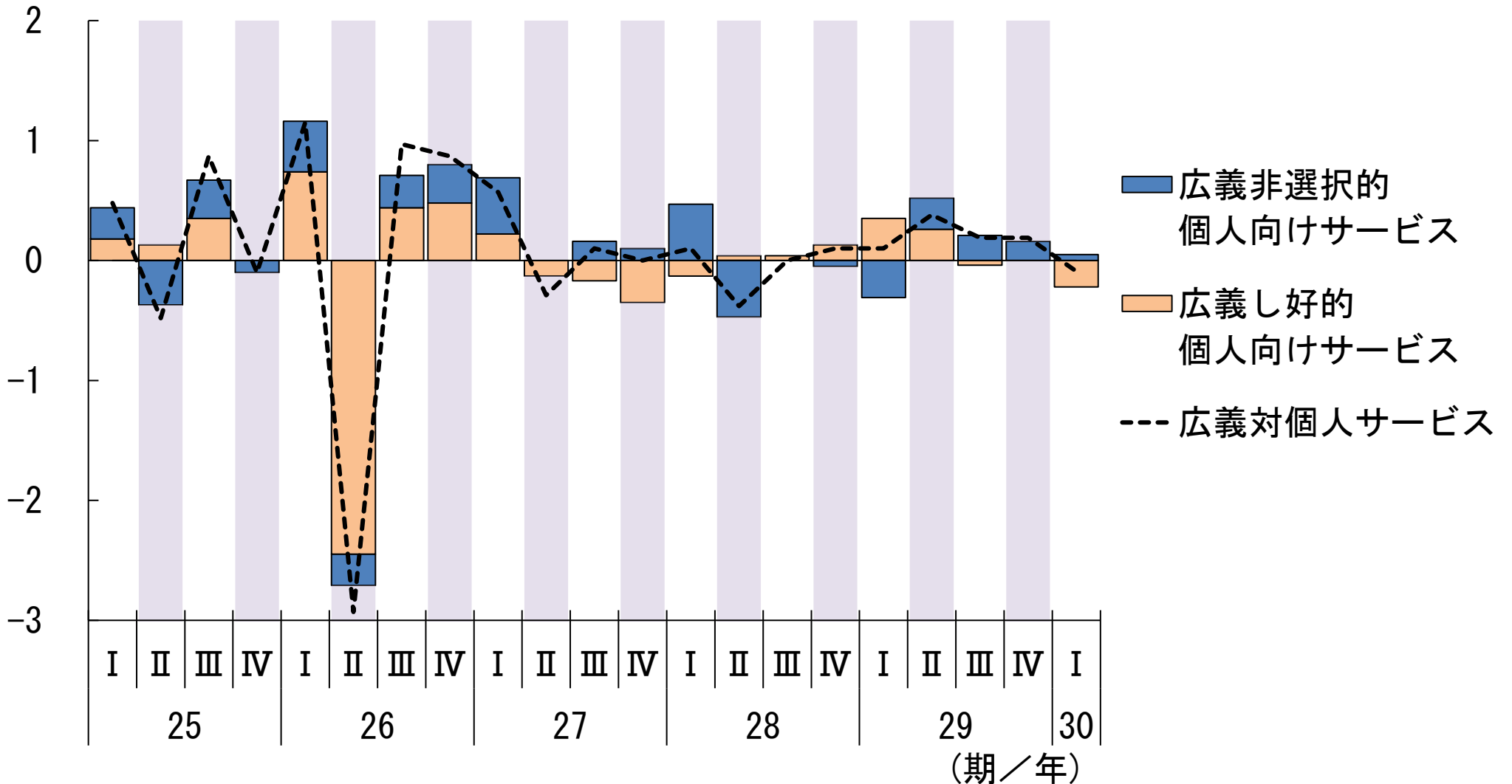
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対個人サービス活動前期比

非選択的／し好的個人向けサービス別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の広義対個人サービス活動指数は、広義非選択的個人向けサービスが上昇したものの、広義し好的個人向けサービスが低下したため、前期比-0.1%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



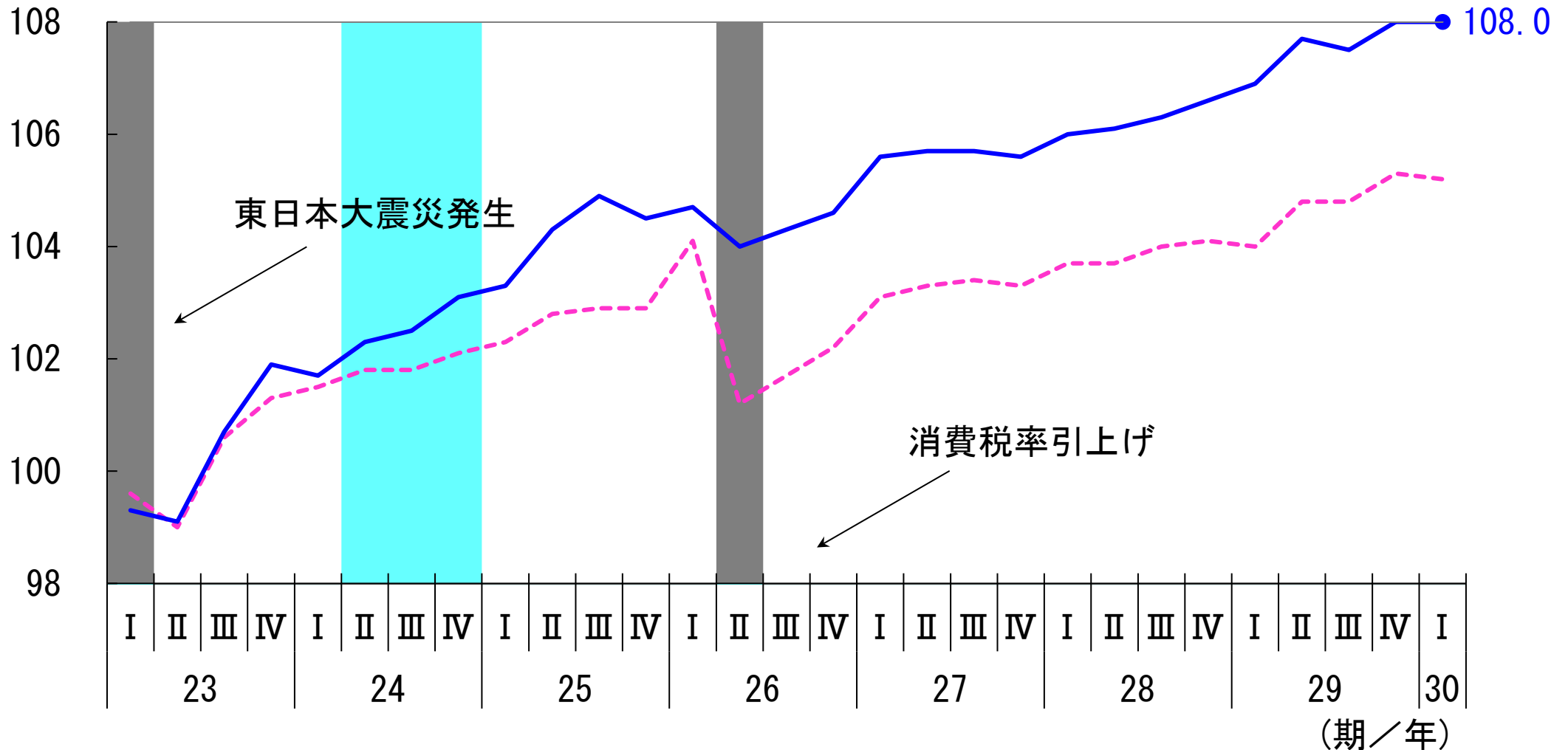
卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数

・平成30年1-3月期の卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数は、108.0(前期比0.0%)と横ばい。

(22年=100、季節調整済)

--- 第3次産業総合

— 除く卸売業、小売業



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

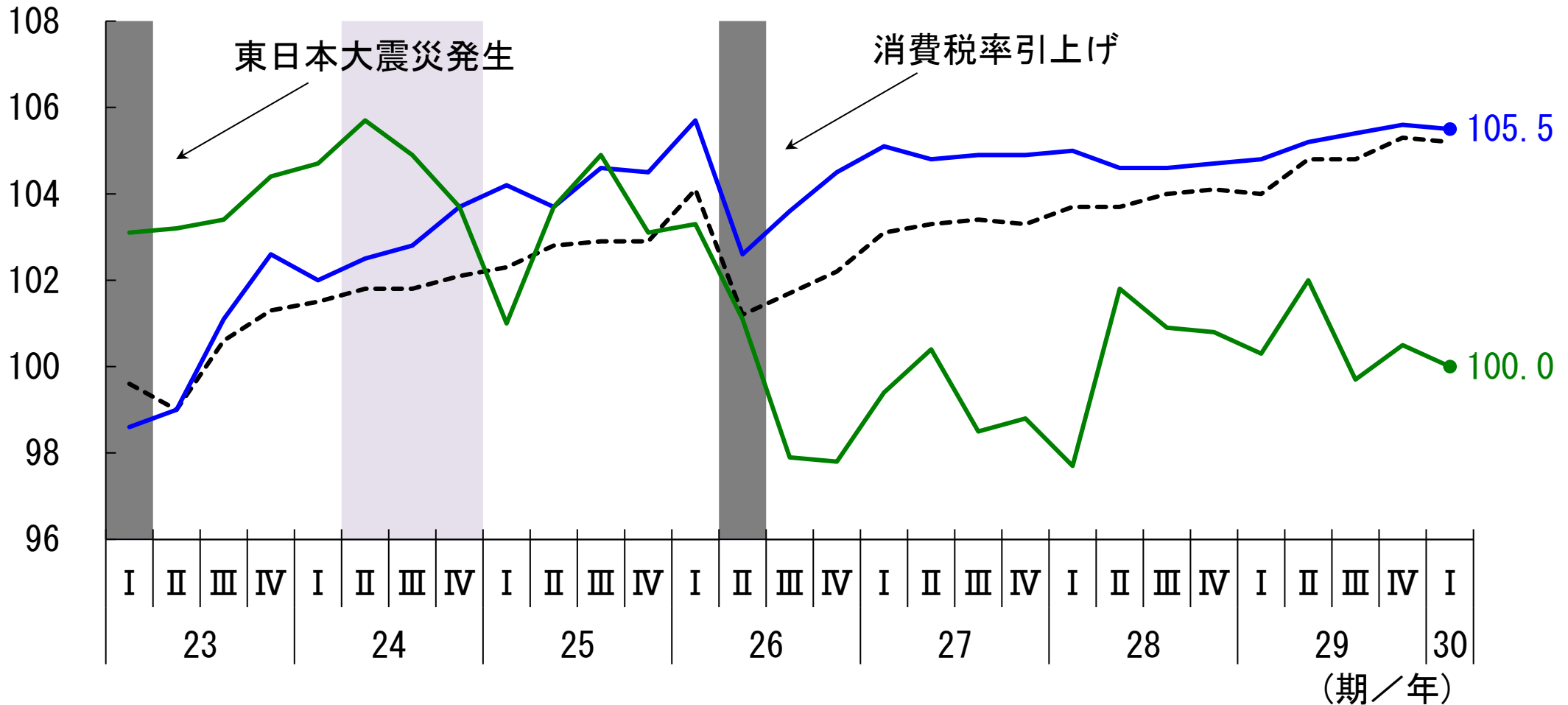
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

消費向け／投資向けサービス活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の消費向けサービス活動指数は、105.5(前期比-0.1%)と7期ぶりの低下。
- ・投資向けサービス活動指数は、100.0(前期比-0.5%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済)

--- 第3次産業総合 — 消費向け — 投資向け

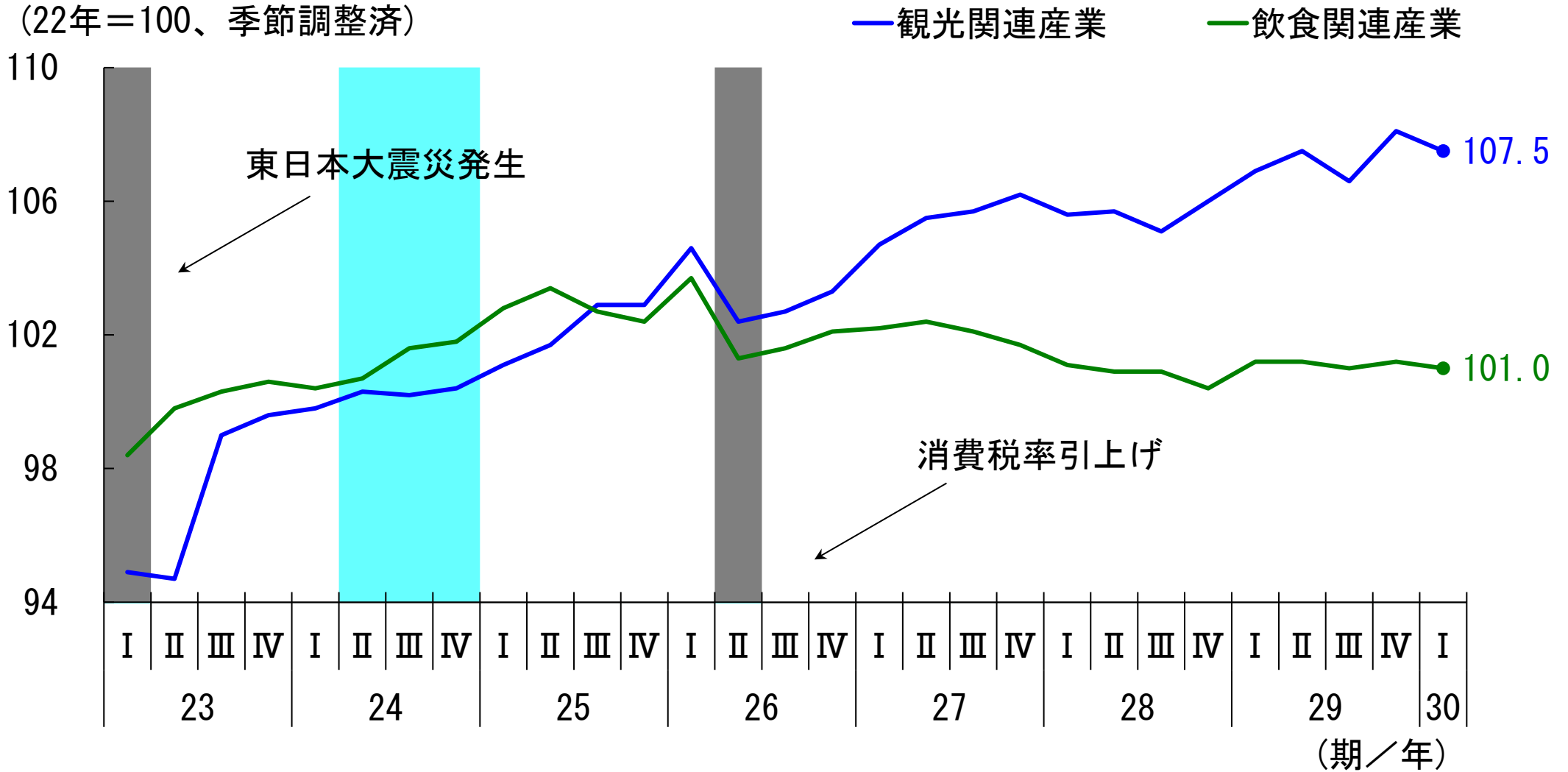


(注) 1. 消費向けサービス活動指数は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス(小売業や娯楽業など)の動きを表す系列。
投資向けサービス活動指数は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス(ソフトウェア開発、機械器具卸売業など)の動きを表す系列。
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

観光関連産業活動指数、飲食関連産業活動指数の動向

- ・平成30年1-3月期の観光関連産業活動指数は、107.5(前期比-0.6%)と2期ぶりの低下。
- ・飲食関連産業活動指数は、101.0(前期比-0.2%)と2期ぶりの低下。



(注) 1. 観光関連産業活動指数には、鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶等の旅客運送業、道路施設提供業(高速道路)、旅館、ホテル等の宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。
 飲食関連産業活動指数には、デパート等の各種商品小売業(飲食料品部門)、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフード等の飲食店、飲食サービス業が含まれる。
 2. 水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

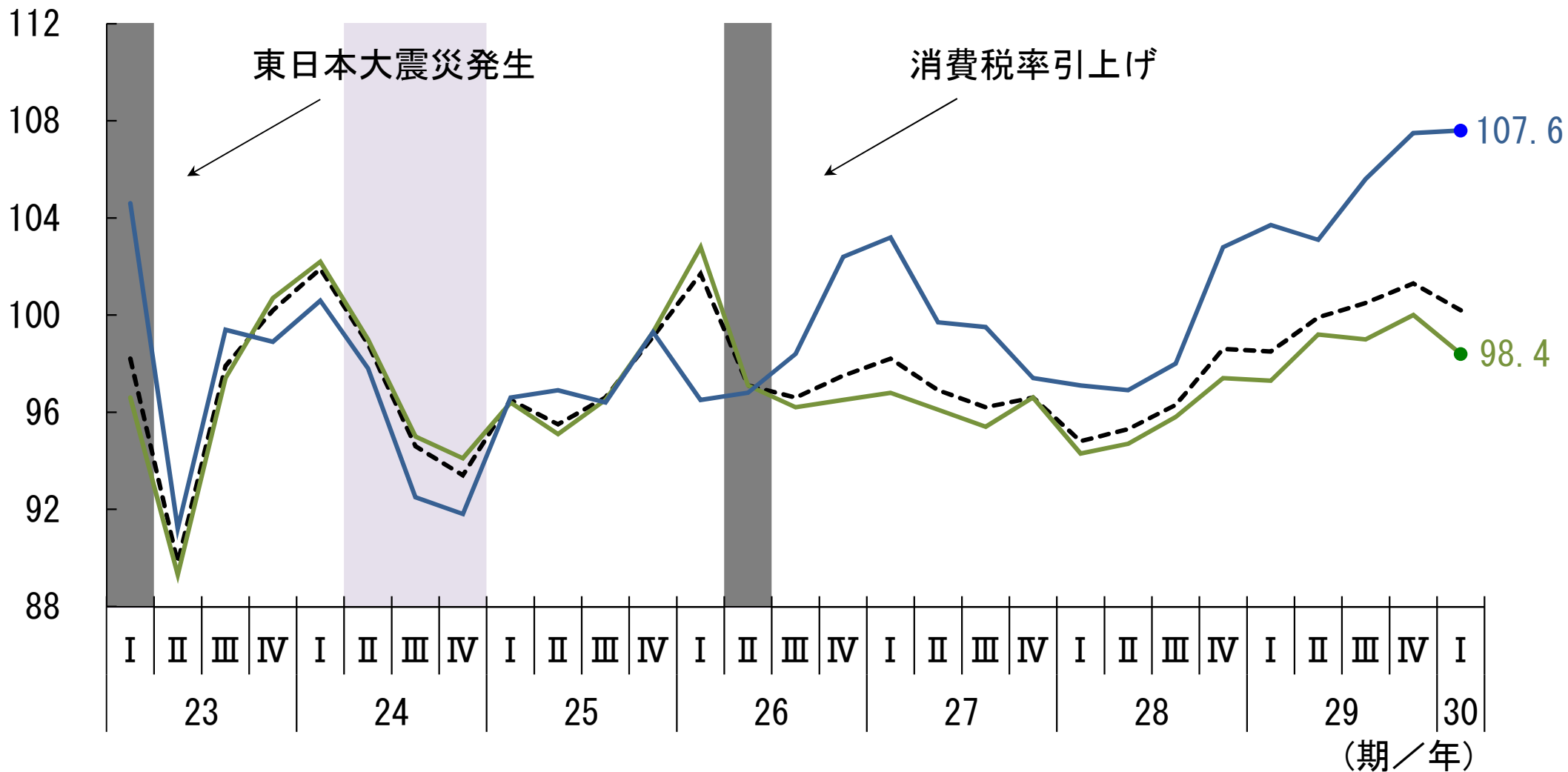
鉦工業活動の動向

国内向け／輸出向け出荷の動向

平成30年1-3月期の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは98.4(前期比-1.6%)と2期ぶりの低下、輸出向けは107.6(前期比0.1%)と3期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

--- 鉱工業出荷 — 国内向け — 輸出向け



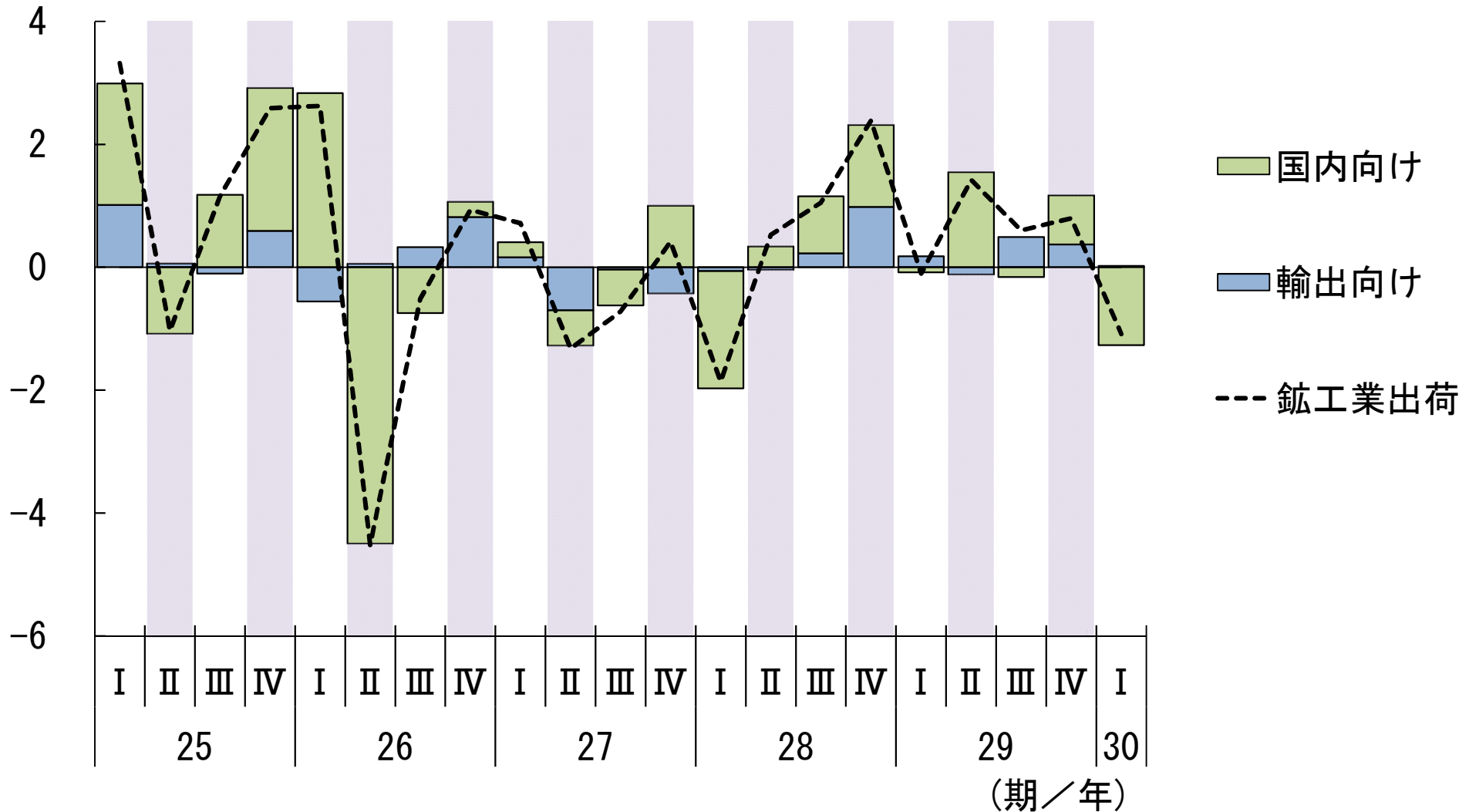
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」、「鉱工業出荷内訳表」より作成。

鋳工業出荷前期比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の鋳工業出荷は、輸出向けは上昇したものの、国内向けは低下したため、前期比-1.1%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

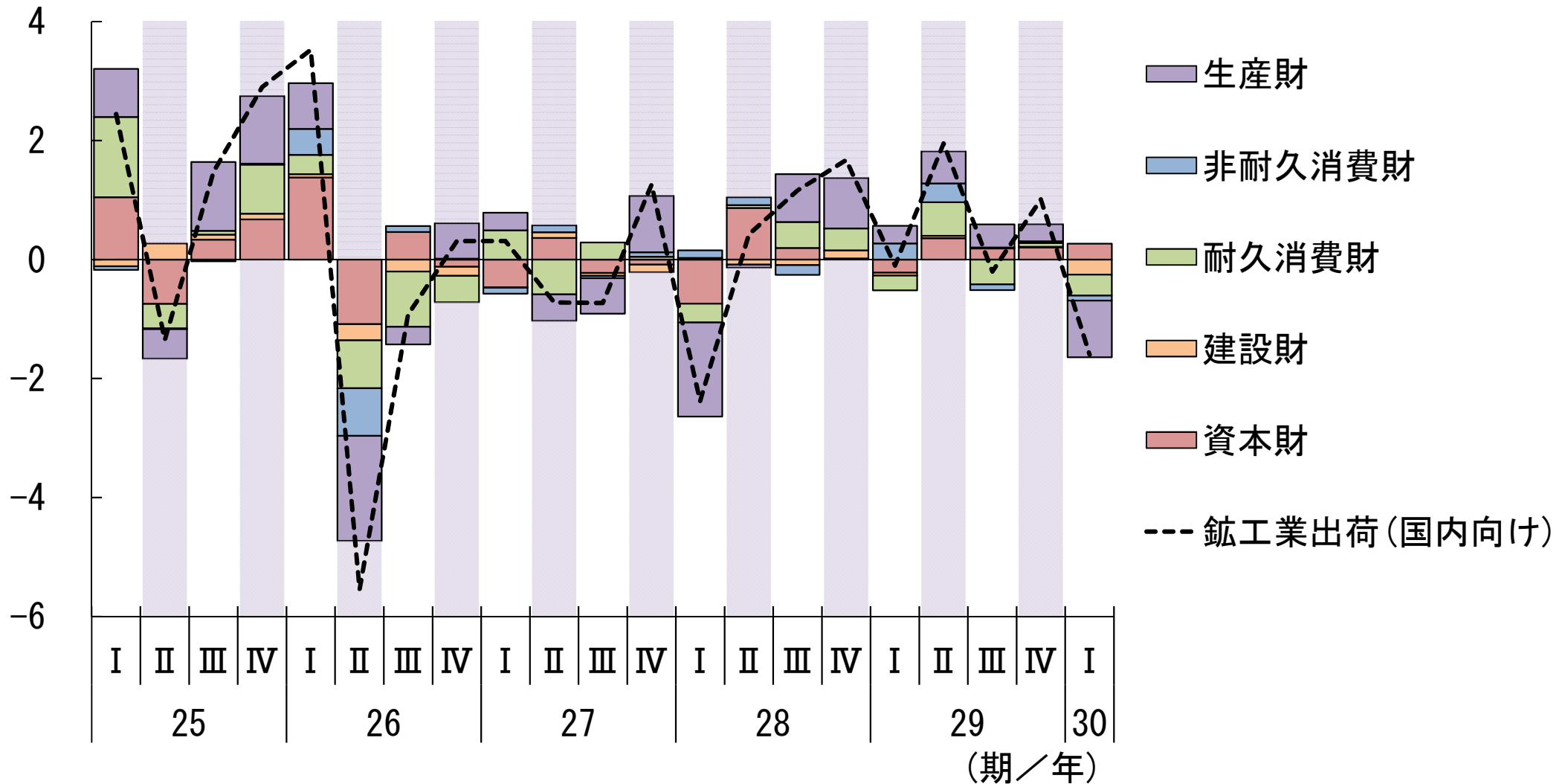


(資料) 経済産業省「鋳工業指数」、「鋳工業出荷内訳表」より作成。

国内向け出荷前期比 財別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の国内向け出荷を、財別にみると、資本財が上昇したものの、生産財などが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

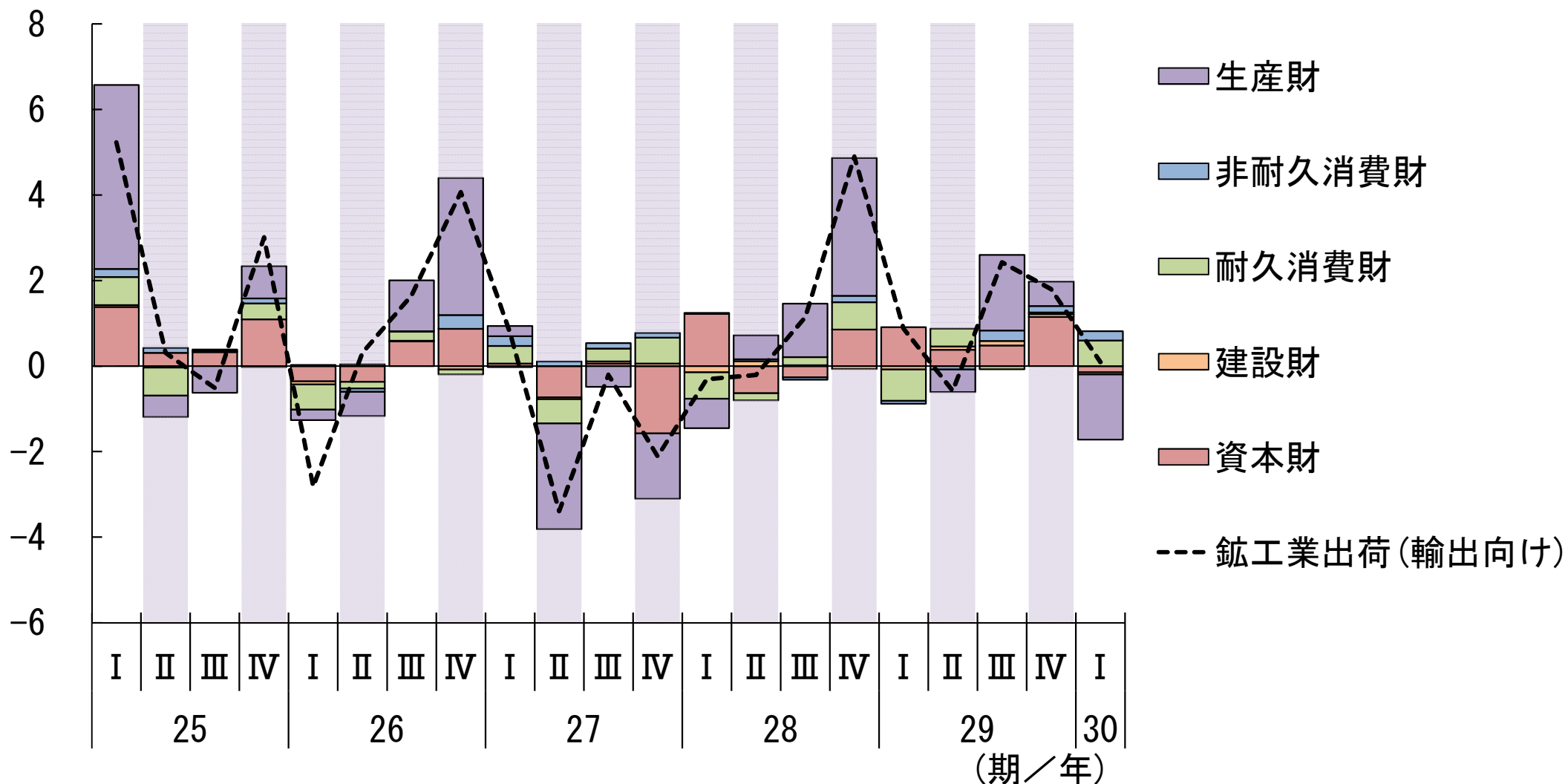


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 財別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の輸出向け出荷を、財別にみると、生産財などが低下したものの、耐久消費財などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

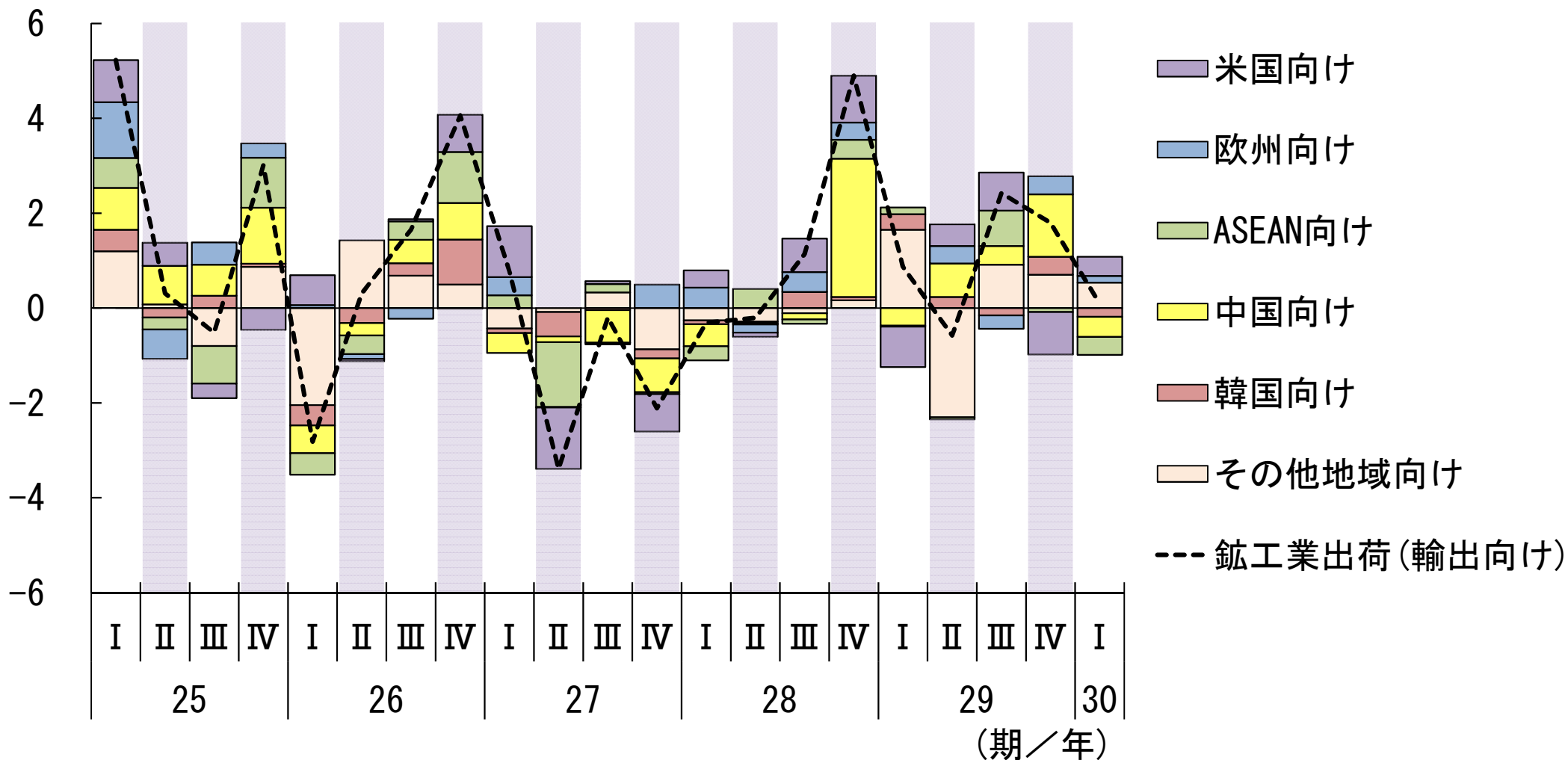


(資料) 経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 地域別の影響度合い

- 平成30年1-3月期の輸出向け出荷を、地域別にみると、中国向けなどが低下したものの、その他地域向けなどが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



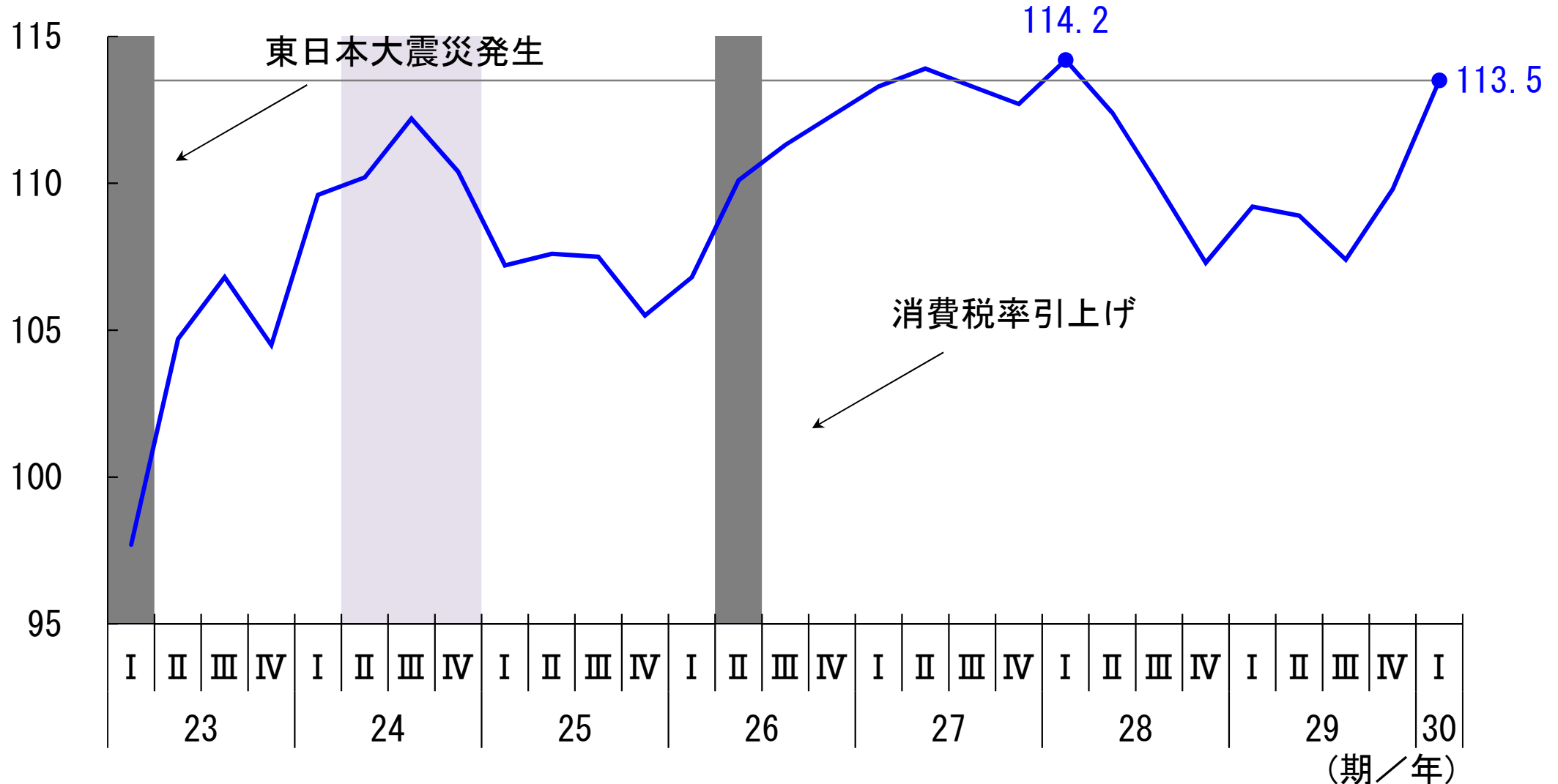
(注) 試算値。

(資料) 経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

鋳工業在庫指数の動向

- ・平成30年1-3月期の在庫指数は113.5(前期比3.4%)と2期連続の上昇。
- ・平成28年1-3月期の114.2以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



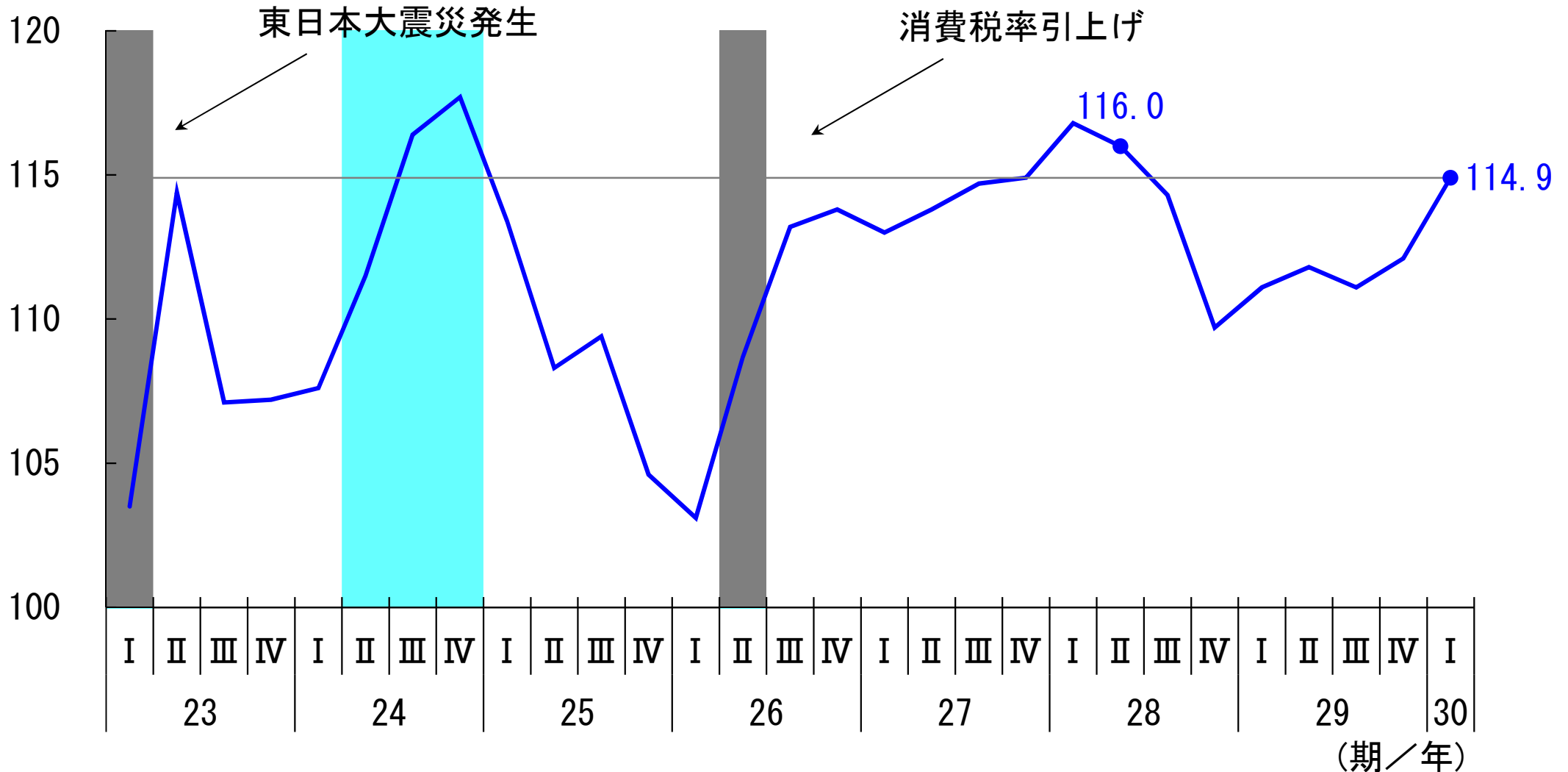
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

鋳工業在庫率指数の動向

- ・平成30年1-3月期の在庫率指数は114.9(前期比2.5%)と2期連続の上昇。
- ・平成28年4-6月期の116.0以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注)水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料)経済産業省「鋳工業指数」より作成。

サービス産業活動図表集
平成30年4月の第3次産業活動指数の状況

平成30年6月12日

URL:<http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/sanzi/result-1.html>

平成30年4月の第3次産業活動指数の状況

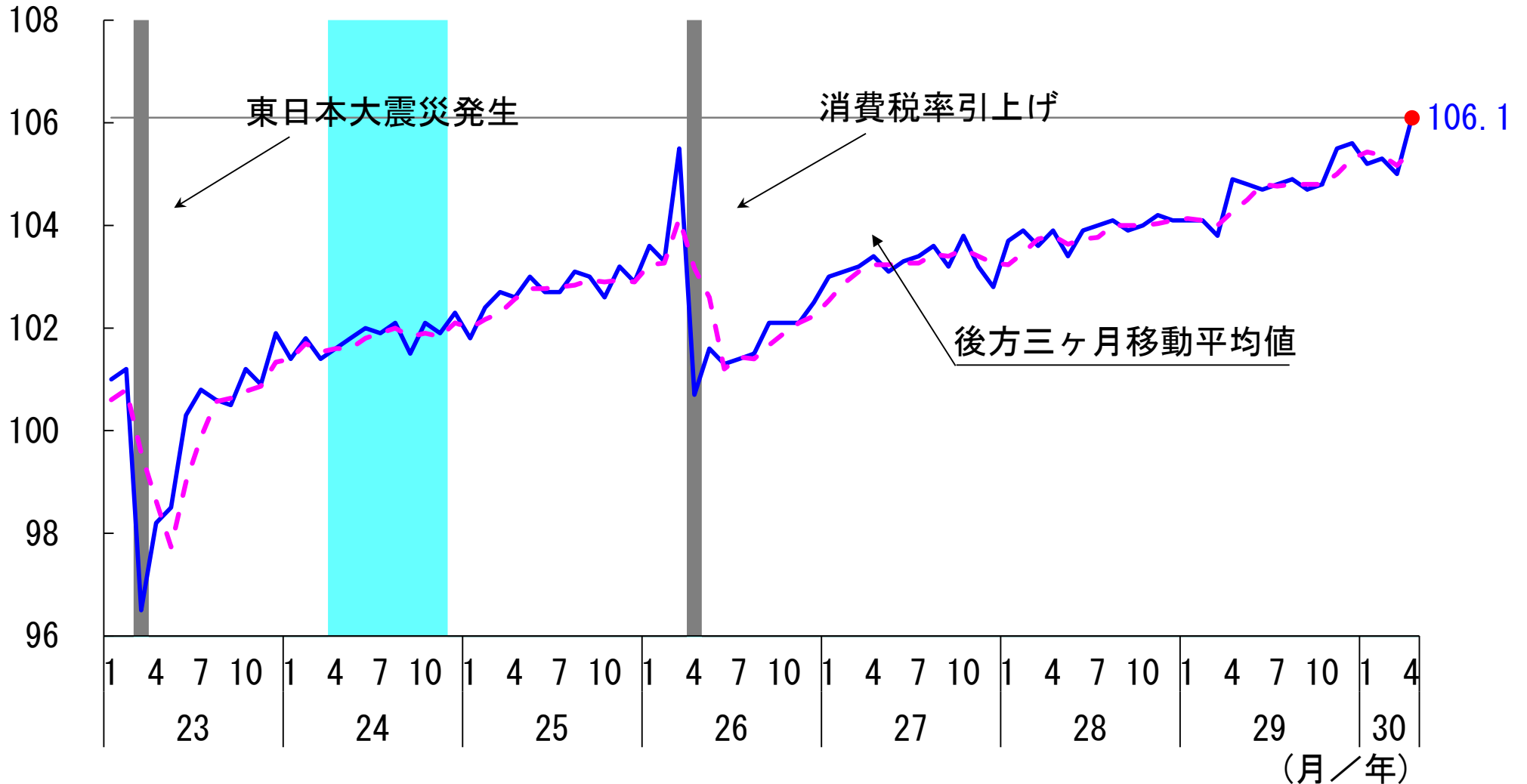
月次(平成30年4月分)	第3次産業総合	広義対個人サービス	広義対事業所サービス
季調済指数	106.1	106.2	106.2
前月比	1.0%	1.1%	0.8%
指数水準	22年基準 第2位 20年 3月 106.7以来 I 20年 3月 106.7 II 30年 4月 106.1 III 29年12月 105.6	22年基準 第2位 26年 3月 107.1以来 I 26年 3月 107.1 II 30年 4月 106.2 III 29年11月 105.8 III 30年 1月 105.8	20年10月 107.2以来 I 20年 3月 113.8 II 20年 2月 111.3 III 20年 4月 111.0
前月比の動き	2か月ぶり+ (30年 2月以来)	3か月ぶり+ (30年 1月以来)	2か月ぶり+ (30年 2月以来)
前月比幅	29年 4月 1.1%以来 I 26年 3月 2.1% II 23年 4月 1.8% II 23年 6月 1.8%	29年 4月 1.2%以来 I 23年 4月 3.2% II 26年 3月 2.6% III 22年 3月 1.5% III 23年 5月 1.5% III 23年 6月 1.5%	28年 4月 1.7%以来 I 22年 1月 2.4% II 20年 3月 2.2% III 28年 4月 1.7%
原指数 前年同月比	1.4%	0.6%	2.1%
前年同月比の動き	14か月連続+ (29年 3月以降)	13か月連続+ (29年 4月以降)	14か月連続+ (29年 3月以降)
前年同月比幅	29年 5月 1.9%以来 I 24年 3月 4.7% II 24年 5月 4.0% III 24年 4月 3.3%	30年 3月 0.8%以来 I 24年 3月 7.4% II 24年 4月 4.6% III 24年 5月 3.8%	29年 5月 2.8%以来 I 24年 5月 4.1% II 26年 3月 3.3% III 27年 4月 3.1%

(注) I～IIIは平成22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

第3次産業活動指数の動向

- ・平成30年4月の第3次産業活動指数は、106.1(前月比1.0%)と2か月ぶりの上昇。
- ・平成20年3月の106.7以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注)水色のシャドー部分は景気後退局面。

平成30年4月 「第3次産業活動は、持ち直しの動きがみられる」

基調判断の推移

- ・平成27年1月～4月 「持ち直している」
- ・平成27年5月～6月 「足踏みがみられる」
- ・平成27年7月～9月 「横ばい傾向」
- ・平成27年10月 「持ち直しの動きがみられる」
- ・平成27年11月 「一進一退」
- ・平成27年12月～28年3月
「一進一退ながら一部に弱さがみられる」
- ・平成28年4月～10月 「一進一退」
- ・平成28年11月～29年4月
「横ばい」
- ・平成29年5月～7月 「持ち直しの動きがみられる」
- ・平成29年8月～10月 「高い水準で横ばい」
- ・平成29年11月～30年2月
「持ち直しの動きがみられる」
- ・平成30年3月 「一部に弱さがみられる」
- ・平成30年4月～
「持ち直しの動きがみられる」

(27年1月より基調判断を実施)

	第3次産業 総合	前期比(%)	
		前期比(%)	
28年	I期	103.7	0.4
	II期	103.7	0.0
	III期	104.0	0.3
	IV期	104.1	0.1
29年	I期	104.0	-0.1
	II期	104.8	0.8
	III期	104.8	0.0
	IV期	105.3	0.5
30年	I期	105.2	-0.1

(平成22年=100、季節調整済)

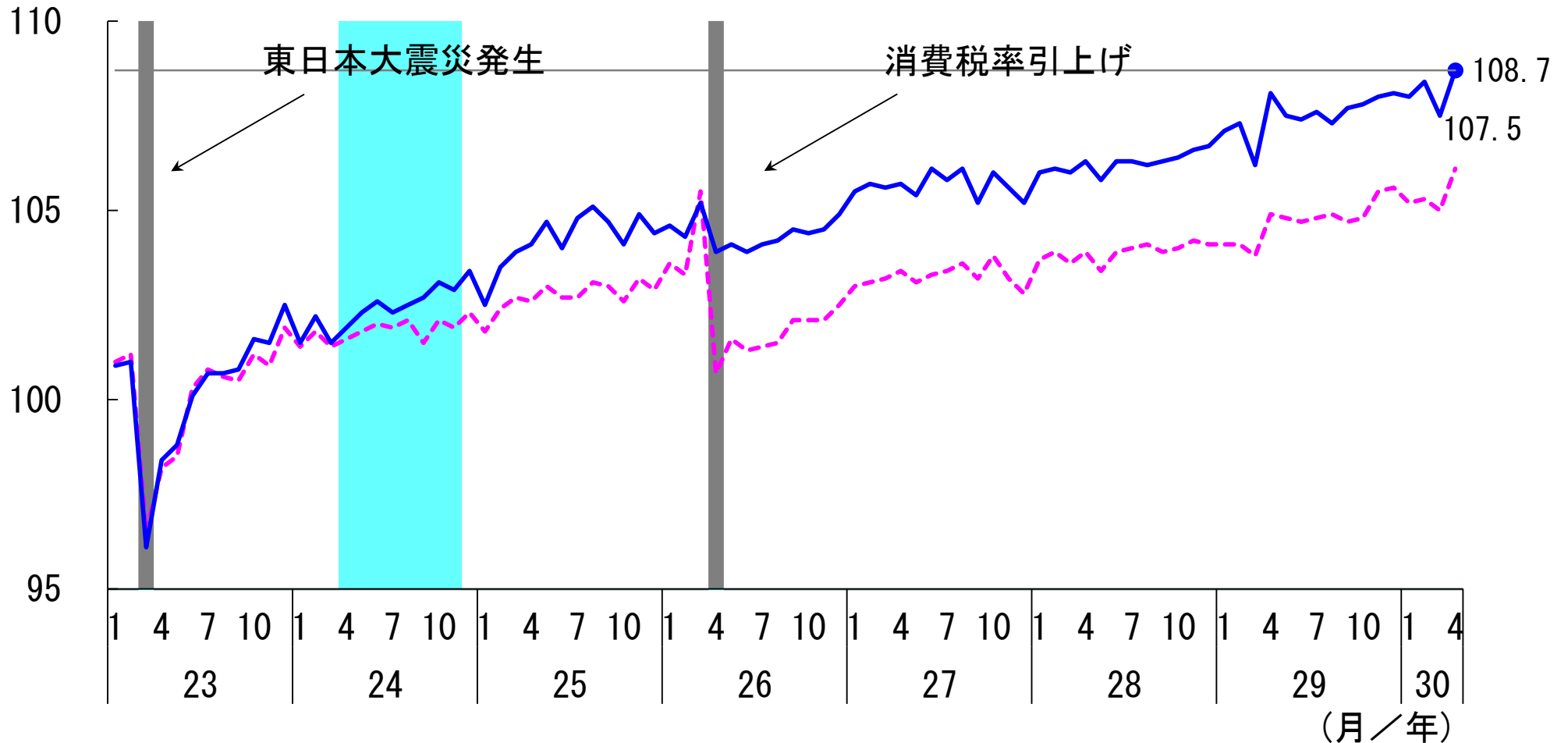
	第3次産業 総合	前月比(%)	後方3か月 移動平均		
			移動平均	前月比(%)	
28年	1月	103.7	0.9	103.2	-0.1
	2月	103.9	0.2	103.5	0.3
	3月	103.6	-0.3	103.7	0.2
	4月	103.9	0.3	103.8	0.1
	5月	103.4	-0.5	103.6	-0.2
	6月	103.9	0.5	103.7	0.1
	7月	104.0	0.1	103.8	0.1
	8月	104.1	0.1	104.0	0.2
	9月	103.9	-0.2	104.0	0.0
	10月	104.0	0.1	104.0	0.0
	11月	104.2	0.2	104.0	0.0
	12月	104.1	-0.1	104.1	0.1
29年	1月	104.1	0.0	104.1	0.0
	2月	104.1	0.0	104.1	0.0
	3月	103.8	-0.3	104.0	-0.1
	4月	104.9	1.1	104.3	0.3
	5月	104.8	-0.1	104.5	0.2
	6月	104.7	-0.1	104.8	0.3
	7月	104.8	0.1	104.8	0.0
	8月	104.9	0.1	104.8	0.0
	9月	104.7	-0.2	104.8	0.0
	10月	104.8	0.1	104.8	0.0
	11月	105.5	0.7	105.0	0.2
	12月	105.6	0.1	105.3	0.3
30年	1月	105.2	-0.4	105.4	0.1
	2月	105.3	0.1	105.4	0.0
	3月	105.0	-0.3	105.2	-0.2
	4月	106.1	1.0	105.5	0.3

卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数

- ・平成30年4月の卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数は、108.7(前月比1.1%)と2か月ぶりの上昇。
- ・平成23年1月の100.9以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

--- 第3次産業総合 — 除く卸売業、小売業

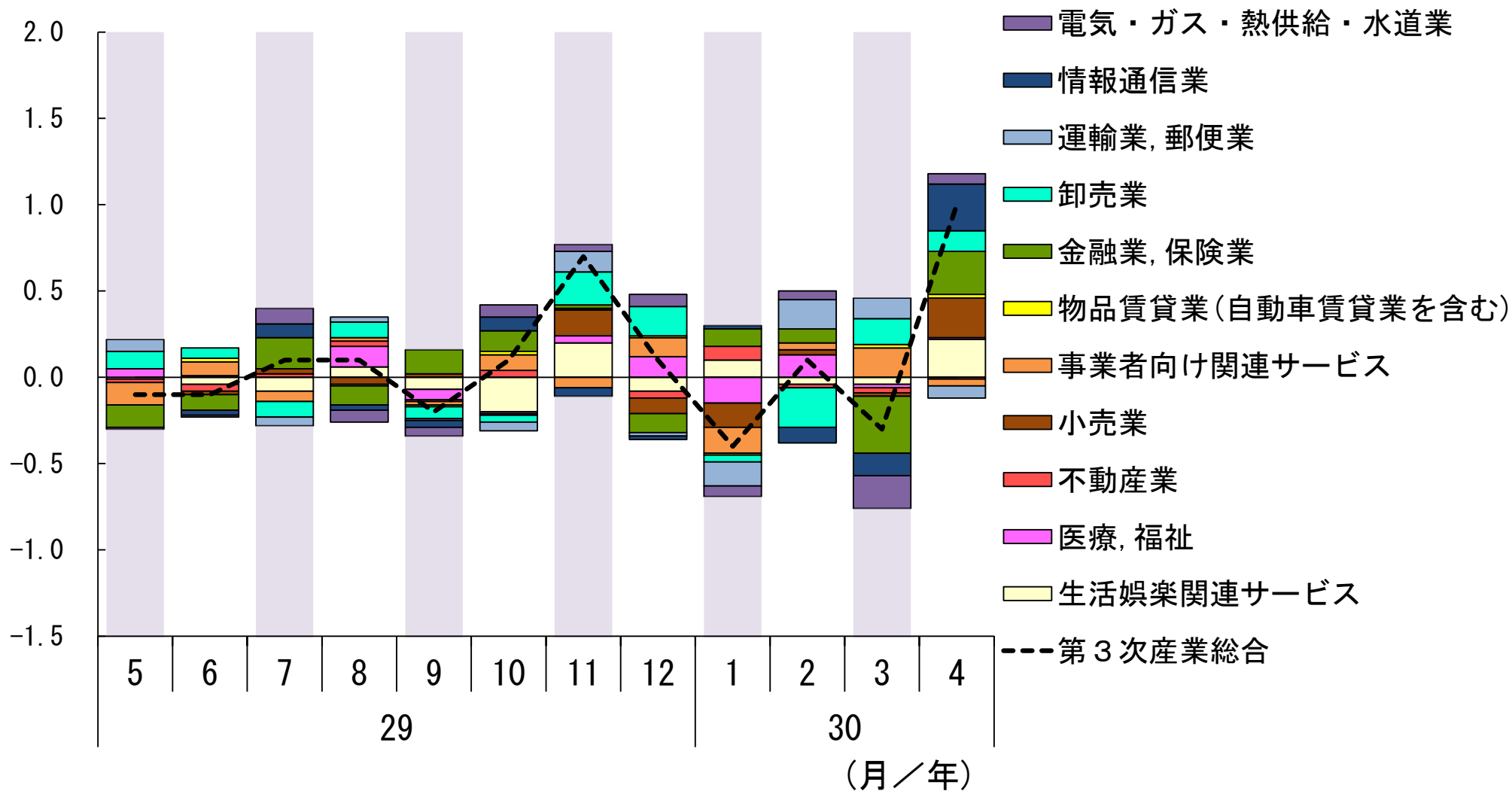


(注)水色のシャドー部分は景気後退局面。

第3次産業活動指数前月比 業種別の影響度合い

平成30年4月の第3次産業活動指数は、運輸業、郵便業などが低下したものの、情報通信業などが上昇したため、前月比1.0%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



第3次産業活動指数を大きく動かした個別系列

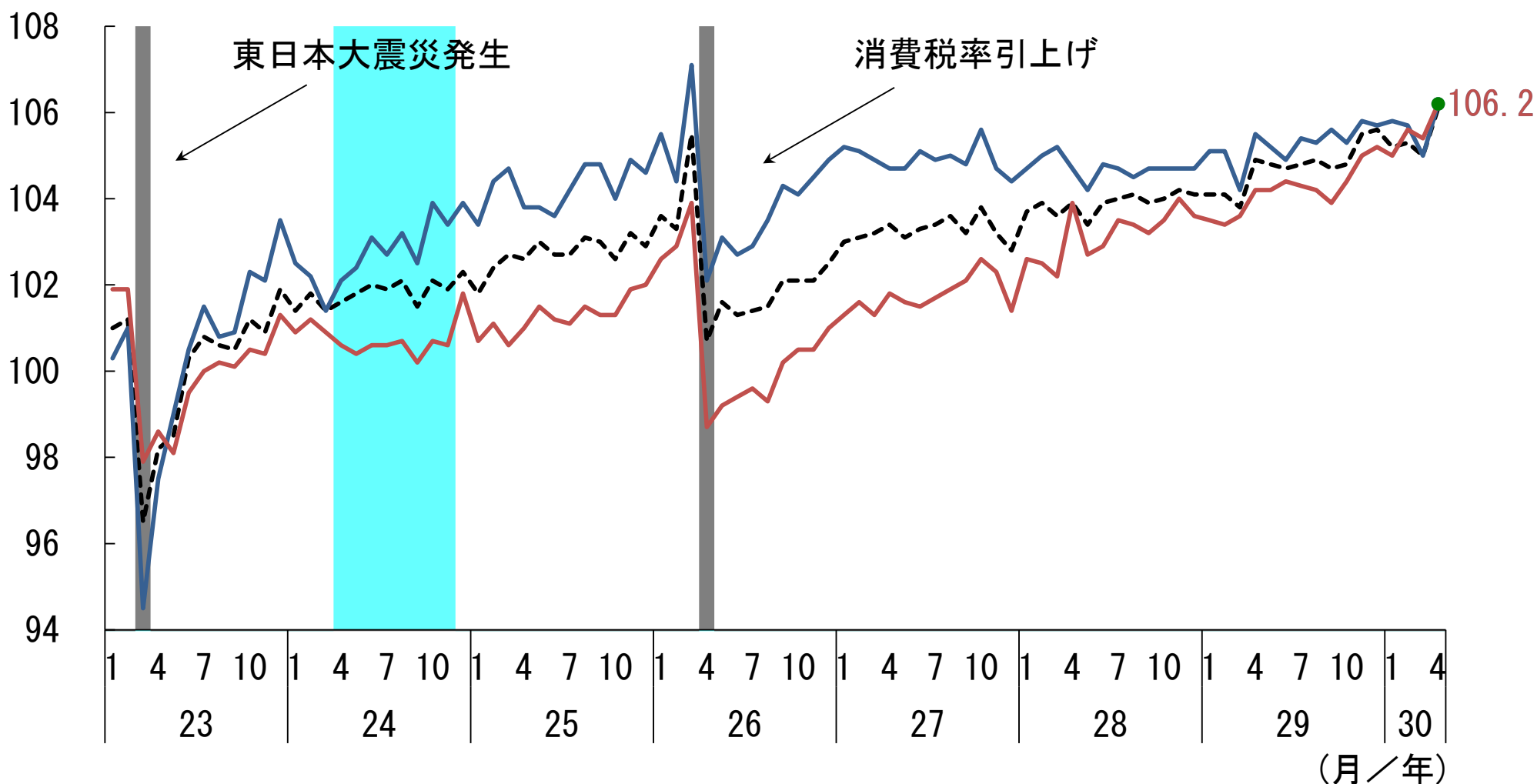
		業種名	前月比	寄与率
○ 第3次産業総合を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	情報通信業	2.5%	26.0%
	内訳業種	ソフトウェア業	4.4%	10.8%
		情報処理・提供サービス業	1.1%	2.0%
	2位の業種	金融業, 保険業	2.5%	23.6%
	内訳業種	金融仲介業務	0.5%	1.7%
	3位の業種	小売業	2.3%	21.5%
内訳業種	自動車小売業	5.4%	5.9%	
	その他の小売業	2.2%	5.0%	
○ 第3次産業総合を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	運輸業, 郵便業	-0.7%	-6.9%
	内訳業種	宅配貨物運送業	-3.3%	-2.2%
	2位の業種	事業者向け関連サービス	-0.5%	-4.1%
	内訳業種	機械設計業	-13.7%	-7.2%
	3位の業種	不動産業	-0.1%	-0.7%
内訳業種				

寄与率：第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い全業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・平成30年4月の広義対個人サービス活動指数は、106.2(前月比1.1%)と3か月ぶりの上昇。
- ・広義対事業所サービス活動指数は、106.2(前月比0.8%)と2か月ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済) --- 第3次産業総合 — 広義対個人サービス — 広義対事業所サービス

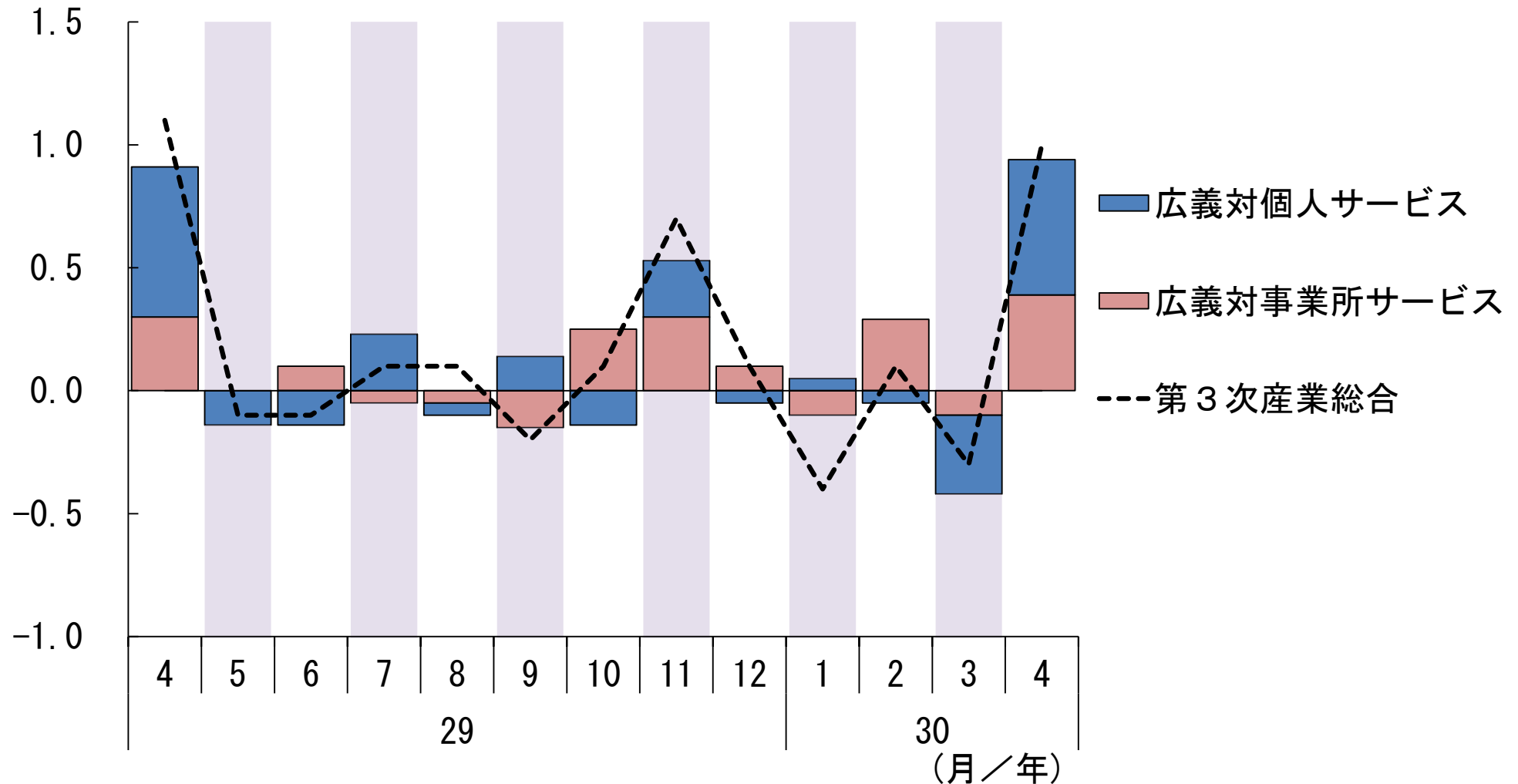


(注)水色のシャドー部分は景気後退局面。

第3次産業総合前月比 広義対個人／広義対事業所サービスの影響度合い

- 平成30年4月の第3次産業活動指数は、広義対事業所サービス、広義対個人サービスともに上昇したため、前月比1.0%の上昇。

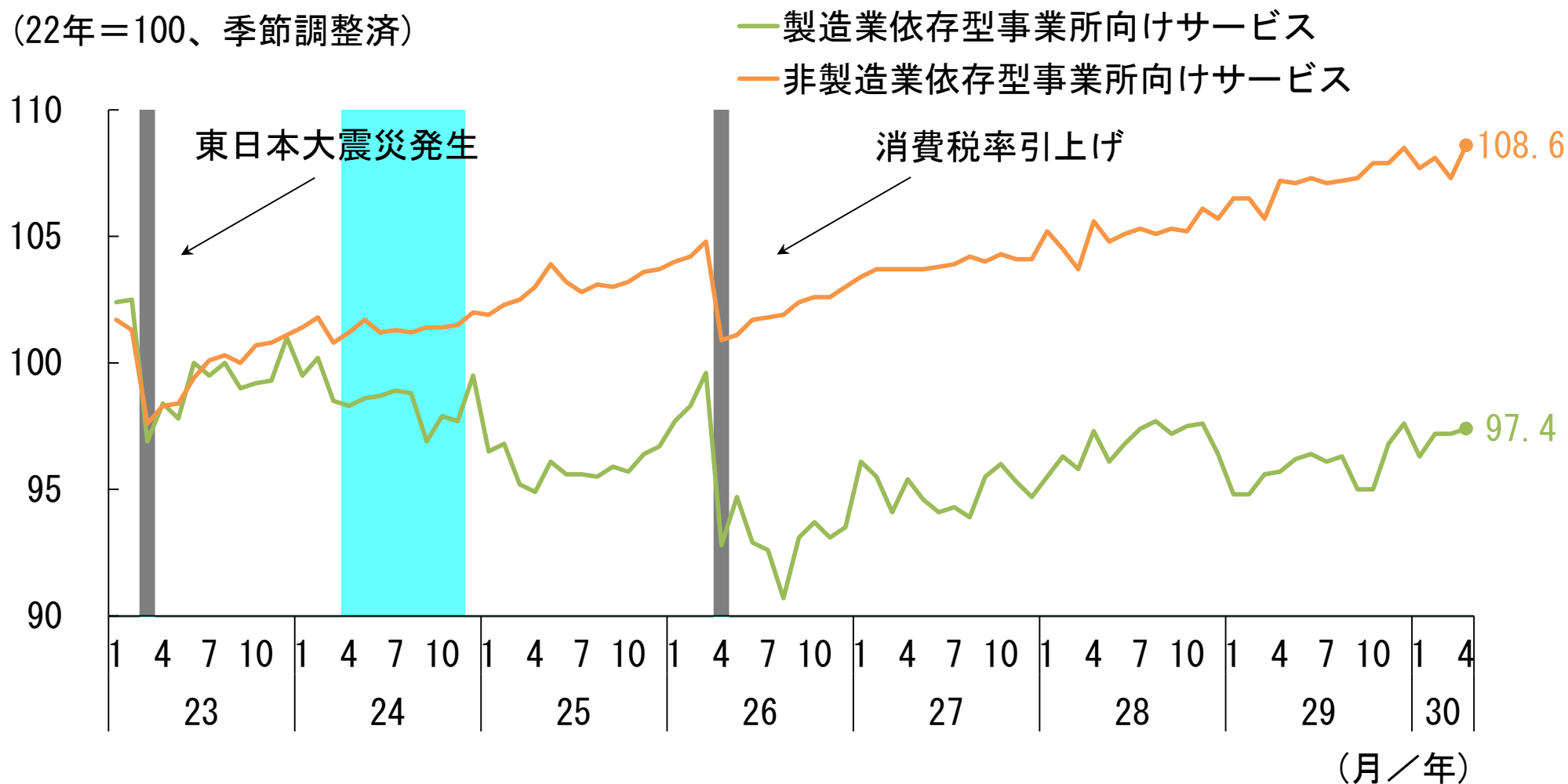
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



製造業／非製造業依存型 事業所向けサービス活動指数の動向

- ・製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、97.4(前月比0.2%)と2か月ぶりの上昇。
- ・非製造業依存型事業所向けサービス活動指数は、108.6(前月比1.2%)と2か月ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)



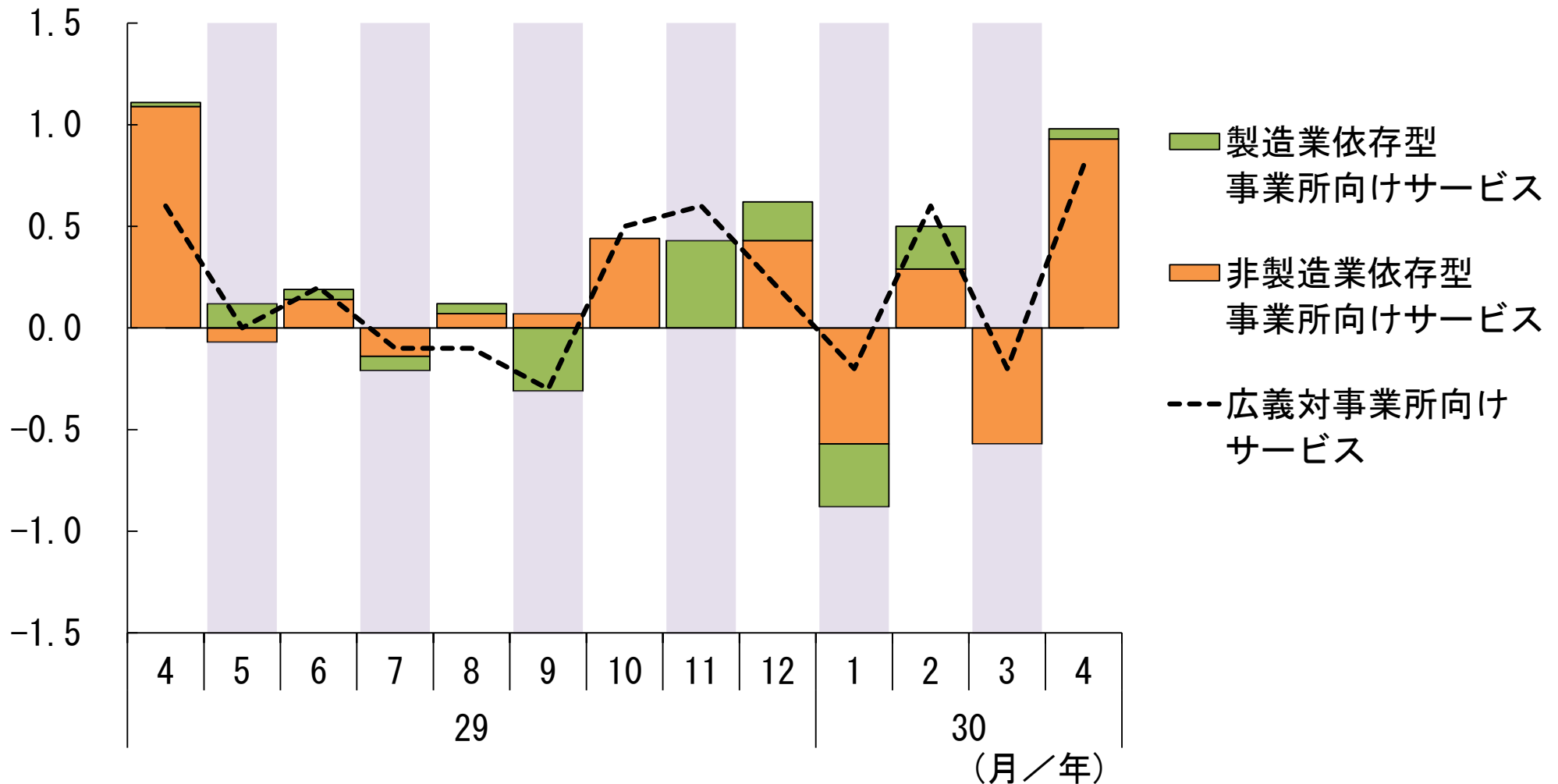
(注) 1. 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している。
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

広義対事業所向けサービス活動前月比

製造業／非製造業依存型事業所向けサービス別の影響度合い

- 平成30年4月の広義対事業所サービス活動指数は、製造業依存型事業所向けサービス、非製造業依存型事業所向けサービスともに上昇したため、前月比0.8%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

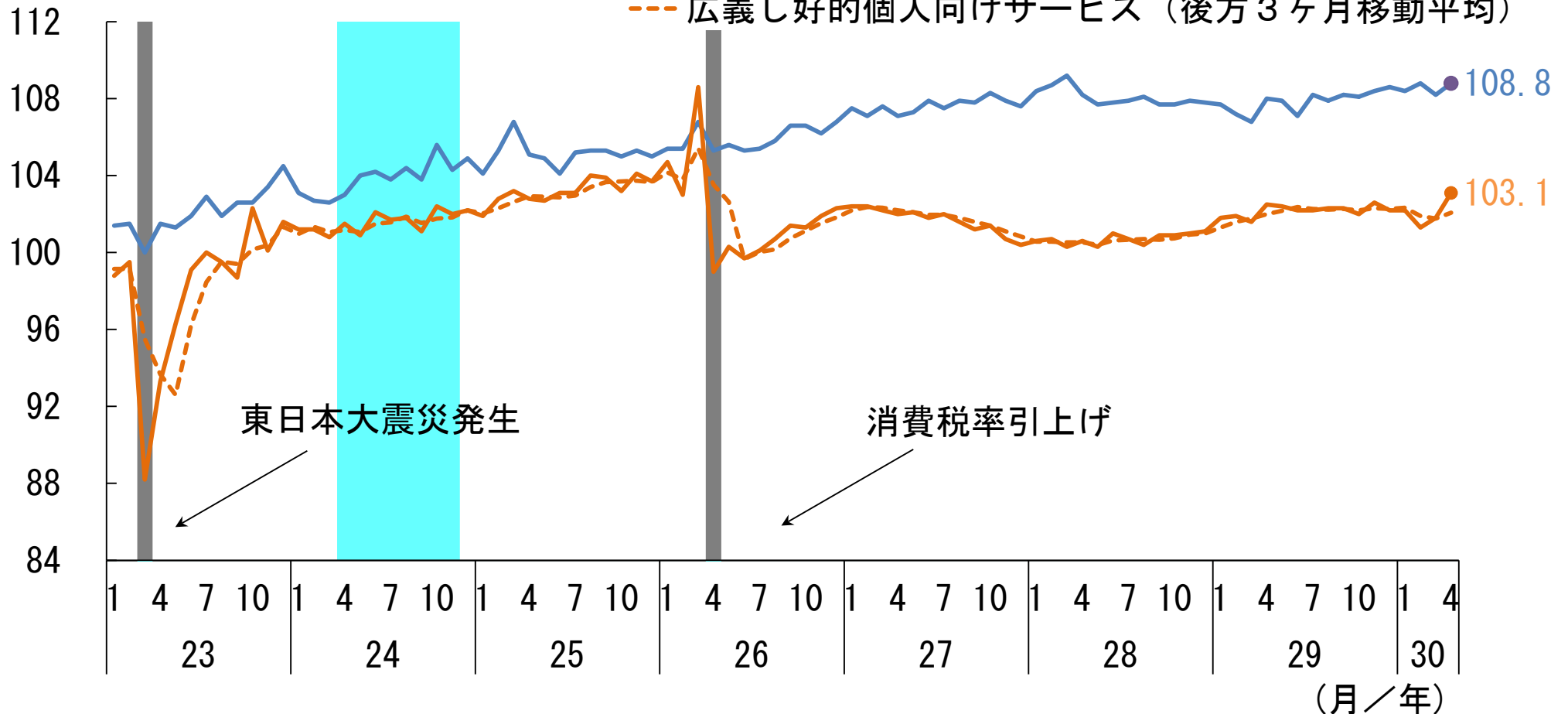


非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・平成30年4月の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、108.8(前月比0.6%)と2か月ぶりの上昇。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、103.1(前月比1.3%)と2か月連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

— 広義非選択的個人向けサービス
 — 広義し好的個人向けサービス
 - - - 広義し好的個人向けサービス (後方3ヶ月移動平均)

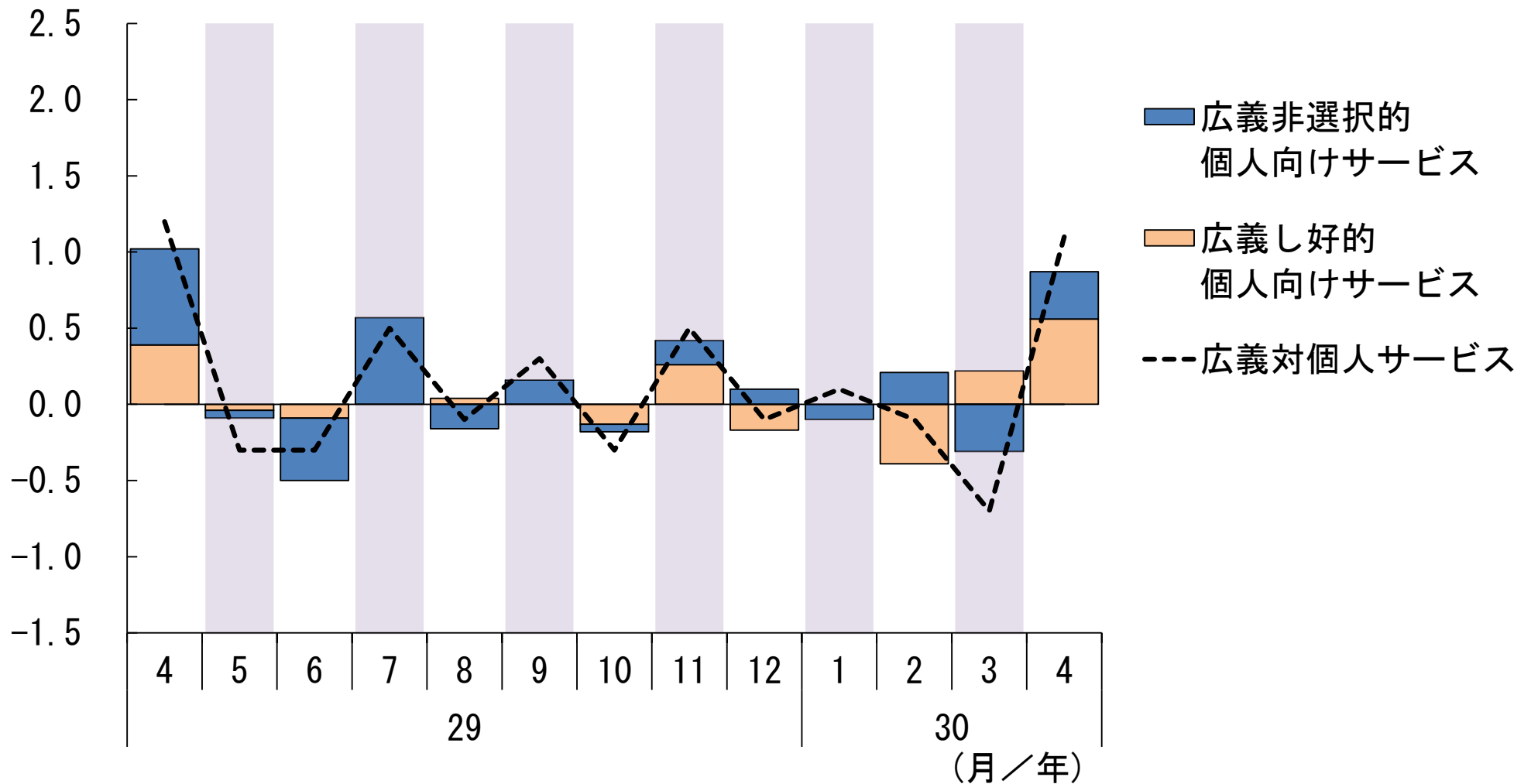


(注) 水色のシャドー部分は景気後退局面。

広義対個人サービス活動前月比 非選択的／し好的個人向けサービス別の影響度合い

- 平成30年4月の広義対個人サービス活動指数は、広義非選択的個人向けサービス、広義し好的個人向けサービスともに上昇したため、前月比1.1%の上昇。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



広義対事業所サービス、し好的個人向けサービスを大きく動かした個別系列

	業種名	前月比
○ 広義対事業所サービスを 上昇 方向へ引張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	各種商品卸売業	9.4%
	医薬品・化粧品等卸売業	10.8%
	ソフトウェアプロダクト(除くゲームソフト)	18.4%
	一般貨物自動車運送業	1.3%
	その他の情報処理・提供サービス業	3.5%
○ 広義対事業所サービスを 低下 方向へ引張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	機械設計業	- 13.7%
	農畜産物・水産物卸売業	- 6.2%
	全銀システム取扱高	- 2.8%
	流通業務	- 6.9%
	鉱物・金属材料卸売業	- 1.3%

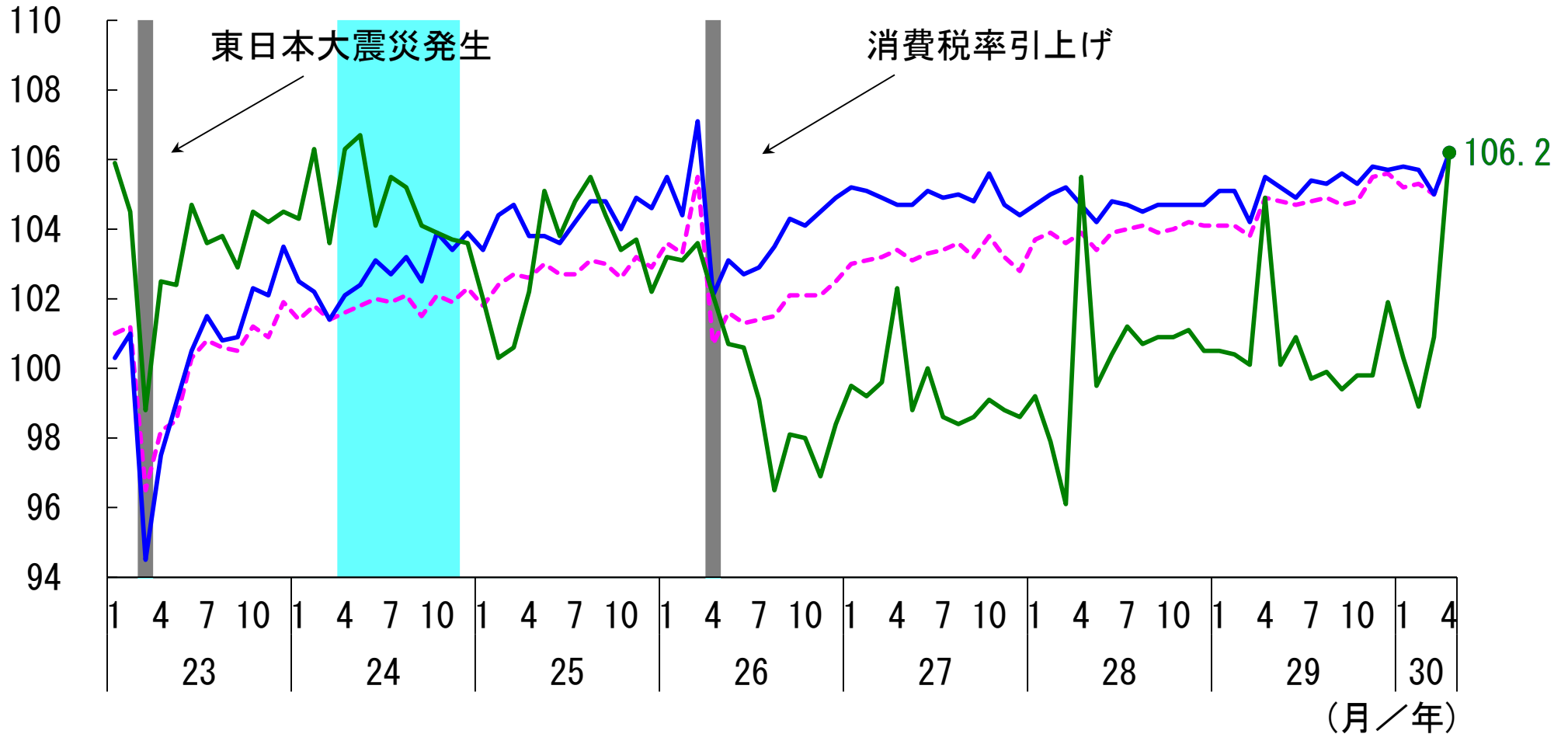
	業種名	前月比
○ し好的個人向けサービスを 上昇 方向へ引張った業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	自動車小売業	5.4%
	その他の小売業	2.2%
	ゴルフ場	12.7%
	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	8.8%
	ホテル	4.8%
○ し好的個人向けサービスを 低下 方向へ引張った業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	マンション分譲(首都圏)	- 10.0%
	パチンコホール	- 3.5%
	普通洗濯業	- 7.8%
	自動車整備業	- 4.7%
	学習塾	- 1.3%

消費向け／投資向けサービス活動指数の動向

- ・平成30年4月の消費向けサービス活動指数は、106.2(前月比1.1%)と3か月ぶりの上昇。
- ・投資向けサービス活動指数は、106.2(前月比5.3%)と2か月連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

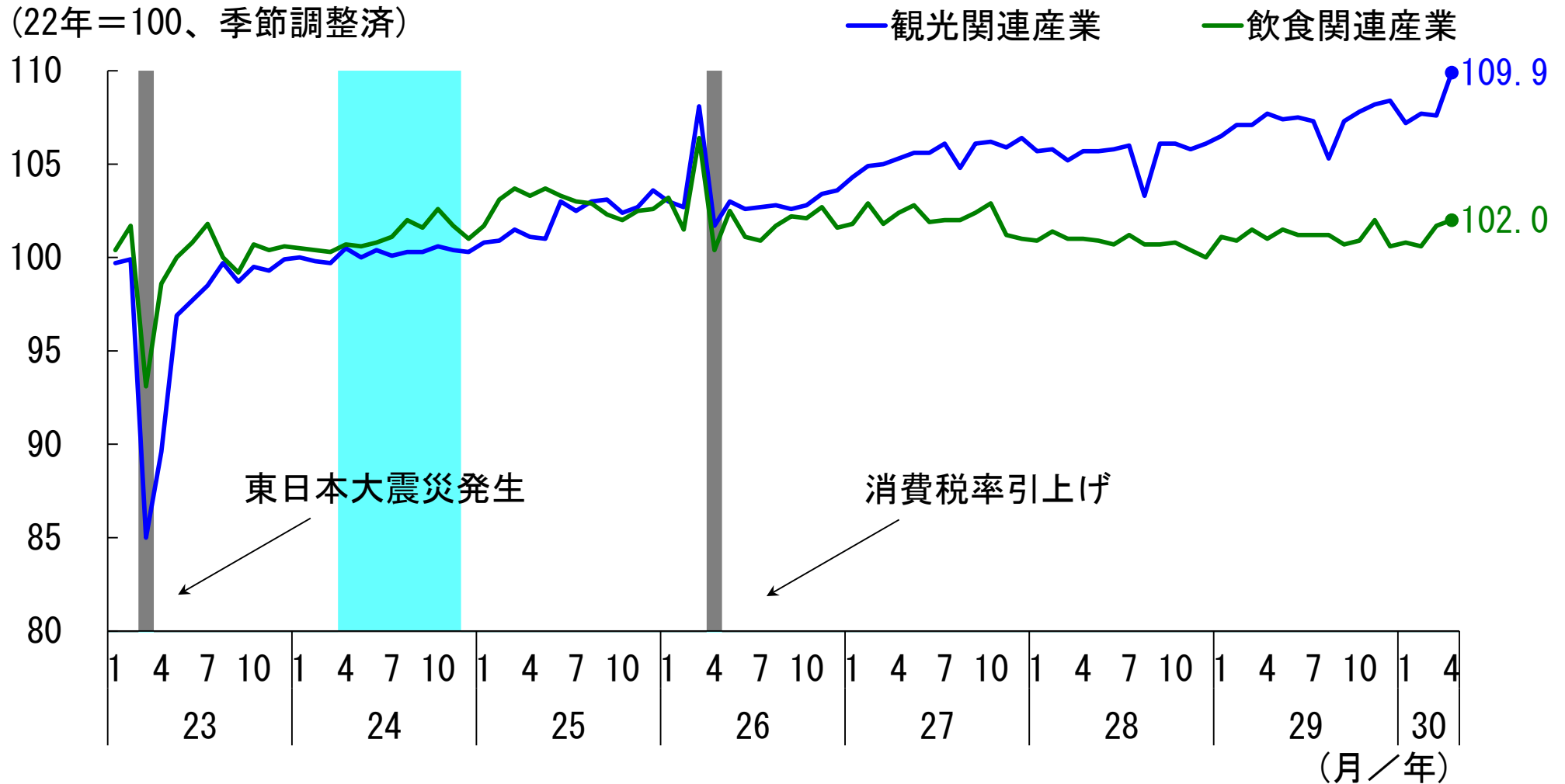
--- 第3次産業総合 — 消費向け — 投資向け



- (注)1. 消費向けサービス活動指数は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス(小売業や娯楽業など)の動きを表す系列。
投資向けサービス活動指数は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス(ソフトウェア開発、機械器具卸売業など)の動きを表す系列。
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

観光関連産業活動指数、飲食関連産業活動指数の動向

- ・平成30年4月の観光関連産業活動指数は、109.9(前月比2.1%)と2か月ぶりの上昇。
- ・飲食関連産業活動指数は、102.0(前月比0.3%)と2か月連続の上昇。



(注)1. 観光関連産業活動指数には、鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶等の旅客運送業、道路施設提供業(高速道路)、旅館、ホテル等の宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。
 飲食関連産業活動指数には、デパート等の各種商品小売業(飲食料品部門)、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフード等の飲食店、飲食サービス業が含まれる。
 2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

鋁工業指数参考図表集
(平成30年4月)

平成30年6月15日

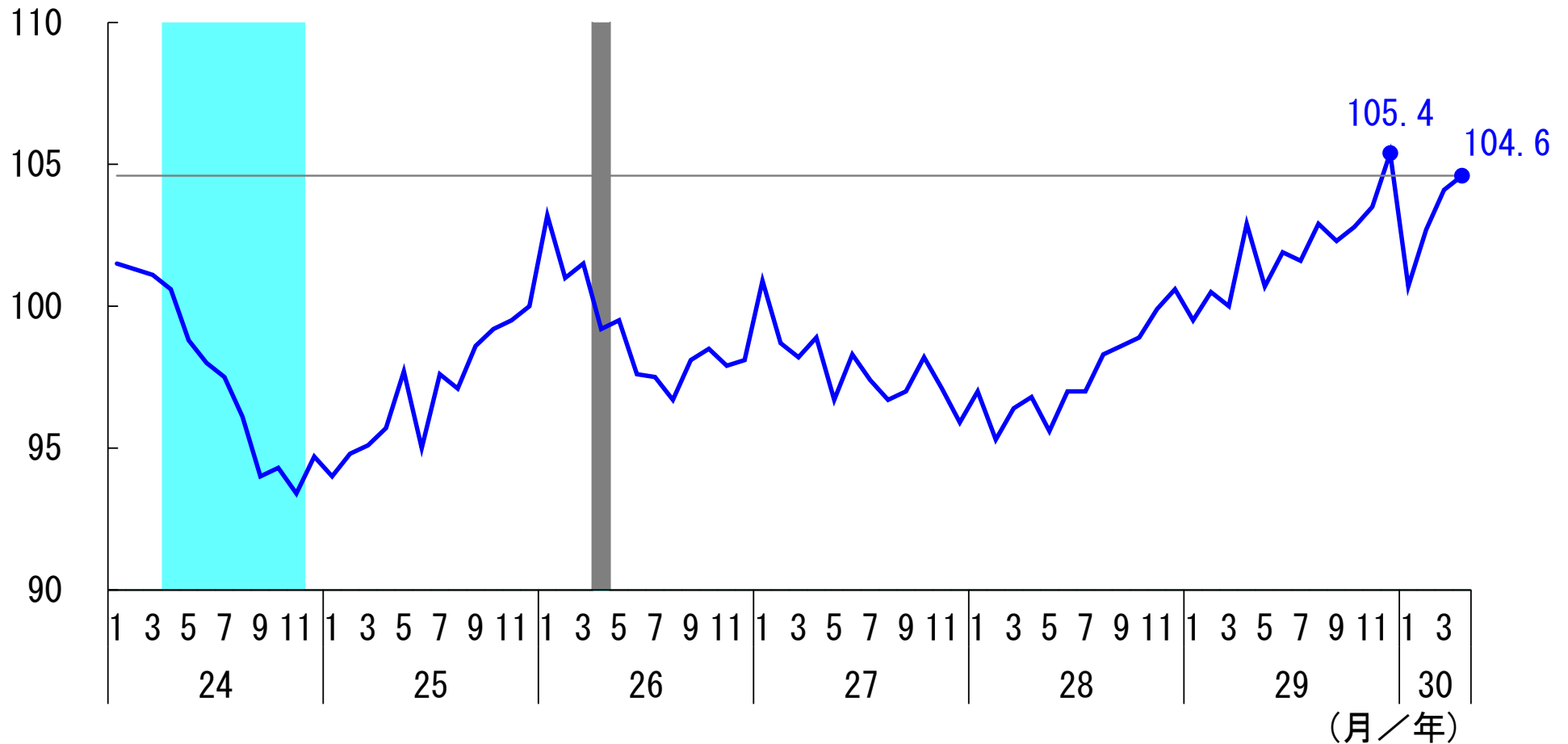
經濟解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

鋳工業生産指数の動向

- ・ 平成30年4月の鋳工業生産指数は、104.6(前月比0.5%)と3か月連続の上昇。
- ・ 平成29年12月の105.4以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 1. 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は、平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標。
 2. 水色のシャド一部分は、景気後退局面。
 3. 灰色のシャド一部分は、消費税率引上げ。

平成30年4月の鉱工業生産指数を大きく動かした品目（業種別）

		業種・品目名	前月比	寄与率
鉱工業生産を 上昇 方向へ引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	輸送機械工業	3.9%	160.6%
	品目	乗用車	5.2%	85.5%
		自動車部品	3.2%	48.2%
	2位の業種	はん用・生産用・業務用機械工業	1.3%	43.3%
	品目	半導体・フラットパネル製造装置	7.9%	38.1%
		生活関連産業用機械	35.4%	37.1%
3位の業種	金属製品工業	4.0%	30.9%	
品目	建設用金属製品	13.5%	17.7%	
	その他の金属製品	2.0%	6.3%	
鉱工業生産を 低下 方向へ引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	-5.7%	-104.8%
	品目	電子部品	-7.1%	-59.2%
		集積回路	-1.6%	-12.7%
	2位の業種	プラスチック製品工業	-2.0%	-21.3%
	品目			
	3位の業種	電気機械工業	-1.3%	-18.7%
品目	民生用電気機械	-6.4%	-18.4%	
	開閉制御装置・機器	-4.3%	-12.6%	

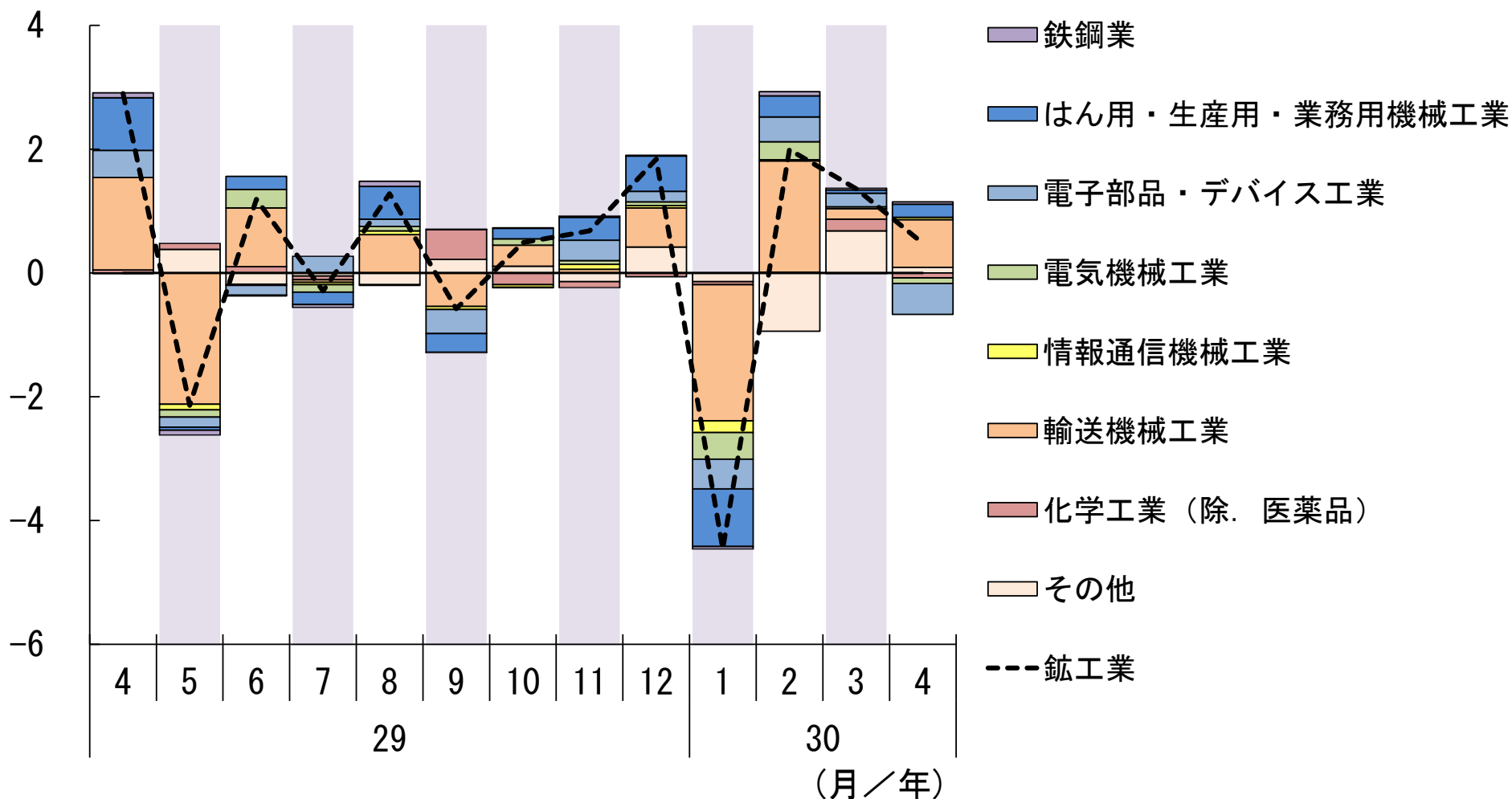
寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(注) 全体の各品目は、個別品目ではなく、個別品目を統合した分類によるもの。

鋳工業生産前月比 業種別の影響度合い

- 平成30年4月の生産指数は、電子部品・デバイス工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前月比0.5%の上昇。

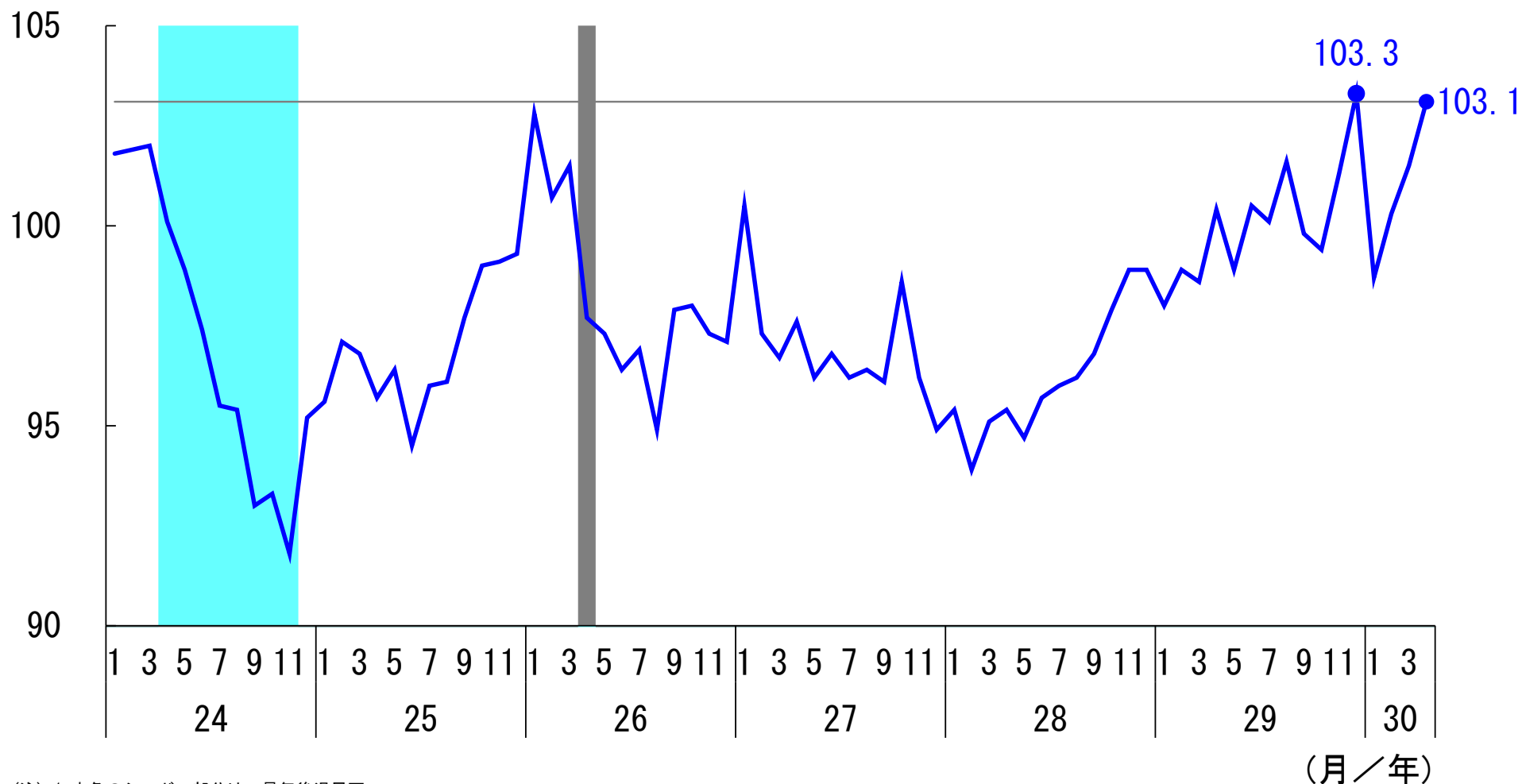
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



鉍工業出荷指数の動向

- ・ 平成30年4月の鉍工業出荷指数は、103.1(前月比1.6%)と3か月連続の上昇。
- ・ 平成29年12月の103.3以来の指数水準。

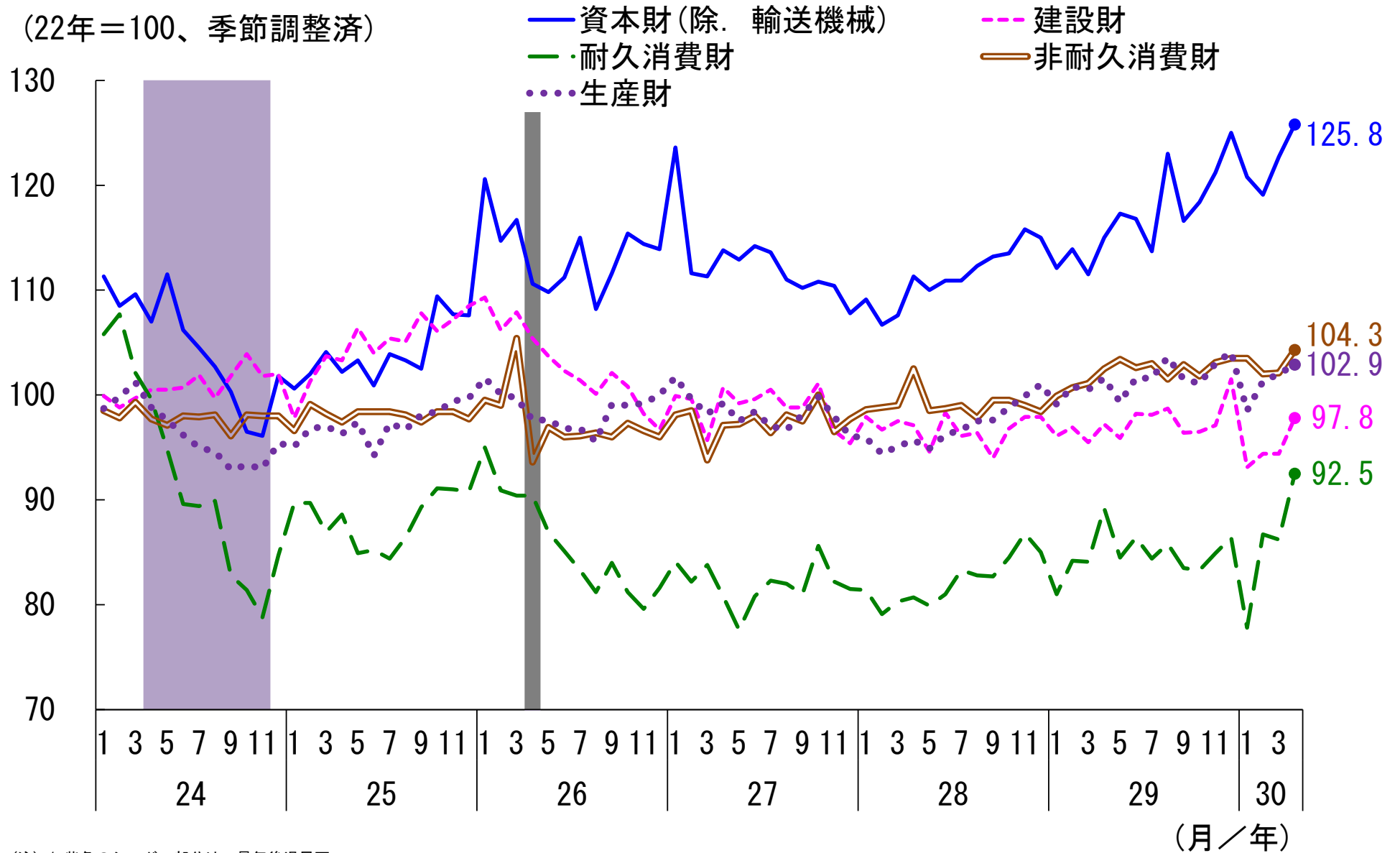
(22年=100、季節調整済)



(注) 1. 水色のシャドー部分は、景気後退局面。
2. 灰色のシャドー部分は、消費税率引上げ。

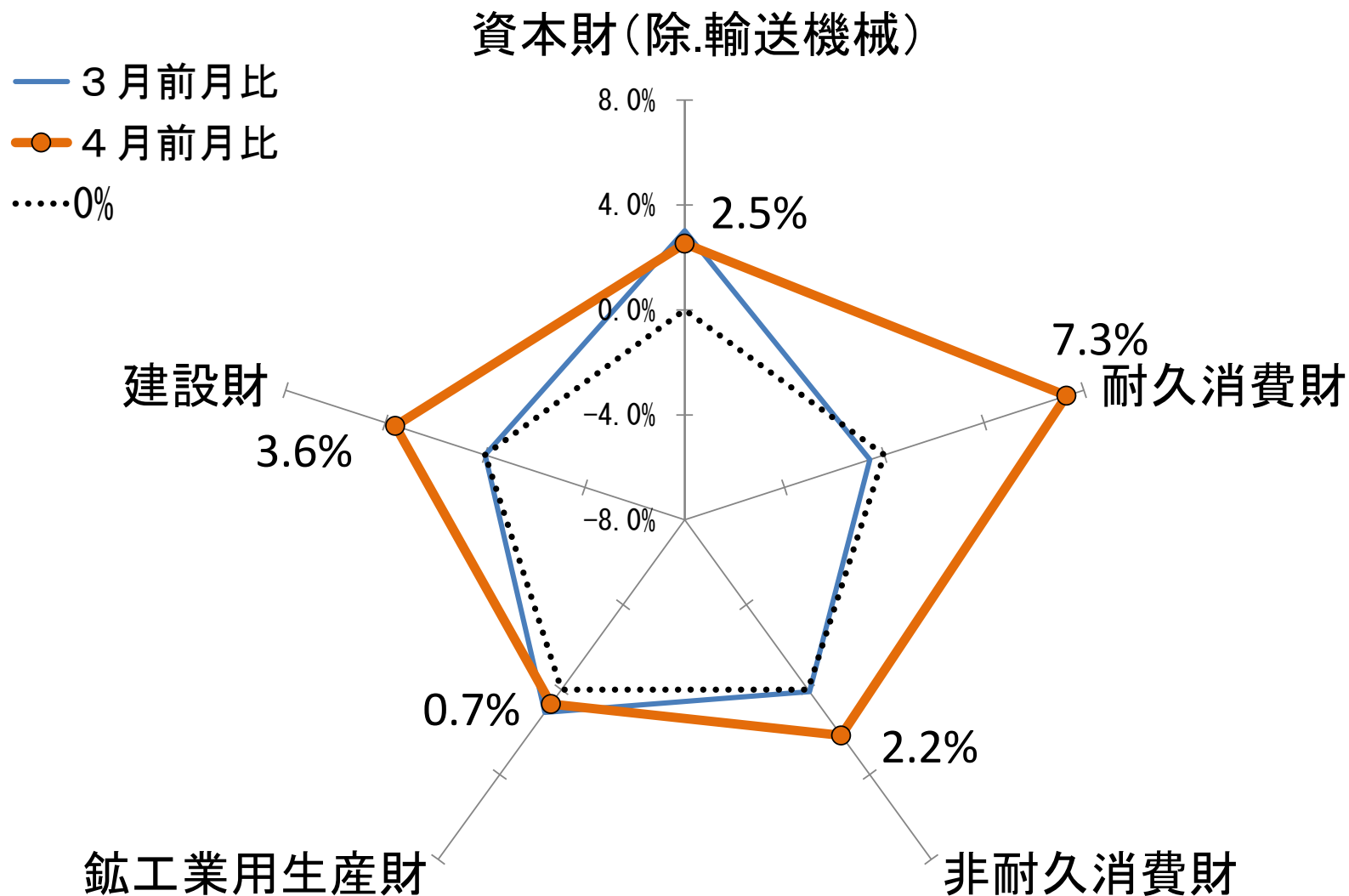
財別出荷指数の動向

(22年=100、季節調整済)



(注) 1. 紫色のシャド一部分は、景気後退局面。
 2. 灰色のシャド一部分は、消費税率引上げ。

財別出荷指数の前月比比較（平成30年3月、4月）



平成30年4月の鉱工業出荷指数を大きく動かした品目（財別）

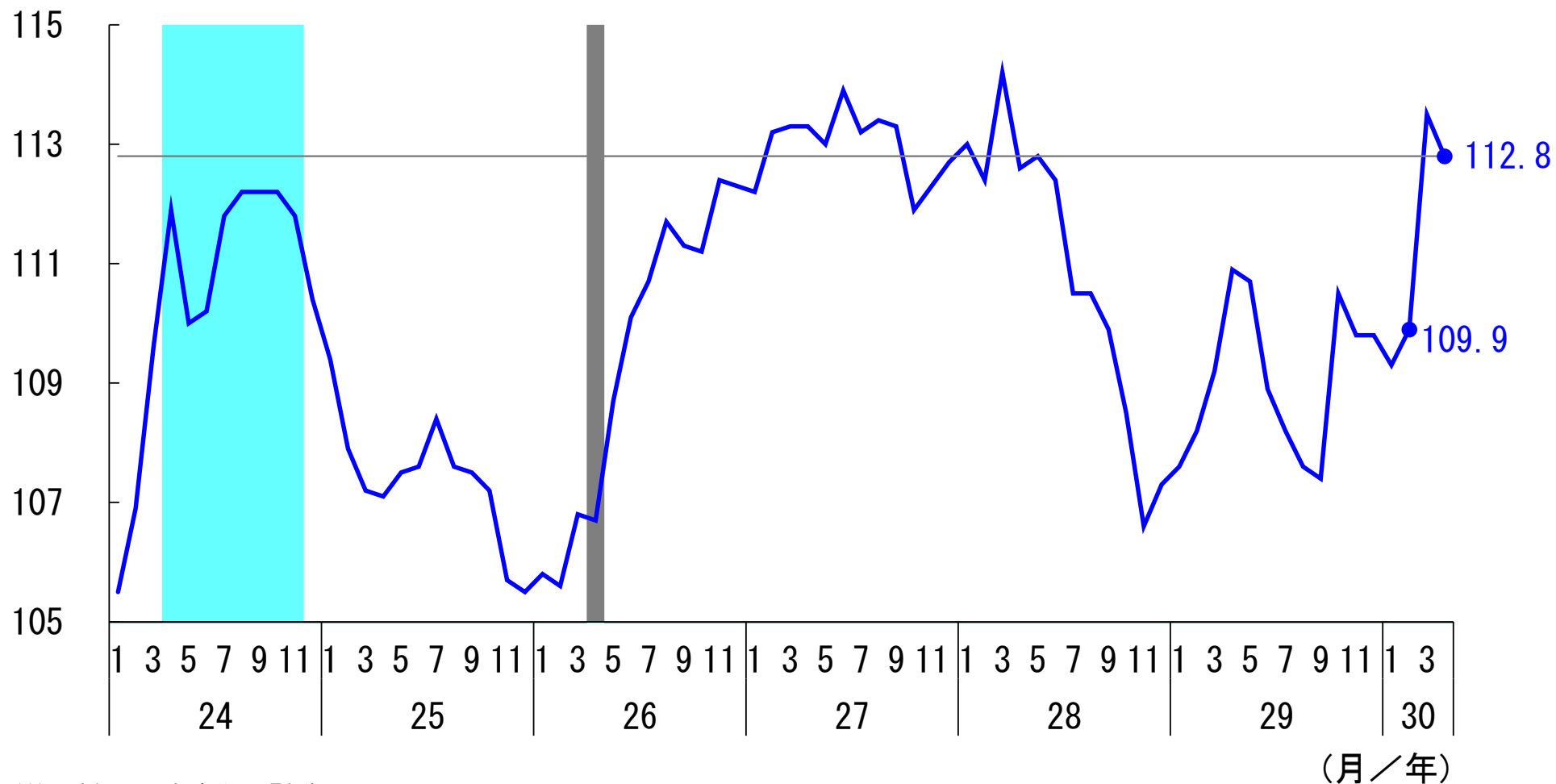
	解説	品目名	前月比	寄与率
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	7.3%	60.0%
		小型乗用車	18.3%	18.0%
		軽乗用車	14.5%	8.5%
生産財	原材料として投入される製品	生産財	1.0%	31.4%
		モス型半導体集積回路（CCD）	23.9%	12.0%
		自動車用エンジン	8.3%	8.8%
資本財	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財（除. 輸送機械）	2.7%	24.3%
		フラットパネル・ディスプレイ製造装置	34.1%	10.1%
		シヨベル系掘削機械	8.3%	8.4%
非耐久消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	2.5%	18.9%
		モイスチャークリーム	32.1%	6.3%
		ガソリン	5.5%	5.5%
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	4.3%	14.1%
		橋りょう	18.0%	2.6%
		プラスチック製パイプ	21.0%	1.2%

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

鋁工業在庫指数の動向

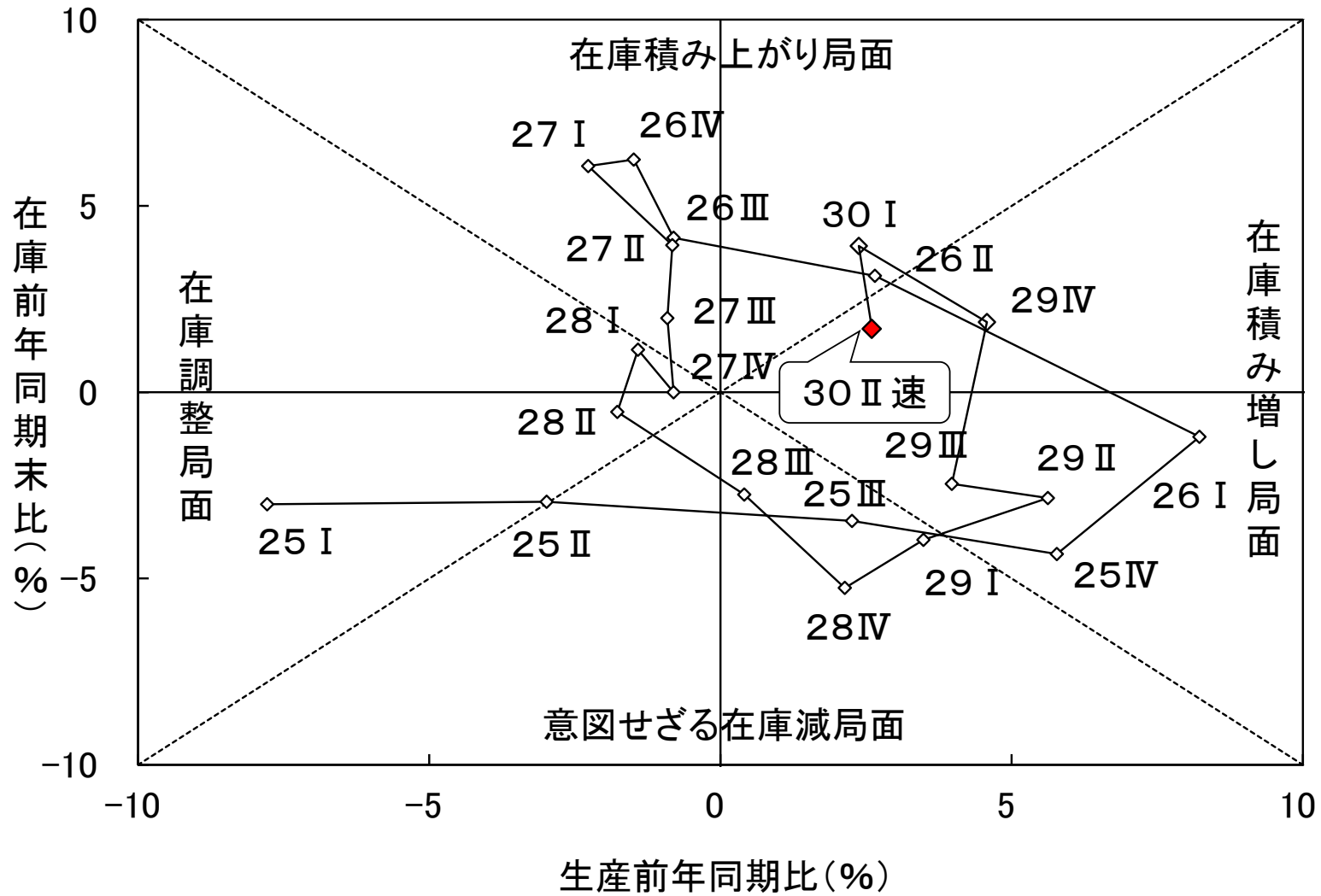
- ・平成30年4月の在庫指数は、112.8(前月比-0.6%)と3か月ぶりの低下。
- ・平成30年2月の109.9以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 1. 水色のシャド一部分は、景気後退局面。
2. 灰色のシャド一部分は、消費税率引上げ。

鋳工業の在庫循環図



(注) 「30 II 速」の生産は4月の値、在庫は4月末の値を使用。

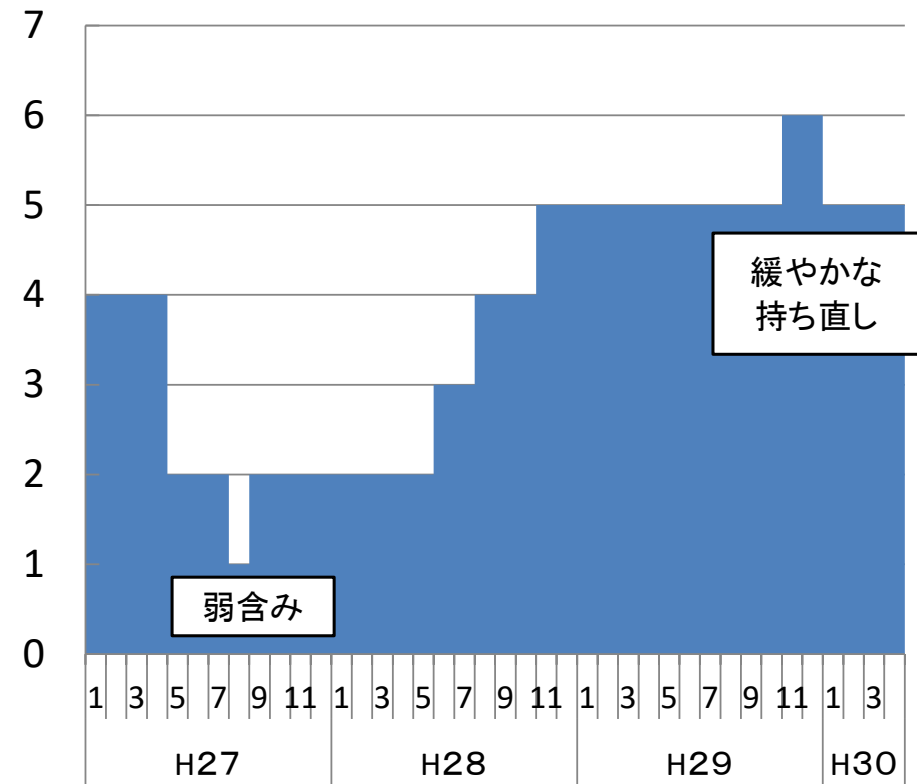
平成30年4月の鉱工業生産の基調判断

「生産は緩やかな持ち直し」

基調判断の推移

- ・平成27年5月～7月
「生産は一進一退」
- ・平成27年8月
「生産は弱含み」
- ・平成27年9月～平成28年5月
「生産は一進一退」
- ・平成28年6月、7月
「生産は一進一退だが、一部に持ち直し」
- ・平成28年8月～10月
「生産は緩やかな持ち直しの動き」
- ・平成28年11月～平成29年10月
「生産は持ち直しの動き」
- ・平成29年11月～平成29年12月
「生産は持ち直している」
- ・平成30年1月～
「生産は緩やかな持ち直し」

基調判断の変化



(注)平成27年8月の「生産は弱含み」を1として、基調判断が上方修正されたら一律で1上昇、下方修正されたら一律で1低下というルールで作成。

**製造工業生産予測指数
平成30年5月調査結果の解説**

平成30年6月14日
経済解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/yosoku/result-1.html>

製造工業生産予測指数（予測指数）とは？

- 製造工業生産予測指数（以下、予測指数）は、製造業の生産状況の計画・見通しを把握するために作成。
- 元データは、生産計画を品目単位で調査する「製造工業生産予測調査」
- 予測調査では、毎月、企業の品目別の「生産計画量」または「見込み量」を具体的な数量で調査し、製造企業の生産計画・見込みを定量的に把握できる。
- 指数化するのは、製造工業全体の動向を示すマクロ指標化のためと、生産計画という秘匿性の情報の保護のため。



政府統計

統計法に基づく国の統計調査です。調査票情報の秘密の保護に万全を期します。

秘 製造工業生産予測調査票

一般統計調査	
提出先	経済産業大臣
提出期日	毎月10日
提出部数	1部

品目番号

前月実績
(月)

当月見込み
(月)

翌月見込み
(月)

SAMPLE

(備考)

製造工業生産予測指数（予測指数）としては、次のようなデータを提供しています。

- 予測指数では、調査月の前月の実績並びに、当月及び翌月の生産計画を指数化
- 各指数値の前月比、前年同月比（前年同月の実績との比較）
- 3の指数の「関係」を計算した「実現率」と「予測修正率」
 - － 実現率とは、前月に予測したその月の見込みの数値から、実績がどれ位変化したのかの変化率
 - － 予測修正率とは、前回調査の翌月予測が、1か月後にどれだけ修正されたかの変化率

製造工業の生産予測指数 時系列

<製造工業：Manufacturing>

平成27年 = 100
index, 2015 = 100

年 月	季節調整済指数			前月比			実現率	予測修正率	原指数			前年同月比			(参考)原指数による		Year and Month	
	Seasonally Adjusted Index			%Change From Previous Month					Realization Ratio	Amendment Ratio	Original Index			%Change From Previous Year				Realization Ratio
	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み			翌月見込み	前月実績	当月見込み	翌月見込み	前月実績	当月見込み		
Last Month	This Month	Next Month	Last Month	This Month	Next Month	Last Month	This Month	Next Month	Last Month	This Month	Next Month	Last Month	This Month	Next Month				
平成29年	3月調査	102.5	101.4	107.6	0.9	▲ 1.1	6.1	▲ 2.0	0.7	101.3	114.2	101.3	5.2	1.4	9.8	▲ 2.0	0.7	Mar. 2017
	4月調査	101.9	107.5	104.6	▲ 0.6	5.5	▲ 2.7	0.5	▲ 0.1	114.7	101.2	98.2	1.9	9.6	8.7	0.4	▲ 0.1	Apr.
	5月調査	106.4	104.5	105.8	4.4	▲ 1.8	1.2	▲ 1.0	▲ 0.1	100.2	98.1	108.9	8.6	8.6	8.3	▲ 1.0	▲ 0.1	May
	6月調査	103.2	105.2	105.2	▲ 3.0	1.9	0.0	▲ 1.2	▲ 0.6	96.8	108.3	106.6	7.2	7.7	6.1	▲ 1.3	▲ 0.6	Jun.
	7月調査	104.7	106.1	108.5	1.5	1.3	2.3	▲ 0.5	0.9	107.8	107.5	102.0	7.2	7.0	8.9	▲ 0.5	0.8	Jul.
	8月調査	104.1	108.6	105.2	▲ 0.6	4.3	▲ 3.1	▲ 1.9	0.1	105.5	102.1	109.9	5.0	9.0	3.6	▲ 1.9	0.1	Aug.
	9月調査	107.3	105.0	108.7	3.1	▲ 2.1	3.5	▲ 1.2	▲ 0.2	100.9	109.7	109.4	7.7	3.4	9.7	▲ 1.2	▲ 0.2	Sep.
	10月調査	104.8	108.8	108.5	▲ 2.3	3.8	▲ 0.3	▲ 0.2	0.1	109.4	109.5	110.3	3.1	9.8	6.8	▲ 0.3	0.1	Oct.
	11月調査	105.8	107.9	111.0	1.0	2.0	2.9	▲ 2.8	▲ 0.6	106.4	109.7	111.3	6.7	6.2	8.2	▲ 2.8	▲ 0.5	Nov.
	12月調査	107.5	110.0	105.8	1.6	2.3	▲ 3.8	▲ 0.4	▲ 0.9	109.3	110.3	103.3	5.8	7.2	5.9	▲ 0.4	▲ 0.9	Dec.
平成30年	1月調査	108.6	104.6	108.9	1.0	▲ 3.7	4.1	▲ 1.3	▲ 1.1	108.9	102.1	106.6	5.8	4.7	5.2	▲ 1.3	▲ 1.2	Jan. 2018
	2月調査	102.6	108.4	107.1	▲ 5.5	5.7	▲ 1.2	▲ 1.9	▲ 0.5	100.1	106.1	118.6	2.7	4.7	3.4	▲ 2.0	▲ 0.5	Feb.
	3月調査	106.0	107.7	112.0	3.3	1.6	4.0	▲ 2.2	0.6	103.8	119.3	106.2	2.5	4.0	6.0	▲ 2.2	0.6	Mar.
	4月調査	108.8	112.2	110.4	2.6	3.1	▲ 1.6	1.0	0.2	120.5	106.4	104.6	5.1	6.2	8.1	1.0	0.2	Apr.
	5月調査	108.8	109.1	108.2	0.0	0.3	▲ 0.8	▲ 3.0	▲ 1.2	103.2	103.4	109.6	3.0	6.8	1.7	▲ 3.0	▲ 1.1	May

予測指数は、実は2つの使い方（解釈）ができます。

- （1） 鉱工業生産指数の**将来の**伸び率の予測値
- （2） 企業の生産活動に対する**現在の**姿勢（マインド）

平成30年5月調査結果

季節調整済指数

5月見込	6月予測		前月比 当月見込	前月比 翌月予測		実現率	予測修正率
109.1	108.2		0.3%	-0.8%		-3.0%	-1.2%

(2) の使い方

原指数 (季節調整前)

5月見込	6月予測		前年同月比 当月見込	前年同月比 翌月予測
103.4	109.6		6.8%	1.7%

(1) の使い方

(1) 鋳工業生産指数の将来の伸び率の予測値

- 予測指数の前月比や前年同月比は、鋳工業指数の将来の伸びの目安となる。
- 前月比の「当月見込み」は、予測調査実施月の翌月末に公表される鋳工業生産の前月比の目安となる。
- 前月比の「翌月見込み」は、予測調査実施月の翌々月末に公表される鋳工業生産指数の前月比の目安となる。
- 予測指数自体は、将来の鋳工業指数の予測値にはならないことに注意。
- また、見込み伸び率には、傾向的なバイアスがあることが分かっているので、利用に当たっては注意が必要。
- 実現率が、このバイアスの大まかな目安になります。
- より精緻なバイアス補正については、後述します。

(2) 企業の生産活動に対する現在の姿勢（マインド）

- 予測指数（原指数）の前年同月（実績）比は、マインドの目安になる。
- 大きくプラスであれば、前年実績より計画が強気になっている。
- 大きくマイナスであれば、前年実績より計画が弱気になっている。

- 予測修正率は、1か月の経過後に、生産計画をどのように修正したかを表す。
- プラスであれば、生産計画を上方修正しているので「強気」と解釈。
- マイナスであれば、生産計画を下方修正しているので「弱気」と解釈。

- より精緻なマインド指標（アニマルスピリッツ指標）の試作については、後述します。

第一部

I I P 生産指数の伸び率予測としての予測指数

5月調査から計算される当月、翌月の生産伸び率

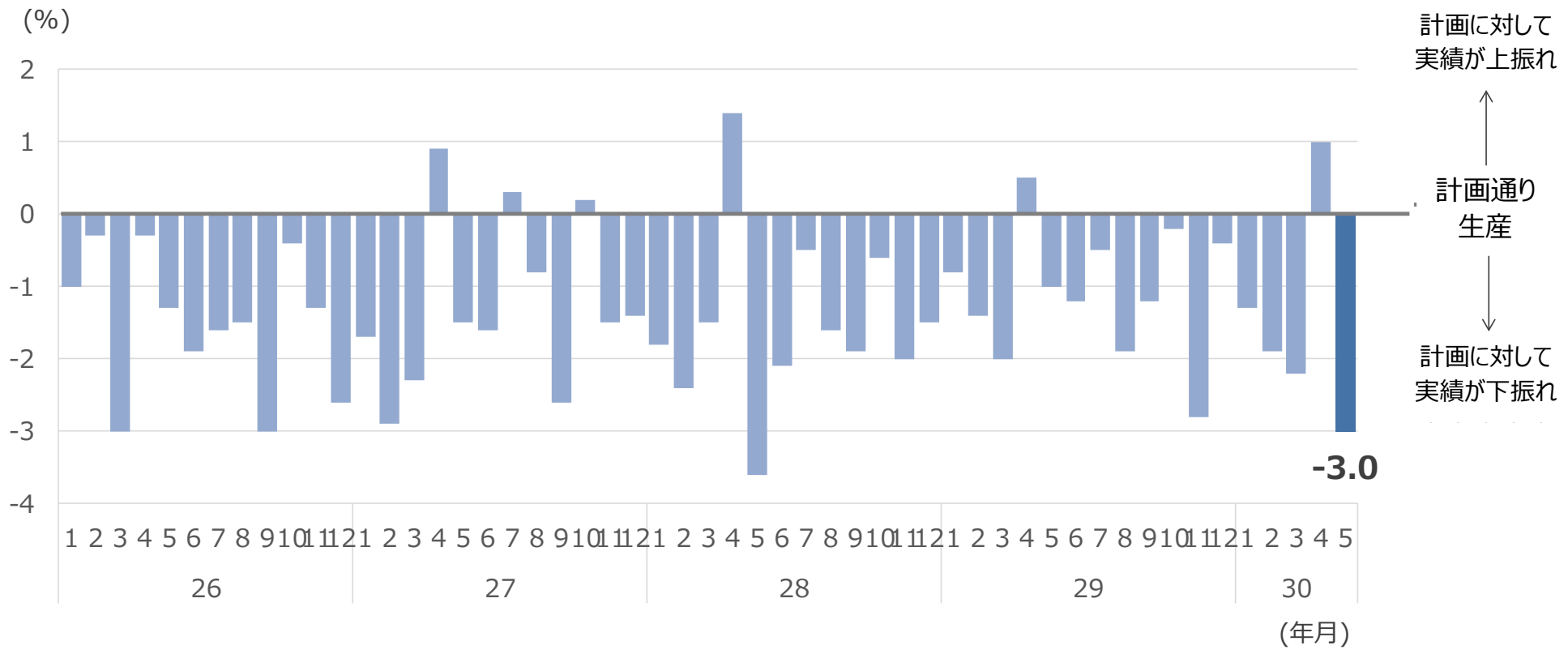
- 5月見込み（前年同月比）は6.8%上昇と、生産計画の水準は前年と比べて高い。
- 試算値ベースでの5月見込み（前年同月比）でも4.2%上昇と、生産計画の水準は前年と比べて高い。

	5月見込	6月予測
前月比	0.3	-0.8
前年同月比	6.8%	1.7%

- (注) 1. 5月の前月比とは、4月の生産実績に対する伸び率
2. 6月の前月比とは、5月の生産計画に対する伸び率
3. 前年同月比とは、前年同月生産実績に対する生産計画の伸び率

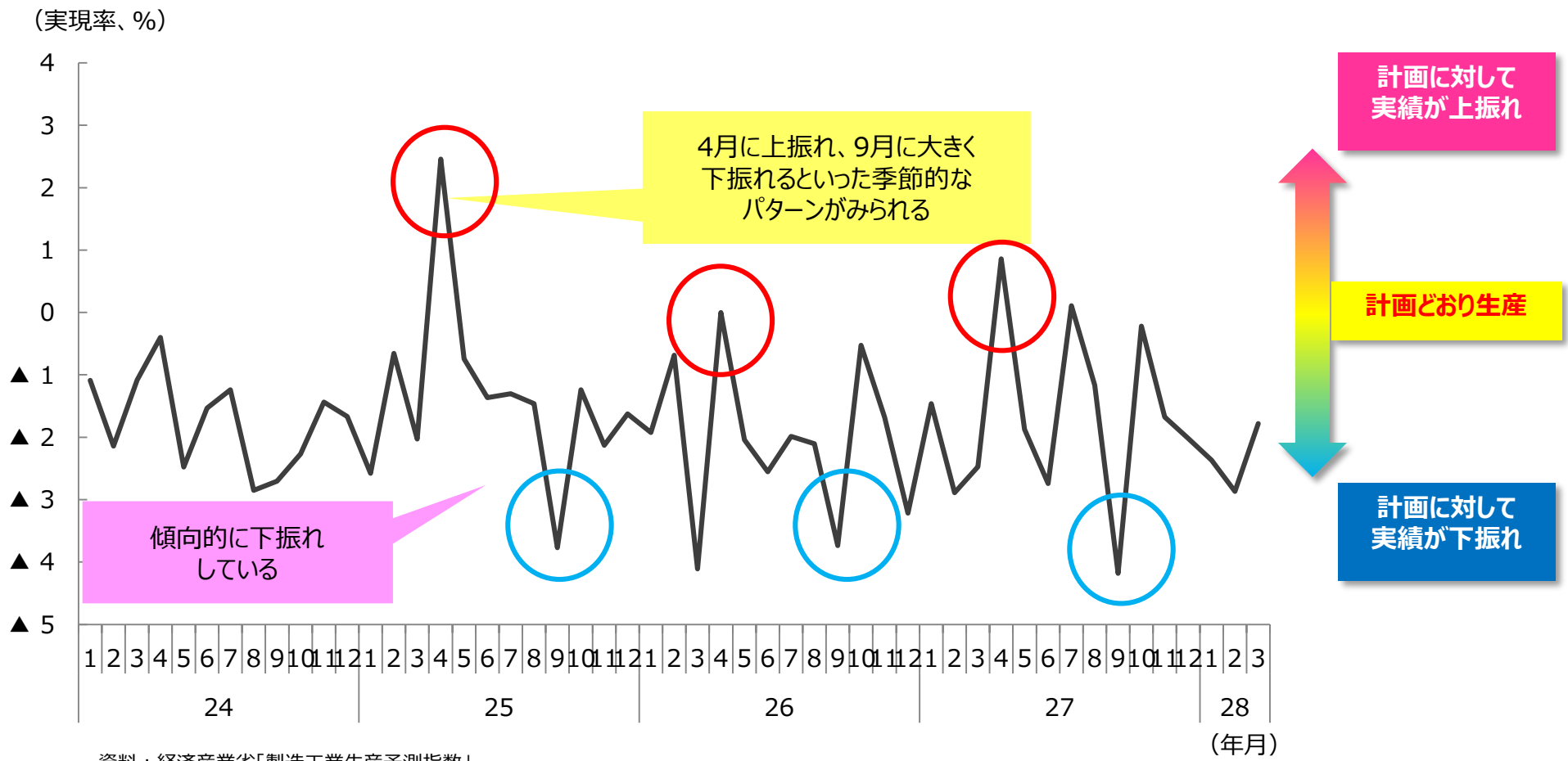
実現率の推移

- 生産計画と生産実績の比率である、実現率は、ほとんどの調査においてマイナスです。つまり、実績は計画から下振れします。
- 予測調査結果そのままの伸び率では、多くの場合、過大予測となります。



予測指数の「クセ」について

実現値率の折線グラフをみると、4月には計画に対して実績が上振れ、9月には計画に対して実績が大きく下振れるといった季節的なパターンや、計画に対して実績が傾向的に下振れしているといった特徴があります。このクセや傾向を統計的に補正することができます。



資料：経済産業省「製造工業生産予測指数」

平成30年5月調査結果の当月見込み補正試算の結果

- 5月見込みの補正前月比では、 -1.3% 前後の低下が見込まれる計算。
- 5月見込みの補正前年同月比では、 4.2% 前後の上昇が見込まれる計算。

	補正值	調査値
前月比	-1.3% ($-2.3\% \sim -0.3\%$)	0.3%
前年同月比	4.2%	6.8%

- (注) 1. 上段の数値が、最も可能性の高い値（最頻値）。最頻値とならない場合でも、（ ）の幅の中に90%の確率で収まるという計算結果になっている。
2. この試算値は、製造工業生産予測指数がもつ傾向的な部分を修正し、実際の鉱工業指数の動きをより適切に把握できるようにしたものです。
- 詳細は、[ミニ経済分析「企業の生産計画は実績をどれくらい予見できているかー製造工業生産予測指数の上方バイアスを補正する試みー」](#)を御覧ください。

平成30年5月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種	計画前月比
生産用機械工業	6.6%
電気・情報通信機械工業	5.4%
汎用・業務用機械工業	5.0%
金属製品工業	3.9%
化学工業	0.9%
パルプ・紙・紙加工品工業	2.7%
石油製品工業	1.6%

低下寄与業種	計画前月比
その他	-0.4%
鉄鋼・非鉄金属工業	-2.9%
電子部品・デバイス工業	-6.0%
輸送機械工業	-7.0%

(注) 低下寄与業種は、一番下が最も低下寄与（影響度）が大きくなるように並んでいます。

平成30年6月生産計画の寄与順位表

上昇寄与業種	計画前月比
鉄鋼・非鉄金属工業	3.1%
輸送機械工業	0.8%
電子部品・デバイス工業	1.6%
汎用・業務用機械工業	0.4%
低下寄与業種	計画前月比
パルプ・紙・紙加工品工業	-1.4%
石油製品工業	-3.7%

低下寄与業種	計画前月比
その他	-1.1%
生産用機械工業	-0.9%
金属製品工業	-3.3%
電気・情報通信機械工業	-1.8%
化学工業	-4.3%

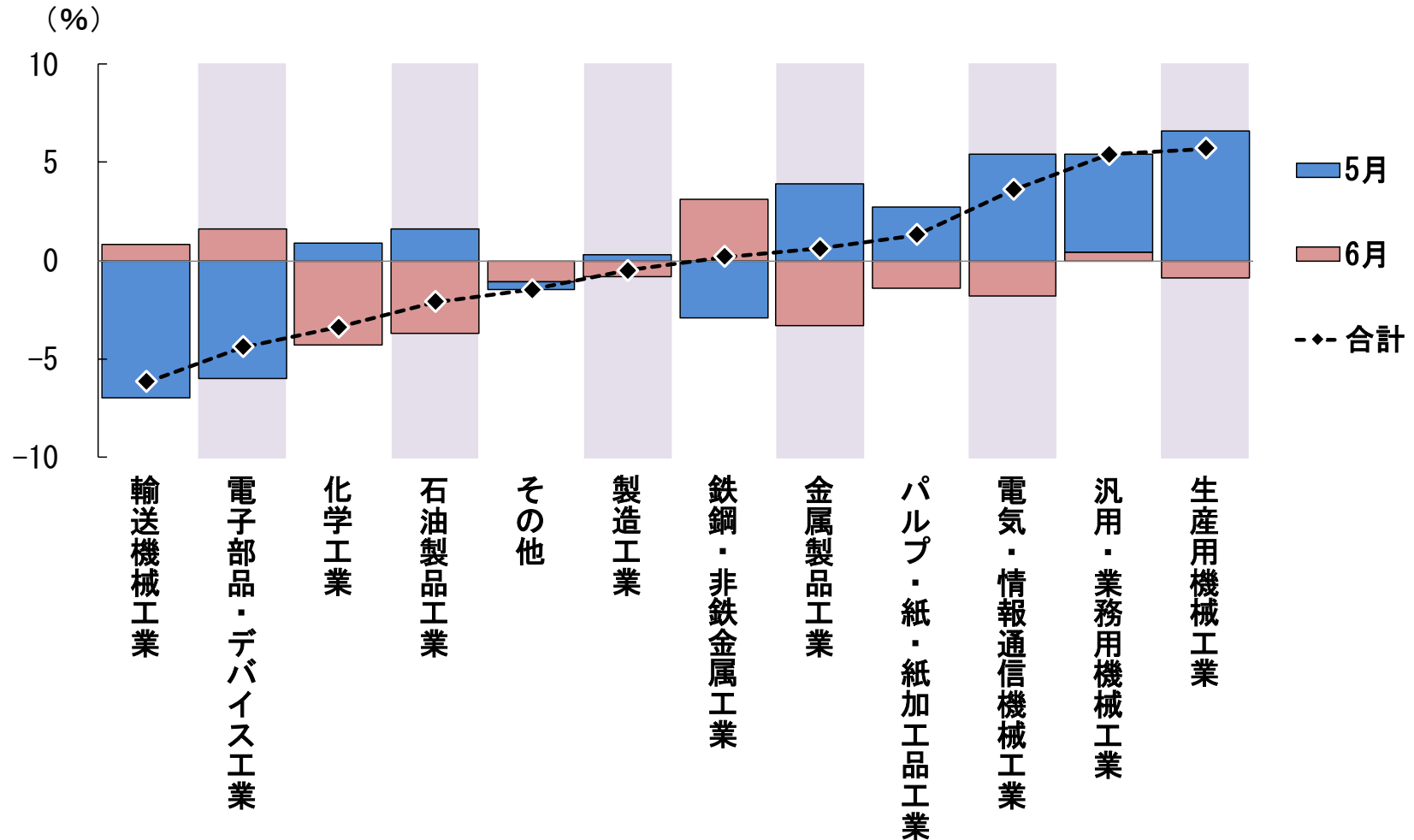
(注) 低下寄与業種は、一番下が最も低下寄与（影響度）が大きくなるように並んでいます。

向こう2か月の生産が伸びる業種は、どの業種か？

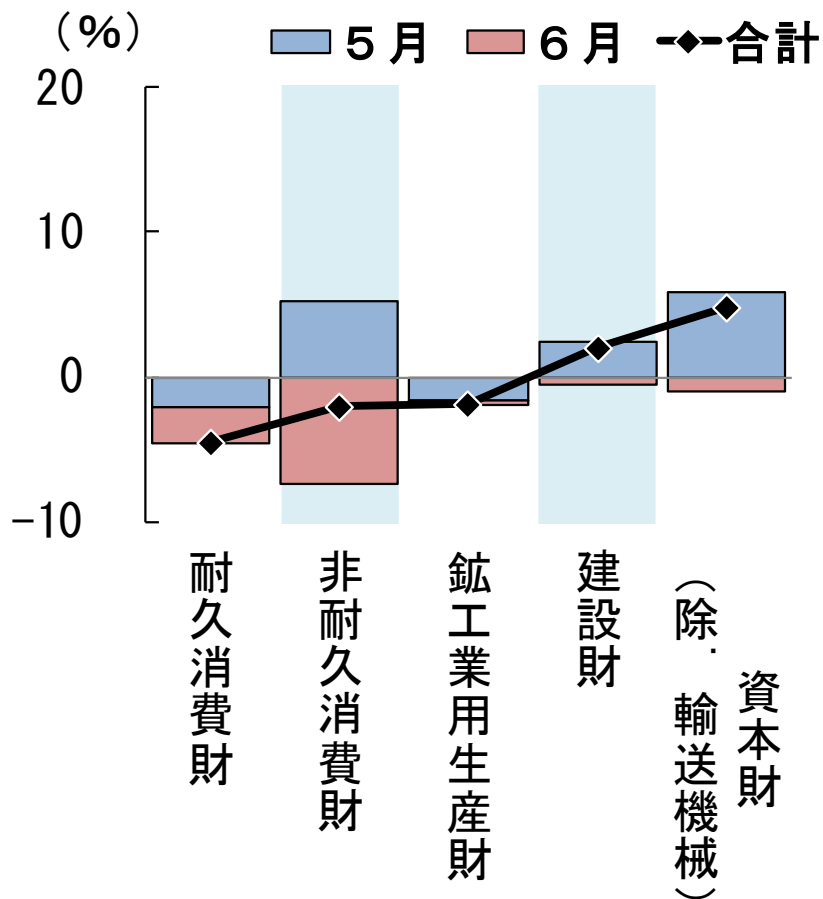
- 生産予測調査から分かる業種別の当月生産計画の伸び率と翌月生産計画の伸び率を重ねると、各業種の実績計画が、向こう2か月間でどれ位伸びるかが予測できます。
- 仮に、当月の伸びが高くても、翌月の伸びが小さければ、向こう2か月の伸びとしては、それ程ではないかも知れません。逆もありえるので、特に翌月見込みの評価は、当月見込みの伸び率と合わせて評価する必要があります。
- 向こう2か月の伸び率合計の小さい順に左から並べることにより、製造工業全体よりも伸びの低い業種、伸びの高い業種を把握することができます。

業種別に当月と翌月の生産予測を積み上げた伸び率予測

- 5月は、輸送機械工業等が低下する一方、生産用機械工業等は上昇。



財別の生産計画の調査結果



単位 (%)

分類	5月 見込み	6月 見込み
資本財 (除. 輸送機械)	5.8 (-3.5)	-1.0
建設財	2.5 (-1.0)	-0.5
耐久消費財	-2.1 (-4.1)	-2.5
非耐久消費財	5.3 (2.9)	-7.4
鉱工業用生産財	-1.7 (-0.9)	-0.2

※ () 内は前月調査による前月比を示す。

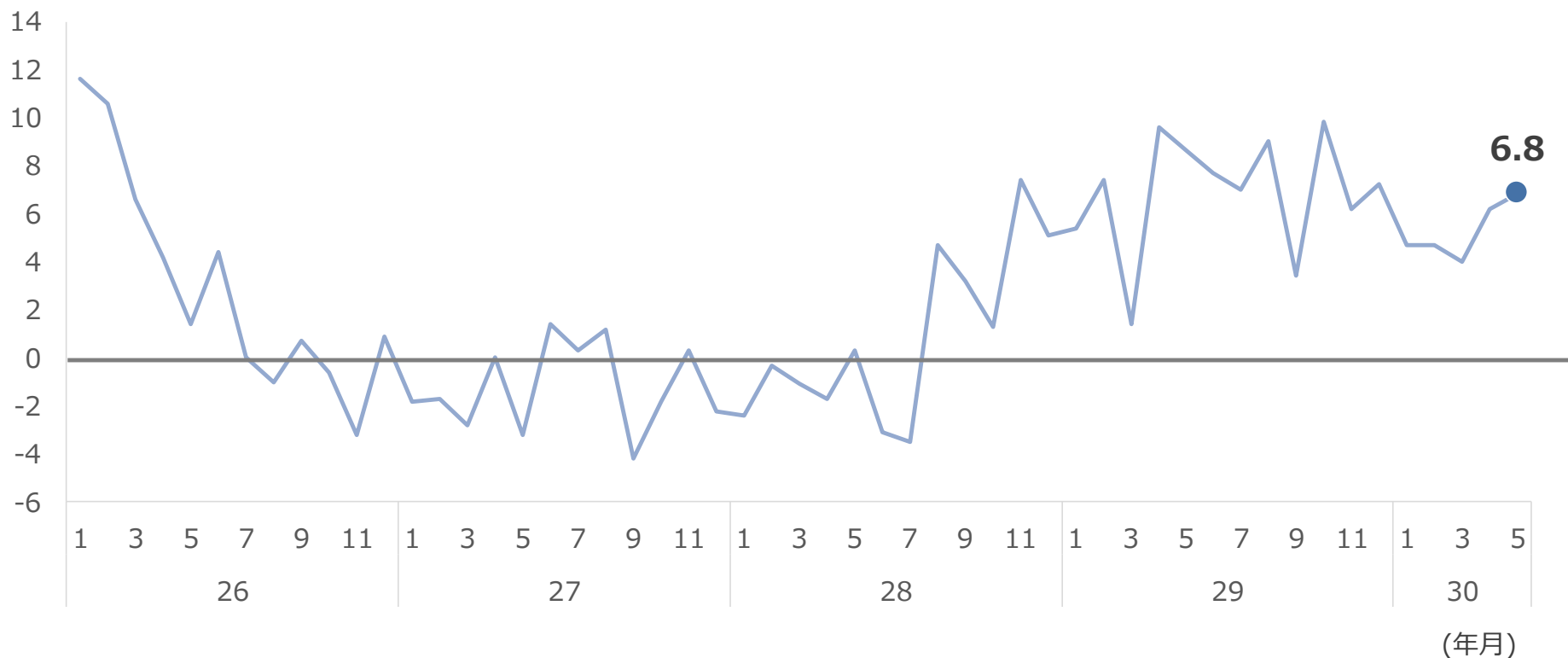
第二部

企業の主観的状況（マインド）を表す指標としての の予測指数

生産予測指数の前年同月実績比の推移

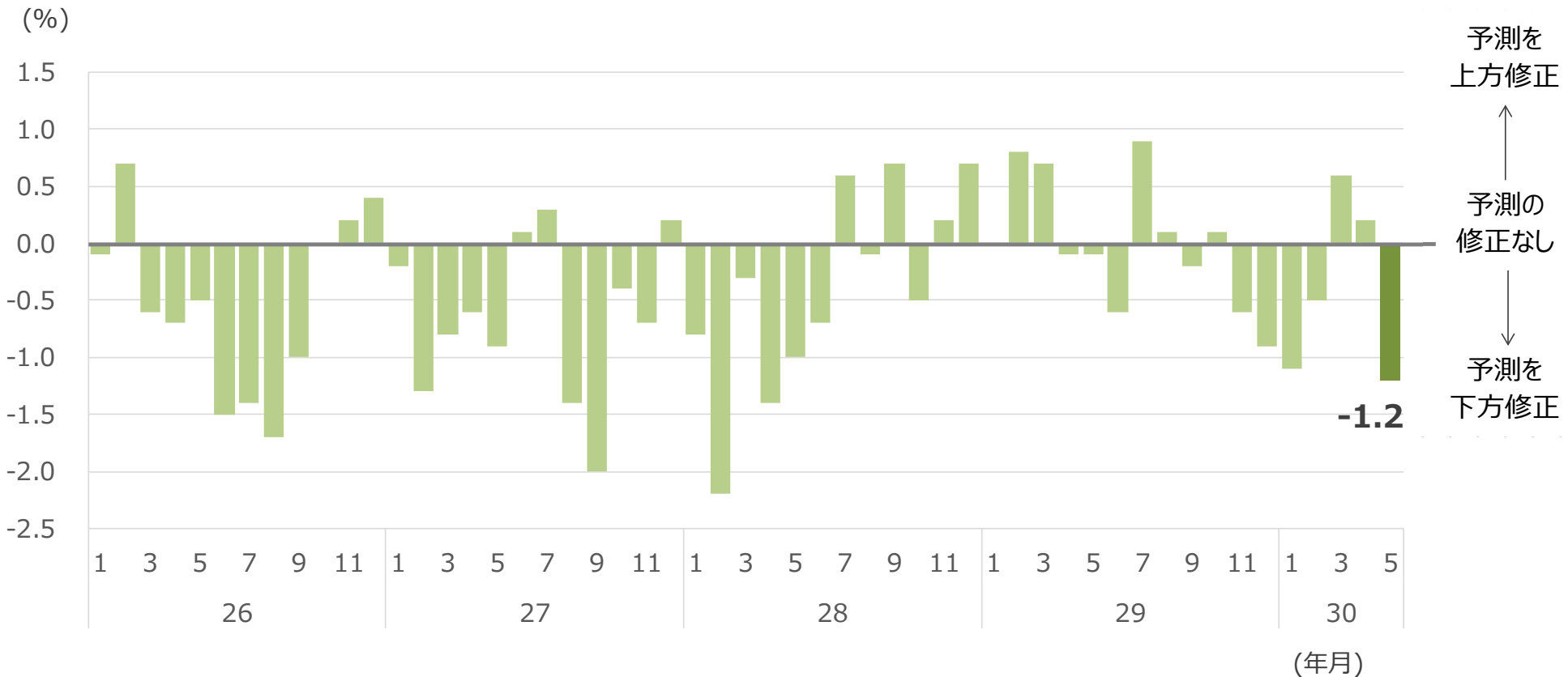
- 5月（当月）の生産予測指数（前年同月実績比）は6.8%上昇と、22か月連続の上昇を見込む。前年実績に比べて、高めの生産計画が続いている。

(前年同月実績比、%)



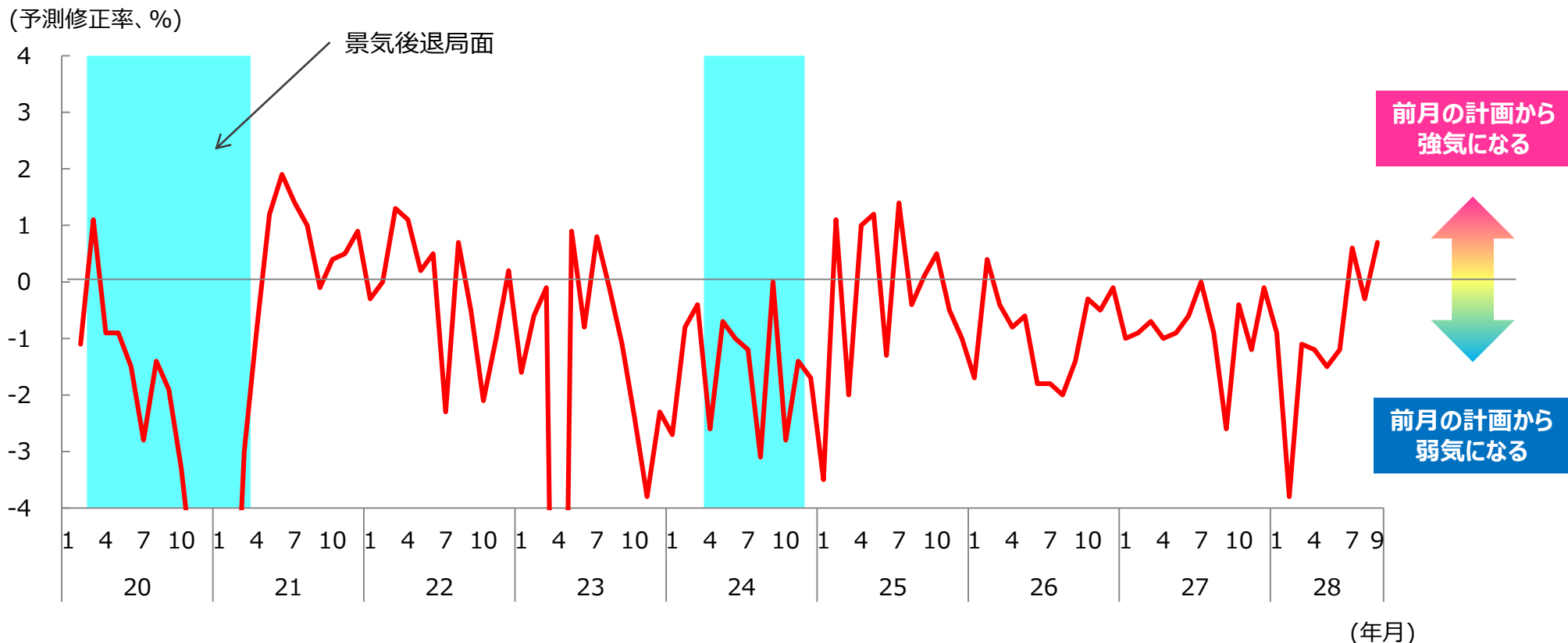
予測修正率の推移

• 今回の調査では、3か月ぶりに生産計画が-1.2%下方修正されている。



マインド指標としての予測修正率の限界

- 予測修正率がプラス方向であれば、前月の計画から強気となっており、マイナス方向なら弱気となっていると見ることができる。
- ただ、回答の「クセ」として下方バイアスがあり、また、付加価値ウェイトで集計されているため、ウェイトの高い産業・製品の動向や特徴が反映されやすく、必ずしも「多数者」のマインド変化を表していると言えない面もある。



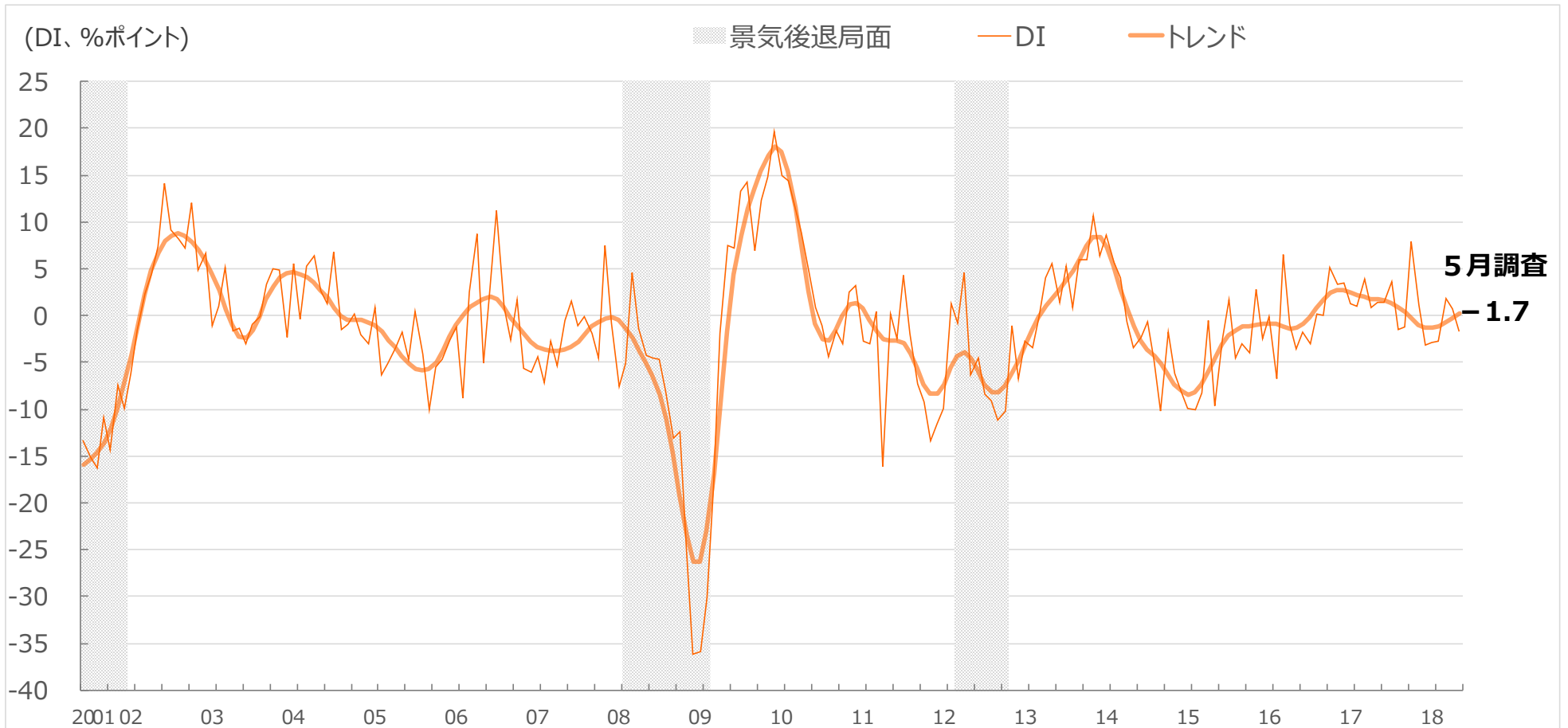
アニマルスピリッツ指標とは

製造工業生産予測調査を用いて、企業が前月時点の生産計画から今月の生産計画を引き上げた場合を「強気」としてカウントし、逆に引き下げた場合を「弱気」としてカウントして、「強気」の割合から「弱気」の割合を差し引いたDIを試算しています。

なお、このDIは、景気循環と重ね合わせて見ると、“-5”を下回ると景気後退局面にある可能性が高いということが分かっています。

アニマルスピリッツ指標（DI）

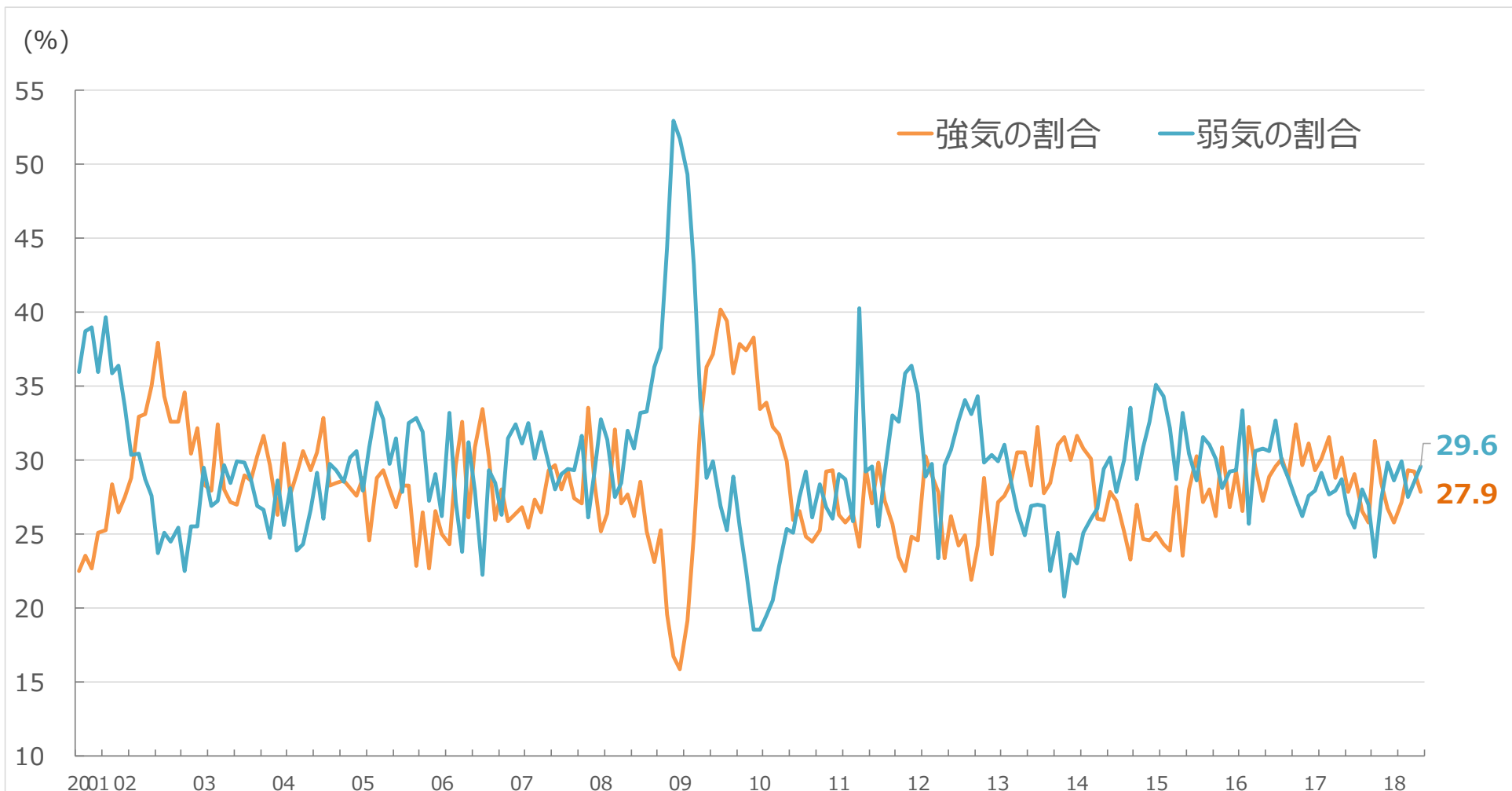
- 5月調査結果のDIは-1.7（前月の0.7から低下）。



- (注) 1. グレーのシャドー部分は、景気後退期
2. 企業が前月時点の生産計画から今月の生産計画を引き上げた場合を「強気」としてカウントし、逆に引き下げた場合を「弱気」としてカウントして、「強気」の割合から「弱気」の割合を差し引いたDIを試算、
3. このDIは、景気循環と重ね合わせて見ると、“-5”を下回ると景気後退局面にある可能性が高いということが分かっている。詳細は、[「企業のアニマルスピリッツ」を計測する（2016/10/26ミニ経済分析）](#)と、[企業の「アニマルスピリッツ」の見える化に挑戦しました（2016/12/2ひと言解説）](#)をご覧ください。

強気と弱気の比率の変化

- 5月調査結果のDIの内訳をみると、強気が27.9%、弱気が29.6%となっている。



補正方法やマインド指標作成方法については、こちら

予測指数の補正方法については、
三二経済分析「企業の生産計画は実績をどれくらい予見できているか
—製造工業生産予測指数の上方バイアスを補正する試み—」

<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai/kako/20160404minikeizai.html>

アニマルスピリッツ指標については、
三二経済分析「企業の「アニマルスピリッツ」を計測する」

<http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/minikeizai/kako/20161026minikeizai.html>

旬の産業データはこちら



http://www.meti.go.jp/statistics/toppage/report/keizaikaiseki_toppage.html